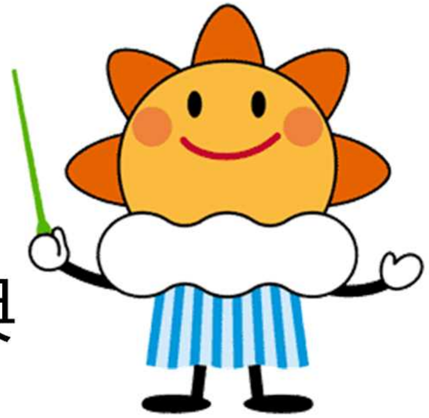
令和7年度下期運輸防災セミナー
（2025.12.3）

雪に関する防災気象情報等

名古屋地方気象台
広域防災管理官　須山　英典



気象庁のマスコットキャラクター
“**はれるん**”

本日お話する内容

- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- 大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報
- 気象情報の入手方法

本日お話する内容

- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- 大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報
- 気象情報の入手方法

東海地方　3か月予報（12月～2月）2025年11月25日14時発表

12月～02月	降水量	降水量は、少ない確率50%です。
12月	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 岐阜県山間部では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
	降水量	降水量は、少ない確率50です。
01月	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 岐阜県山間部では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
02月	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 岐阜県山間部では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率（%）

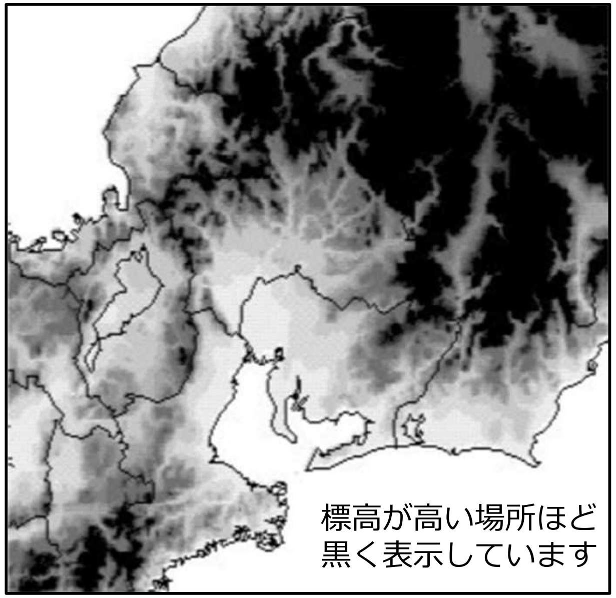
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	東海地方	12月～02月	30	30	40
		12月	30	30	40
		01月	30	40	30
		02月	30	40	30
降水量	東海地方	12月～02月	50	30	20
		12月	50	30	20
		01月	40	40	20
		02月	40	40	20

■ 低い(少ない)　■ 平年並　■ 高い(多い)

本日お話する内容

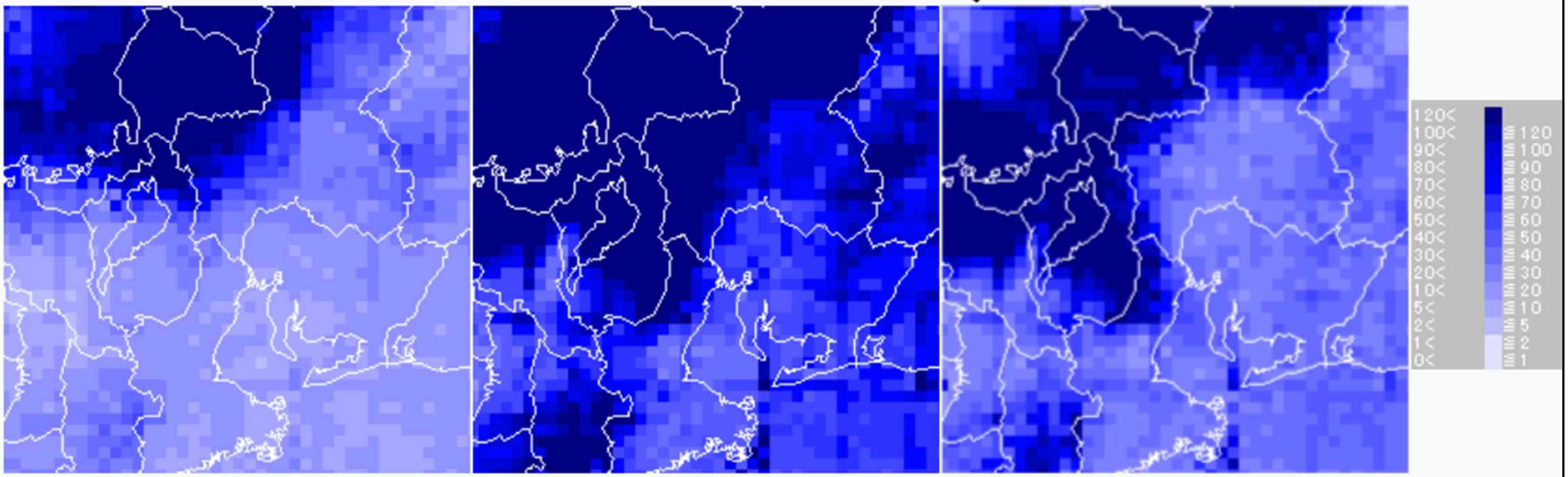
- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- 大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報
- 気象情報の入手方法

降雪の特徴



愛知県内で積雪となるのは、日本付近に強い寒気が南下して、北西の季節風が強まる場合がほとんどで、南岸低気圧による積雪もありますが、回数は多くありません。

上空の風が、北西よりやや西よりの場合。　上空の風が、北西の場合。　上空の風が、北西よりやや北よりの場合。



例１
若狭湾からの流れ込みも岐阜県が中心で、愛知県にはほとんど流れ込みはない。

例２
愛知県内に、最も流れ込みやすいケース。尾張地方や東三河山間部で多くなる。

例３
若狭湾からの流れ込みは三重県中心で、愛知県では三重県境の一部に流れ込みがある。

本日お話する内容

- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- 大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報
- 気象情報の入手方法

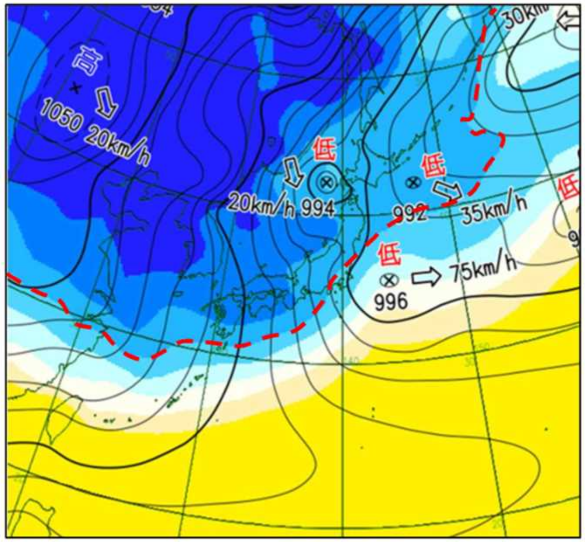
2025年2月4日から9日にかけての大雪事例

◆ 概況

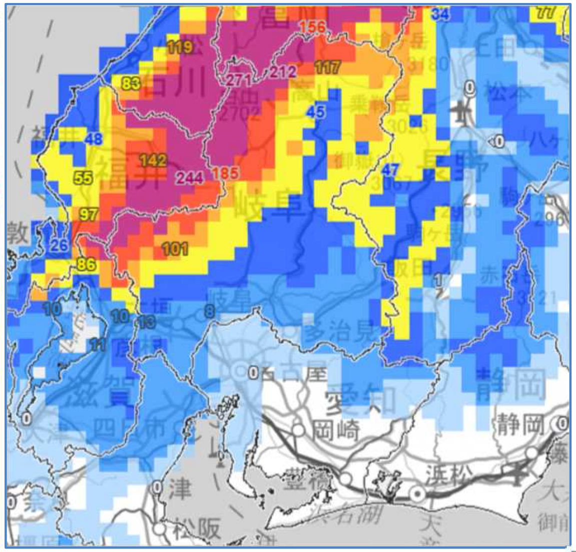
2月4日から9日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置が続き、上空約1500メートルには氷点下9度以下の寒気が流れ込んだ。

このため、岐阜県では山地を中心に記録的な大雪となり、8日からは愛知県や三重県でも警報級の大雪となった。

大雪の影響について中部地方整備局、中部運輸局、道路管理者等と合同で投げ込みや、会見を実施し道路利用者等へ警戒を呼びかけた。



2月8日03時 地上天気図
（赤破線は上空約1500mで-9℃）



2月8日11時の積雪の深さ

○警報の発表状況

岐阜県美濃地方	2月4日12:02～6日09:58、7日16:20～8日09:58
岐阜県飛騨地方	2月4日15:50～6日09:58、7日16:20～8日09:58
愛知県西部	2月8日10:31～13:16
三重県北中部	2月8日09:48～9日03:34

○降雪実況

（岐阜県アメダス）2月4日から9日の24時間・48時間降雪量・最深積雪の期間最大値

アメダス地点	24時間降雪量		48時間降雪量		最深積雪	
	cm	月日 時分(まで)	cm	月日 時分(まで)	cm	月日 時分
飛騨市河合	60	2/5 12:00	91	2/6 04:00	217	2/9 08:00
飛騨市神岡	34	2/9 03:00	59	2/9 02:00	128	2/9 03:00
白川村	85	2/5 05:00	129	2/5 21:00	277	2/8 05:00
高山	25	2/6 01:00	40	2/9 02:00	52	2/9 11:00
郡上市長滝	49	2/6 03:00	88	2/6 12:00	186	2/8 19:00
本巣市樽見	65	2/5 04:00	110	2/6 06:00	105	2/8 14:00
関ケ原	21	2/9 01:00	25	2/9 23:00	20	2/9 02:00
岐阜	10	2/9 01:00	11	2/8 23:00	10	2/8 10:00

本日お話する内容

- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- **大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報**
- 気象情報の入手方法

大雪のおそれに応じて段階的に発表する気象情報

気象状況

- 14日前～6日前
- 大雪の数日～約1日前　大雪の可能性が高くなる
- 大雪の半日～数時間前
- 大雪の数時間～2時間程度前
- 大雪となる
- 雪の降り方が一層激しくなり、記録的な大雪のおそれがある
- 広い範囲で数十年に一度の大雪

気象庁の情報・対応

情報	対応
早期天候情報	大雪に関する早期天候情報<冬季の日本海側>（その時期としては10年に1度程度しかおきないような著しい降雪量となる可能性が高まっているときに注意を呼びかけ）
早期注意情報（警報級の可能性）	大雪に関する気象情報（概ねの対象地域や予想降雪量を示して、大雪となる可能性を共有）
大雪注意報	
大雪警報に切り替える可能性が高い大雪注意報 !	記者会見（大雪により社会的に影響が大きいと予想される場合に実施）
	大雪に関する気象情報（大雪に対する警戒を呼びかけ）
大雪警報	（大雪に対する一層の警戒を呼びかけ） 大雪に関する気象情報（大雪に対する厳重な警戒を呼びかけ） 降雪が大雪警報の基準を大幅に上回る場合や、普段雪の少ない地域で大雪警報級の降雪が予想される場合 顕著な大雪に関する気象情報（短時間の大雪に対する一層の警戒を呼びかけ） 重大な災害の発生する可能性が高まり、一層の警戒が必要となるような短時間の大雪となることが見込まれる場合
大雪特別警報	記者会見（大雪に対する最大級の警戒を呼びかけるために実施）

他機関との連携

- 大雪に対する緊急発表（国交省と共同）
- 状況に応じ随時関係機関と協議して報道対応など実施

大雪による被害

- ・鉄道の間引き運転（少雪地）
- ・高速道路の通行止
- ・交通機関の運休
- ・立ち往生車両の発生
- ・農業用ハウスや簡易的な建物の倒壊
- ・幹線道路の通行止
- ・孤立集落の発生
- ・大規模な交通渋滞
- ・住宅の倒壊

大雪に関する早期天候情報

名古屋地方気象台
Nagoya Local Meteorological Office

- その時期としては10年に1度程度しか起きないような著しい降雪量（冬季の日本海側）となる可能性が、いつもより高まっているときに、6日前までに注意を呼びかける情報です。
- 6日先から14日先までの期間で、5日間降雪量がかなり多くなる可能性が高まっていると判断した時に発表します。最新の気象情報に留意してください。

大雪または雪に関する早期天候情報の発表地域

※11月～3月の毎週月曜日と木曜日に発表の検討を行います。「かなり多い」降雪となっても大雪までに至らないような、降雪期のはじめや終わりには、「雪に関する早期天候情報」として発表します。
※寒候期に限り「岐阜県山間部」（美濃地方山間部と飛騨地方）を使用します。

低温と大雪に関する早期天候情報（東海地方）
令和５年１２月１４日１４時３０分
名古屋地方気象台　発表

東海地方　１２月２０日頃から　かなりの低温
かなりの低温の基準：５日平均地域気温平年差－２．２℃以下

岐阜県山間部　１２月２０日から　大雪
大雪の基準：５日合計地域降雪量平年値２８９%以上

　東海地方の気温は、１６日頃にかけては暖かい空気が流れ込みやすいため、かなり高くなるでしょう。その後は、冬型の気圧配置が強まり寒気の影響を受けやすいため平年並か低く、２０日頃からはかなり低くなる可能性があります。気温の変動が大きい見込みです。また、２０日頃からは、岐阜県山間部を中心に降雪量がかなり多くなる可能性があります。
　農作物の管理等や水道管の凍結に注意するとともに、除雪などの対応に留意してください。また、今後の気象情報等に留意してください。
＜参考＞
この期間の主な地点の５日間降雪量の平年値は、以下のとおりです。

地点	平年値
白川	３９センチ
高山	１４センチ
長滝	２５センチ

早期注意情報（警報級の可能性）

- 警報級の現象が5日先までに予想されているときには、その可能性を「早期注意情報（警報級の可能性）」として［高］、［中］の2段階で発表します。
- 警報級の現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶなど社会的影響が大きいため、可能性が高いことを表す［高］だけでなく、可能性が高くないが一定程度認められることを表す［中］も発表します。
- 府県気象情報の内容と合わせて確認してください。

（例）

2025年2月4日17時00分発表

愛知県西部の早期注意情報(警報級の可能性)

愛知県西部		02/04 17:00発表					02/04 17:00発表			
種別		4日	5日				6日	7日	8日	9日
		明け方まで		朝～夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	－		－						
	1時間最大雨量（ミリ）	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	－	－	－	－
	3時間最大雨量（ミリ）	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大雨量（ミリ）		50以下							
大雪	警報級の可能性	[中]		[中]						
	6時間最大降雪量（センチ）	2 山地では4	3 山地では10	3 山地では8	2 山地では3	1 山地では3	－	－	－	－
	24時間最大降雪量（センチ）		10から20							
暴風(暴風雪)	警報級の可能性	－		－						
	陸上 最大風速（メートル）	13	13	13	13	13	－	－	－	－
	海上 最大風速（メートル）	17	17	16	16	16				
波浪	警報級の可能性	－		－			－	－	－	－
	波高（メートル）	1.5	1.5	1.5	1.5	1				
高潮	警報級の可能性	－		－			－	－	－	－

2025年2月5日05時00分発表

岐阜県飛騨地方の早期注意情報(警報級の可能性)

岐阜県飛騨地方		02/05 05:00発表					02/04 17:00発表		
種別		5日			6日		7日	8日	9日
		夕方まで		夜～明け方		朝～夜遅く			
		6-12	12-18	18-24	0-6	6-24			
大雨	警報級の可能性	－		－		－			
	1時間最大雨量（ミリ）	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下	－	－	－
	3時間最大雨量（ミリ）	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下			
	24時間最大雨量（ミリ）				50以下				
大雪	警報級の可能性	[高]		[高]		[高]			
	6時間最大降雪量（センチ）	10 山地では25	10 山地では25	10 山地では25	10 山地では25	10 山地では25	[中]	[中]	－
	24時間最大降雪量（センチ）				50から70				
暴風(暴風雪)	警報級の可能性	－		－		－	－	－	－
	最大風速（メートル）	9以下	9以下	9以下	9以下	9以下			

大雪に関する気象情報

- 気象情報は、警報や注意報に先立って注意を呼びかけたり、警報や注意報の内容を補足するために発表します。早期注意情報（警報級の可能性）と合わせて確認してください。

大雪に関する愛知県気象情報　第１１号
令和７年２月８日０５時４８分　名古屋地方気象台発表
（見出し）
愛知県では、**８日昼前にかけて**大雪となる所があるでしょう。
大雪や路面の凍結による交通障害に注意・警戒してください。

いつまでに、何に注意・警戒すべきか

（本文）
［気象概況］
日本付近は強い冬型の気圧配置となっており、東海地方の上空約５０００メートルには、氷点下３３度以下の強い寒気が流れ込んでいます。強い冬型の気圧配置は９日にかけて続く見込みです。

［雪の実況］
８日０５時現在の積雪の深さ（速報値）
一宮市大毛　５センチ
蟹江市蟹江本町　３センチ
名古屋市千種区　１センチ

現在の積雪状況

［雪の予想］
８日６時から９日６時までに予想される２４時間降雪量は多いところで
西部山地　１０センチ
西部平地　５センチ
東部山地　１０センチ
東部平地　５センチ

予想される降雪量

［防災事項］
大雪や路面の凍結による交通障害に注意・警戒し、ビニールハウスなどの農業施設の被害に注意してください。また、交通機関の乱れなどが予想されますので、時間に余裕をもった行動に心がけてください。

［補足事項］
今後発表する防災情報に留意してください。
次の「大雪に関する愛知県気象情報」は８日１２時頃に発表する予定です。

大雪に対する緊急発表

- 普段とは異なる顕著な降雪や猛吹雪が予想される場合、普段降雪が少ない地域においてまとまった降雪が予想される場合など、大規模な車両滞留や長時間の通行止めを引き起こすおそれのある大雪が予想される場合には、国土交通省と気象庁が共同して記者会見を開き、車両の立ち往生などに対して一層の警戒を呼びかけます。
- 中部地方整備局、中部運輸局、高速道路事業者と気象台で共同して記者会見や記者発表を行い警戒を呼びかけます。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和7年2月3日
中部地方整備局
中　部　運　輸　局
名古屋地方気象台
中日本高速道路(株)
名古屋高速道路公社

大雪による通行止めの可能性の高い区間について

～4日から8日頃にかけて大雪続く～

○4日から8日頃にかけて冬型の気圧配置が強まり、日本の上空にはこの冬一番の強い寒気が流れ込む見込みです。岐阜県の山地では警報級の大雪となり、平地でも警報級の大雪となるおそれがあります。8日頃にかけて冬型の気圧配置が続くため、積雪が増えるおそれがあります。最新の気象情報に留意してください。【別紙1】

○降雪状況によっては高速道路や直轄国道の通行止めを行う可能性があり

大雪警報・注意報

- 警報は、重大な災害が発生するような警報級の現象がおおむね3～6時間先に予想されるときに発表することとしています。
- 警報級の現象がおおむね6時間以上先に予想されているときには、警報の発表に先立って、警報に切り替える可能性が高い注意報を発表することとしています。
- 隣接県の大雪警報、着雪やなだれ等の注意報にも留意してください。

2025年2月4日13時36分発表

高山市　[継続]大雪，雷，なだれ，着雪注意報
4日夜遅くまでに大雪警報に切り替える可能性が高い

高山市 発表中の警報・注意報等の種別		今後の推移(警報級 注意報級) 4日 12-15	15-18	18-21	21-24	5日 0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	備考・関連する現象
大雪	山地										12時間最大降雪量50センチ 以後も警報級 降雪による交通障害
	平地										12時間最大降雪量20センチ 以後も注意報級 降雪による交通障害
雷											以後も注意報級 突風、ひょう
着雪											以後も注意報級
なだれ											6日にかけて 以後も注意報級

2025年2月4日15時50分発表

高山市　[発表]大雪警報
[継続]雷，なだれ，着雪注意報

高山市 発表中の警報・注意報等の種別		今後の推移(警報級 注意報級) 4日 15-18	18-21	21-24	5日 0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	備考・関連する現象
大雪	山地										12時間最大降雪量50センチ 以後も警報級 降雪による交通障害
	平地										12時間最大降雪量20センチ 以後も注意報級 降雪による交通障害
雷											以後も注意報級 突風、ひょう
着雪											以後も注意報級
なだれ											6日にかけて 以後も注意報級

2021年10月17日（表示例）

大雪に対して一層の警戒を呼びかける気象情報

大雪に関する気象情報（大雪に対する厳重な警戒を呼びかけ）

降雪が大雪警報の基準を大幅に上回る場合や、普段雪の少ない地域で大雪警報級の降雪が予想され、重大な災害の発生の可能性が高まり、一層の警戒が必要となる場合に発表する情報

- 厳重な警戒を呼びかける、文章形式または見出し文のみの短文形式の気象情報

顕著な大雪に関する気象情報（短時間の大雪に対する一層の警戒を呼びかけ）

重大な災害の発生する可能性が高まり、一層の警戒が必要となるような短時間の大雪となることが見込みまれる場合に発表する気象情報

- 降雪量（実況値）と今後の見通しを記載した短文形式の気象情報
- 令和元年12月から、新潟県、富山県、石川県、福井県、福島県（会津地方）、山形県で運用を開始し、令和3年12月からは、滋賀県、兵庫県、京都府、広島県、岡山県、島根県、鳥取県で運用を開始しています。

【発表の目安】

対象	6時間降雪の深さが警報基準の地域		12時間降雪の深さが警報基準の地域	
	3時間（観測）	6時間（予測）	6時間（観測）	12時間（予測）
北陸地方、山形県、近畿地方、中国地方	20～25センチ	30～40センチ	20～45センチ	25～70センチ
福島県（会津）	3時間降雪量20～25センチまたは6時間降雪量30～40センチを観測、24時間降雪量80～110センチに到達すると予測した場合			

目安は地域の最小値と最大値を表記していますので、個々の観測地点ごとに値が異なります。観測実況値はアメダス等の値を使います。
過去の交通障害などと、そのときの観測値を検証して発表の目安を設定します。目安は情報の効果を検証して適宜、見直します。

- 令和6年12月から岐阜県で運用を開始しました。

【発表目安】
アメダス関ヶ原で降雪量が3時間で20センチ以上を観測し、かつ、その後も警報級の降雪が見込まれる場合

（発表例）
顕著な大雪に関する岐阜県気象情報　第●●号
令和6年〇〇月〇〇日△△時△△分　岐阜地方気象台発表

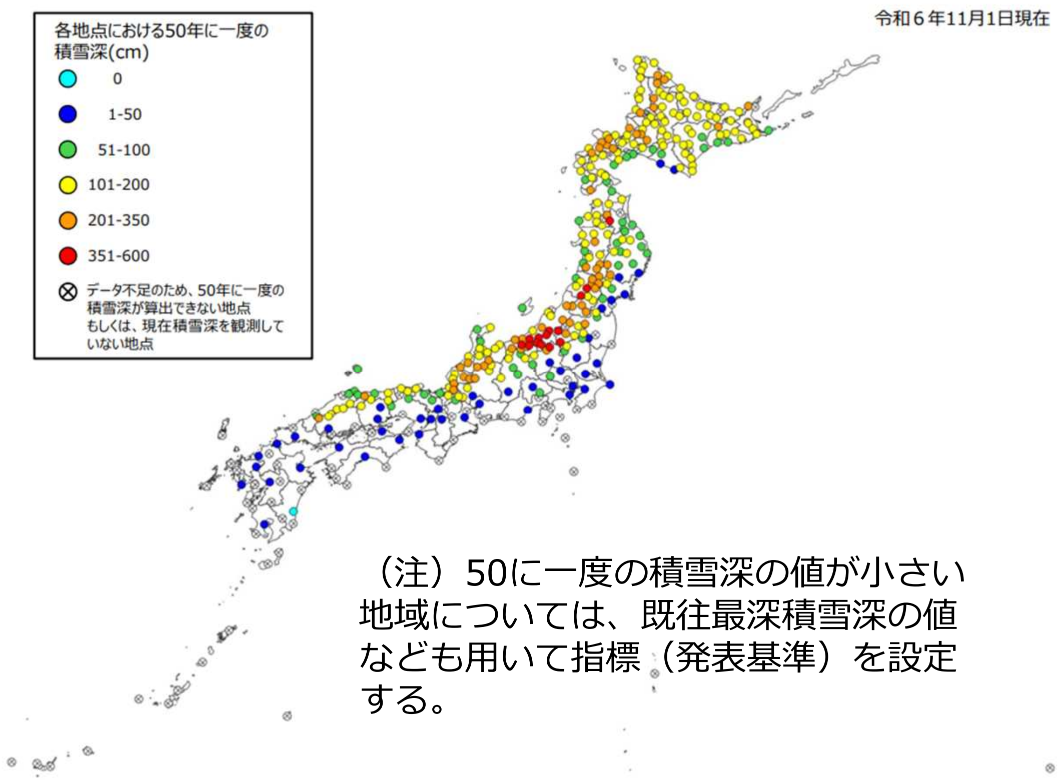
（見出し）
関ケ原では、〇日〇時までの3時間に20センチの顕著な降雪を観測しました。この強い雪は〇日昼過ぎにかけて続く見込みです。関ケ原町付近の平地では、大規模な交通障害の発生するおそれが高まっています。

（本文）
なし

大雪特別警報

● 府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想される場合に、大雪特別警報を発表します。

「50年に一度の積雪深」を地図上に色分けした図



（注）50に一度の積雪深の値が小さい地域については、既往最深積雪深の値なども用いて指標（発表基準）を設定する。

指標（発表条件）を満たす主な事例

昭和38年1月豪雪	死者・行方不明者　231人 住家全半壊　1,735棟 床上・床下浸水　6,978棟
昭和56年豪雪	死者・行方不明者　152人 住家全半壊　466棟 床上・床下浸水　8,097棟

「50年に一度の積雪深」の地点別一覧
（東海地方の地点の一部）

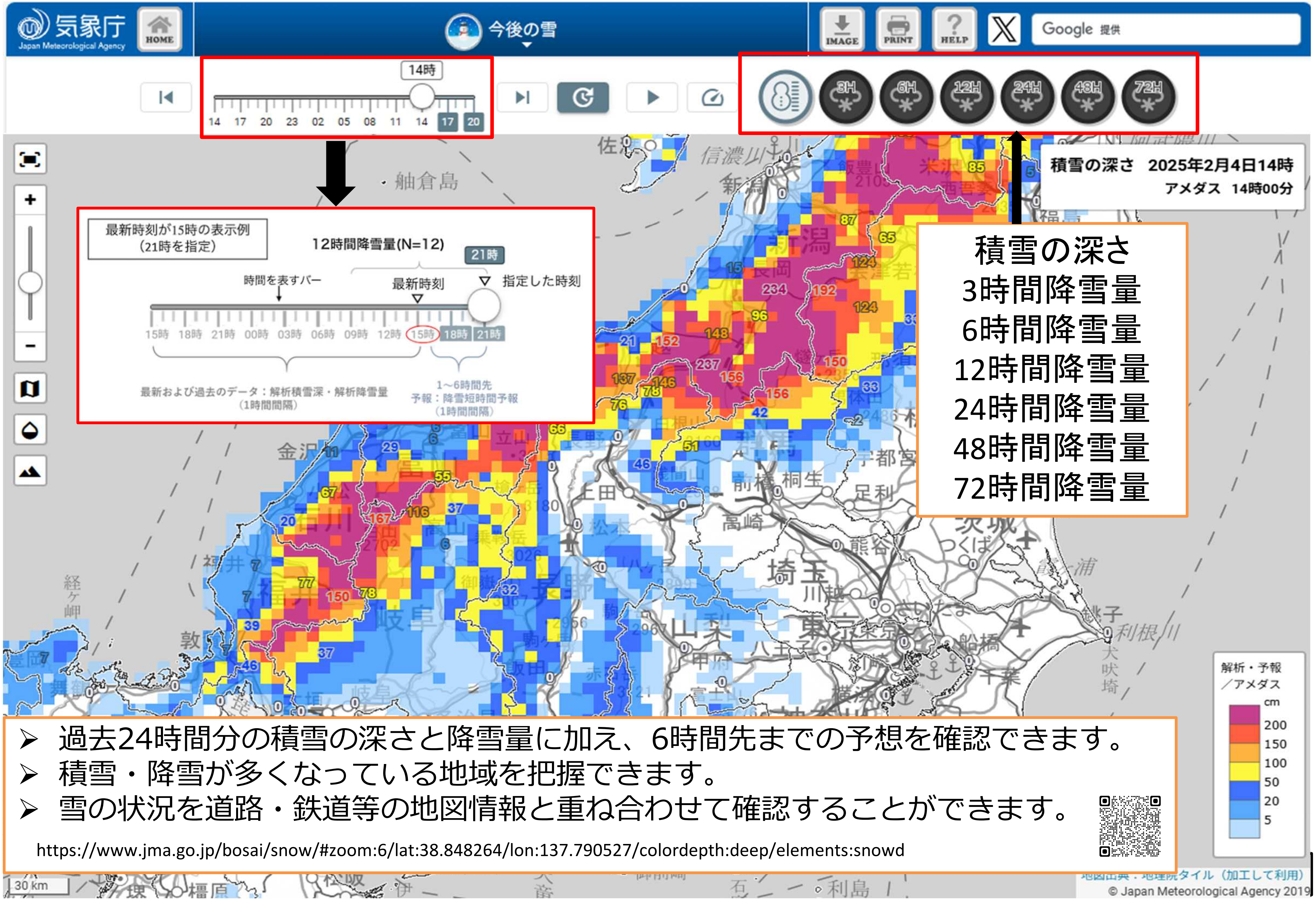
地点名	50年に一度の積雪深（cm）	既往最深積雪（cm）
高山	110	128
岐阜	41	58
静岡	1＊	10
名古屋	23＊	49
津	12＊	26

＊：積雪深がゼロの年もあり、50年に一度の値の信頼性が低いため、参考値として扱う。

本日お話する内容

- 東海地方の3か月予報（12月～2月）
- 降雪の特徴
- 2025年2月4日から9日にかけての大雪事例
- 大雪のおそれに応じて段階的に発表する防災気象情報
- 気象情報の入手方法

今後の雪（降雪短時間予報）

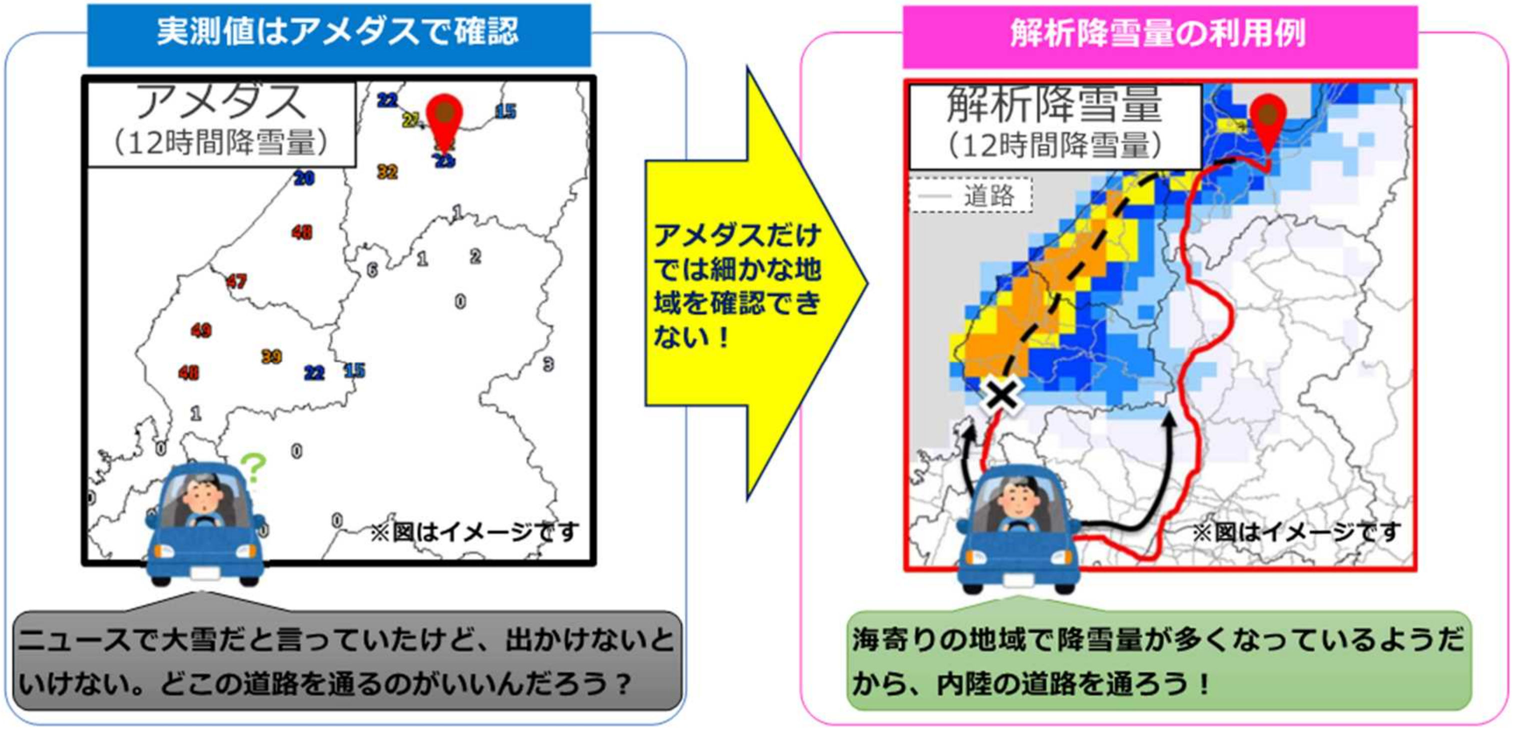


- 過去24時間分の積雪の深さと降雪量に加え、6時間先までの予想を確認できます。
- 積雪・降雪が多くなっている地域を把握できます。
- 雪の状況を道路・鉄道等の地図情報と重ね合わせて確認することができます。

https://www.jma.go.jp/bosai/snow/#zoom:6/lat:38.848264/lon:137.790527/colordepth:deep/elements:snowd

今後の雪（降雪短時間予報）の活用例

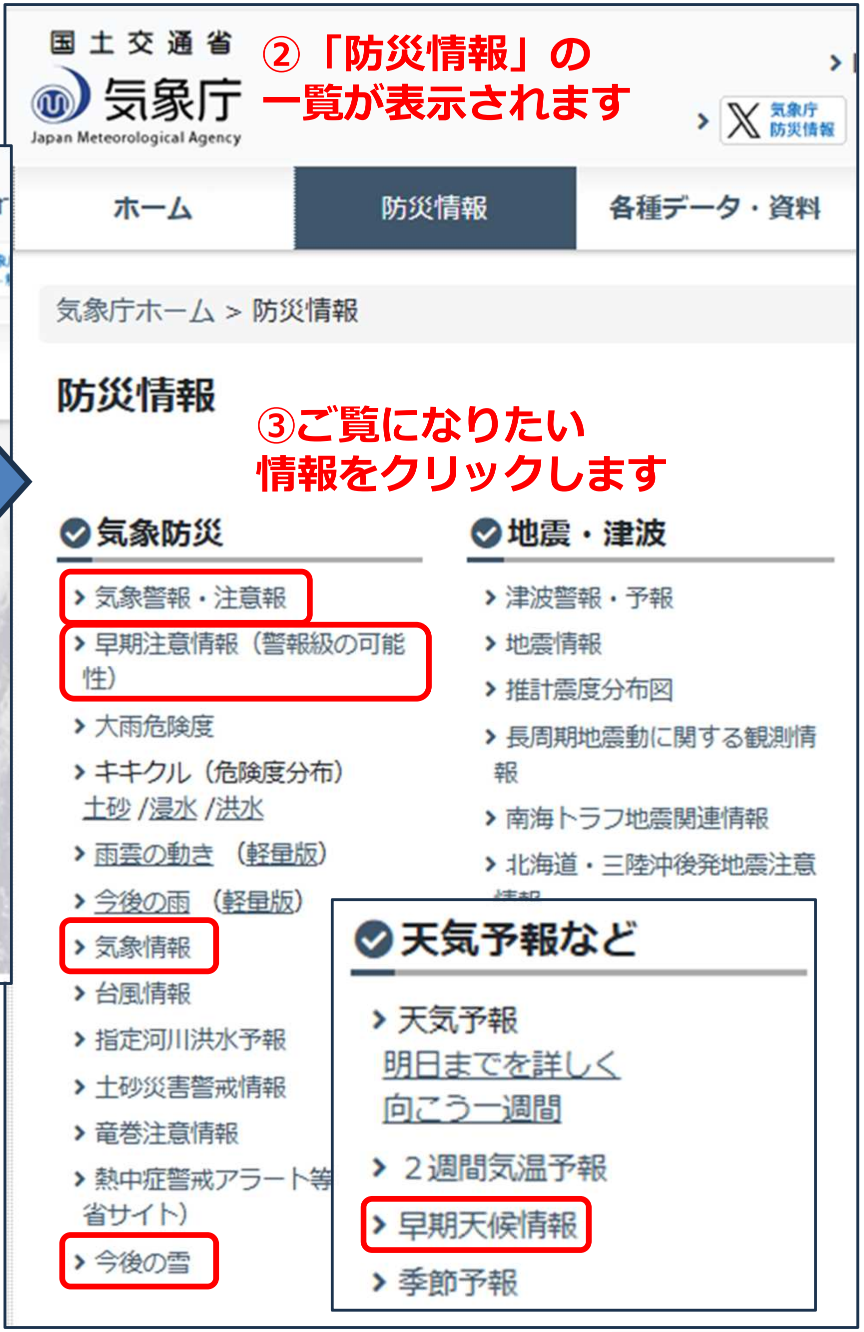
- 「今後の雪」のページでは、積雪・降雪が多くなっている地域を把握できます。
- 「今後の雪」のページでは、雪の状況を道路・鉄道等の地図情報と組み合わせて確認することができます。
- 外出前に「今後の雪」のページと交通情報や目的地の情報を組み合わせて確認することで、経路の変更や除雪などの交通障害への備え、予定や計画等様々に活用いただけます。



【利用上の留意点】
約5km四方の格子内の平均的な値であるため、格子ひとつひとつの値を直接的に利用するのではなく、上図の例のように積雪・降雪のおおまかな分布を把握するためにご利用ください。

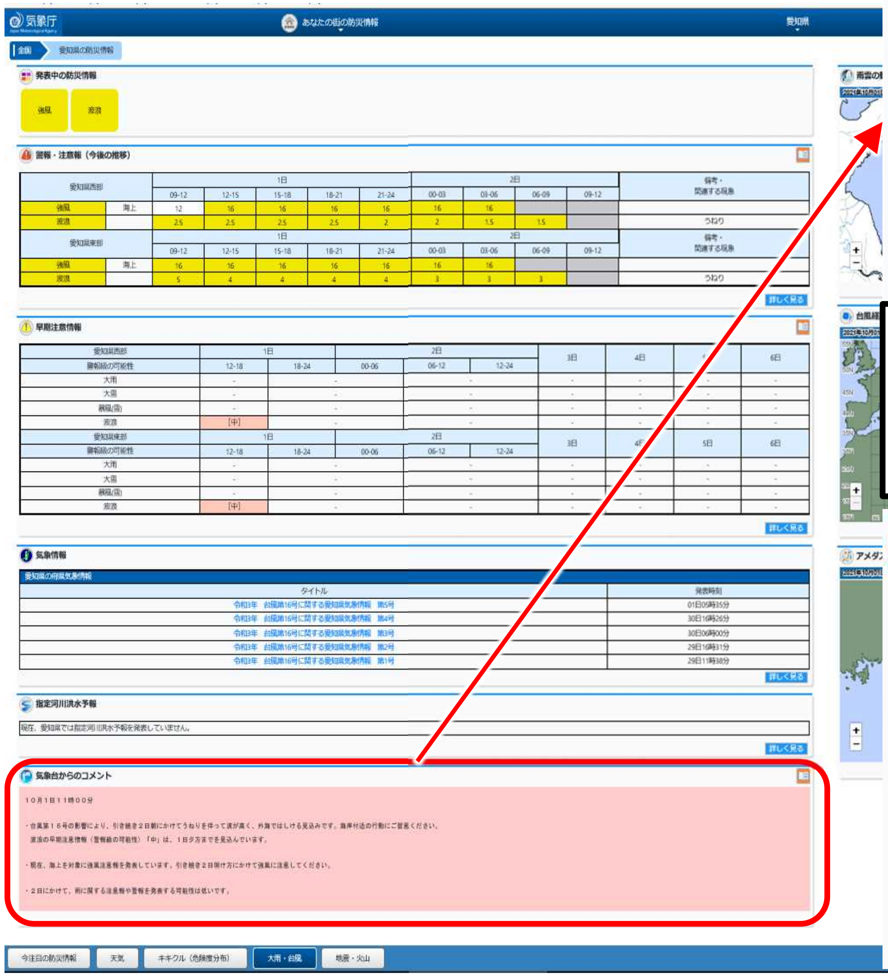
気象庁ホームページで気象情報の確認を

https://www.jma.go.jp/jma/index.html



気象庁ホームページで気象情報の確認を

- 「気象台からのコメント」を気象庁ホームページで見ることができます。
- 早めの防災体制構築等の防災対応に役立てていただけるよう、現場の予報官等の最新の解説を確認することができます。



気象台からのコメント

１０月１日１１時００分

・台風第１６号の影響により、引き続き２日朝にかけてうねりを伴って波が高く、外海ではしける見込みです。海岸付近の行動にご注意ください。
波浪の早期注意情報（警報級の可能性）「中」は、１日夕方までを見込んでいます。

・現在、海上を対象に強風注意報を発表しています。引き続き２日明け方にかけて強風に注意してください。

・２日にかけて、雨に関する注意報や警報を発表する可能性は低いです。

警報級の可能性の期間、警報・注意報の解除・継続等今後の見通し、発表中の情報等の補足や留意すべきことを記述します。

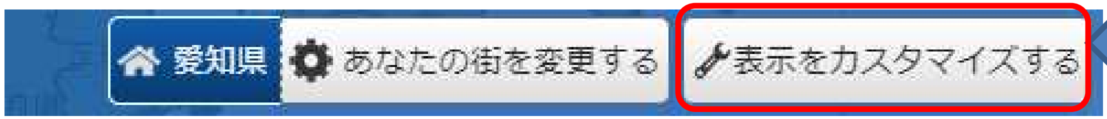
「気象台からのコメント」の背景色

背景色	コメントで解説する内容
淡い赤紫	特別警報発表中
淡い赤	警報発表中、もしくは明後日までの早期注意情報（警報級の可能性）に［高］がある。
淡い黄	注意報発表中、もしくは明後日までの早期注意情報（警報級の可能性）に［中］がある。
白	警報・注意報なし、かつ明後日までの早期注意情報（警報級の可能性）が［－］。

※淡い黄色を対象とする注意報の種類は、大雨・大雪・高潮です。

https://www.jma.go.jp/bosai/#pro&disp=forecaster_comment,&area_type=offices&area_code=230000&row=b4&col=rd

➢ ホームページの表示をカスタマイズする



①画面右下の「表示をカスタマイズする」をクリックし、左下の「⚙」をクリック。

②「コンテンツ一覧」から表示又は削除したい情報を選んでください。

③「＋現在の状態を新規保存」をクリック。

「地域名＋表示コンテンツ数」をダブルクリックすると名前を入力できます。

④「⚙」クリック

⑤ブックマークに登録すれば次回からこの表示で見られます。

※登録前に「カスタマイズを破棄する」を押すと消えるので注意！

気象庁ホームページで気象情報の確認を

➤ スマートフォンからの入手とカスタマイズ

①

「防災気象情報」をタップ

②

画面右上の「▦」をタップ

③

画面右下の「⚙」をタップ

④

「コンテンツ一覧」から
必要な情報を選択

⑤

「＋現在の状態を新規保存」
をタップ

⑥

⑦

画面右下の「⚙」をタップ

⑧

お気に入りに登録すれば、次から登録した情報が表じされます

令和8年出水期から防災気象情報が大きく変わります

現状	洪水		大雨		高潮
	指定河川洪水予報	一般向けの洪水警報等	浸水害	土砂災害	
警戒レベル5相当	氾濫発生情報	―	大雨特別警報（浸水害）	大雨特別警報（土砂災害）	高潮氾濫発生情報
警戒レベル4相当	氾濫危険情報	―	―	土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
警戒レベル3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報（浸水害）※1	大雨警報（土砂災害）	高潮警報に切り替える可能性の高い高潮注意報
警戒レベル2	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報（大雨）				早期注意情報（高潮）

※1　大雨警報（浸水害）は警戒レベル相当情報には位置付けられていない

令和8年出水期～（案）	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
	1級河川などの大きな河川の氾濫	低地の浸水や大河川以外の氾濫	急傾斜地のがけ崩れや土石流	海水面の上昇や高波による浸水
警戒レベル5相当	レベル5氾濫特別警報	レベル5大雨特別警報	レベル5土砂災害特別警報	レベル5高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4氾濫危険警報	レベル4大雨危険警報	レベル4土砂災害危険警報	レベル4高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3氾濫警報	レベル3大雨警報	レベル3土砂災害警報	レベル3高潮警報
警戒レベル2	レベル2氾濫注意報	レベル2大雨注意報	レベル2土砂災害注意報	レベル2高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報（大雨）		早期注意情報（土砂災害）	早期注意情報（高潮）

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

防災気象情報に関する検討会報告書「防災気象情報の体系整理と最適な活用に向けて」を踏まえた令和7年6月30日現在案

令和8年出水期から防災気象情報が大きく変わります

- これまで、気象警報・注意報を補足する情報等として伝えてきた様々な気象情報を、**「気象防災速報」と「気象解説情報」の大きく２つのカテゴリーに分類**して発表。
- 線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など、顕著現象が発生または発生しつつある場合にその旨を、「気象防災速報」として速報的に伝える。

気象防災速報 ・・・極端な現象を速報的に伝える情報

現状		今後（令和８年度出水期～）
記録的短時間大雨情報	→	気象防災速報（記録的短時間大雨）
顕著な大雨に関する気象情報	→	気象防災速報（線状降水帯発生）
線状降水帯２～３時間前予測（R8運用開始予定）	→	気象防災速報（線状降水帯直前予測）
顕著な大雪に関する気象情報	→	気象防災速報（短時間大雪）
竜巻注意情報	→	気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）

気象解説情報 ・・・現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報

現状		今後（令和８年度出水期～）
線状降水帯半日前予測	→	気象解説情報（線状降水帯半日前予測）
全般台風情報	→	気象解説情報（台風第○号）
全般/地方/府県気象情報	→	気象解説情報（ ※ ）

※何に着目した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

早期注意情報（警報級の可能性）の主な変更点

(現行)

	1日	2日				3日	4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24				
大雨	［中］		［高］			［中］	―	―	―

(新体系)

	1日	2日				3日		4日	5日	6日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24			
大雨	―	［中］	［高］	［中］	―	―	―	―	―	―
土砂災害	―	［中］	［高］	［高］	［中］	［中］	―			

①

②

① 土砂災害と浸水害を分けずに発表していたものを、令和８年出水期から開始予定の新しい防災気象情報の運用に合わせ、明後日までを対象とした早期注意情報については、土砂災害と大雨に分けて警報級の可能性を発表する。

② 上記に加えて、明後日までを対象とした早期注意情報の時間幅を以下のとおり変更する。

- 明日までは、12時間または18時間の時間幅で発表していたものを6時間の幅で発表
- 明後日については、１日の時間幅であったものを午前・午後に分けて発表

早期注意情報をうまく活用して災害への心構えを！

ご清聴ありがとうございました

道路の予防的通行規制の取組等

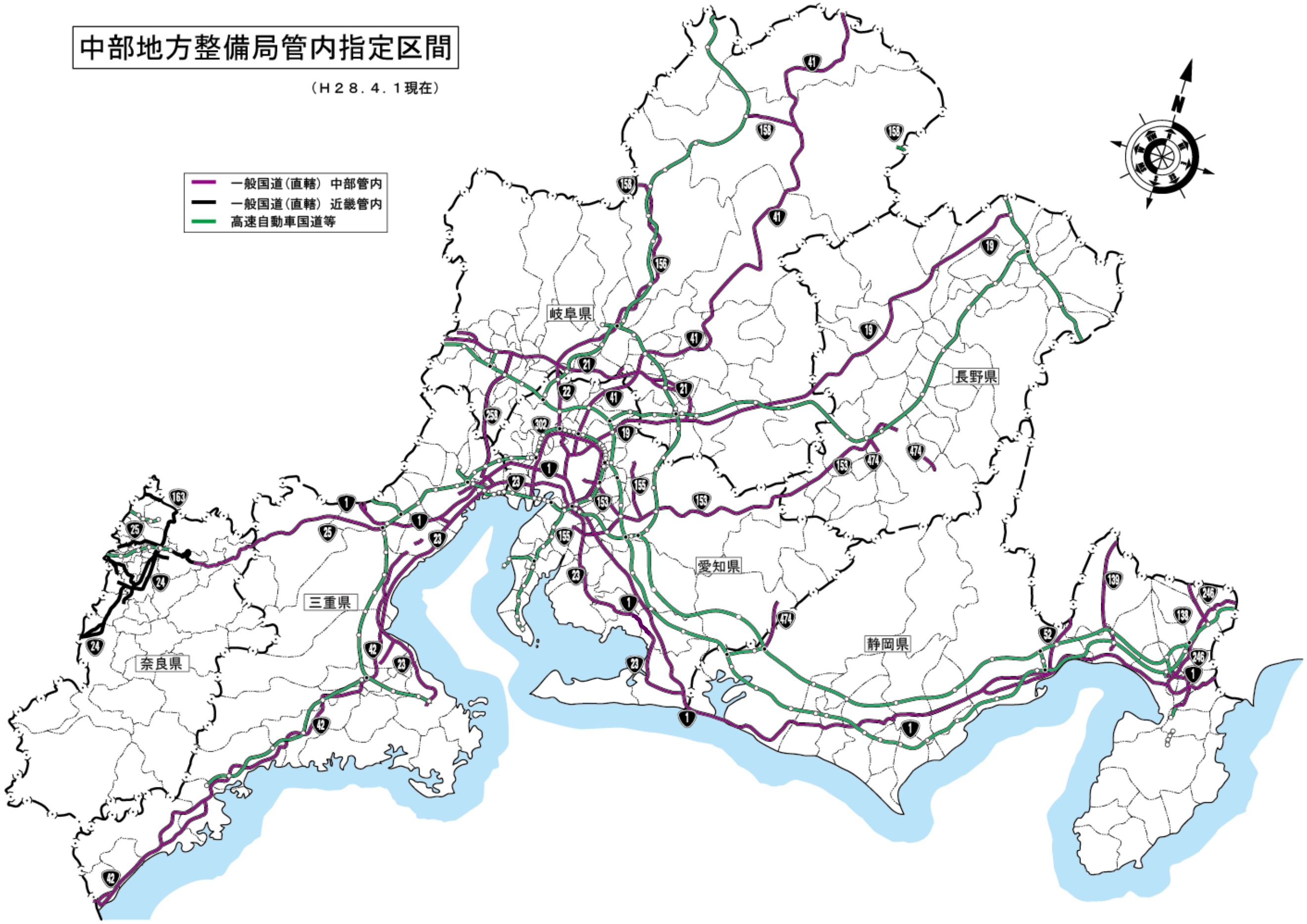
令和7年12月3日

中部地方整備局
道路部　道路管理課

中部地方整備局が維持管理する国道

愛知、岐阜、三重、静岡、長野（南信）、奈良県内の21路線、合計　約1，880km

【中部地方整備局管内指定区間】



【中部地方整備局が管理する路線一覧】

R7　県・政令市別管理延長

県・政令市	事務所	道路管理延長(km)
岐阜県	多治見	90.372
	岐阜	235.108
	高山	150.019
静岡県	静岡	68.228
	浜松	53.954
	沼津	107.176
愛知県	多治見	0.08
	岐阜	0.294
	名古屋	338.133
	浜松	6.676
三重県	岐阜	0.02
	名古屋	0.607
	三重	207.682
	紀勢	188.819
	北勢	41.635
長野県	多治見	0.056
	飯田	152.029
富山県	高山	0.238
福井県	岐阜	1.079
奈良県	北勢	14.519
名古屋市	名古屋	107.021
静岡市	静岡	80.501
浜松市	浜松	35.859
合計		1880.105

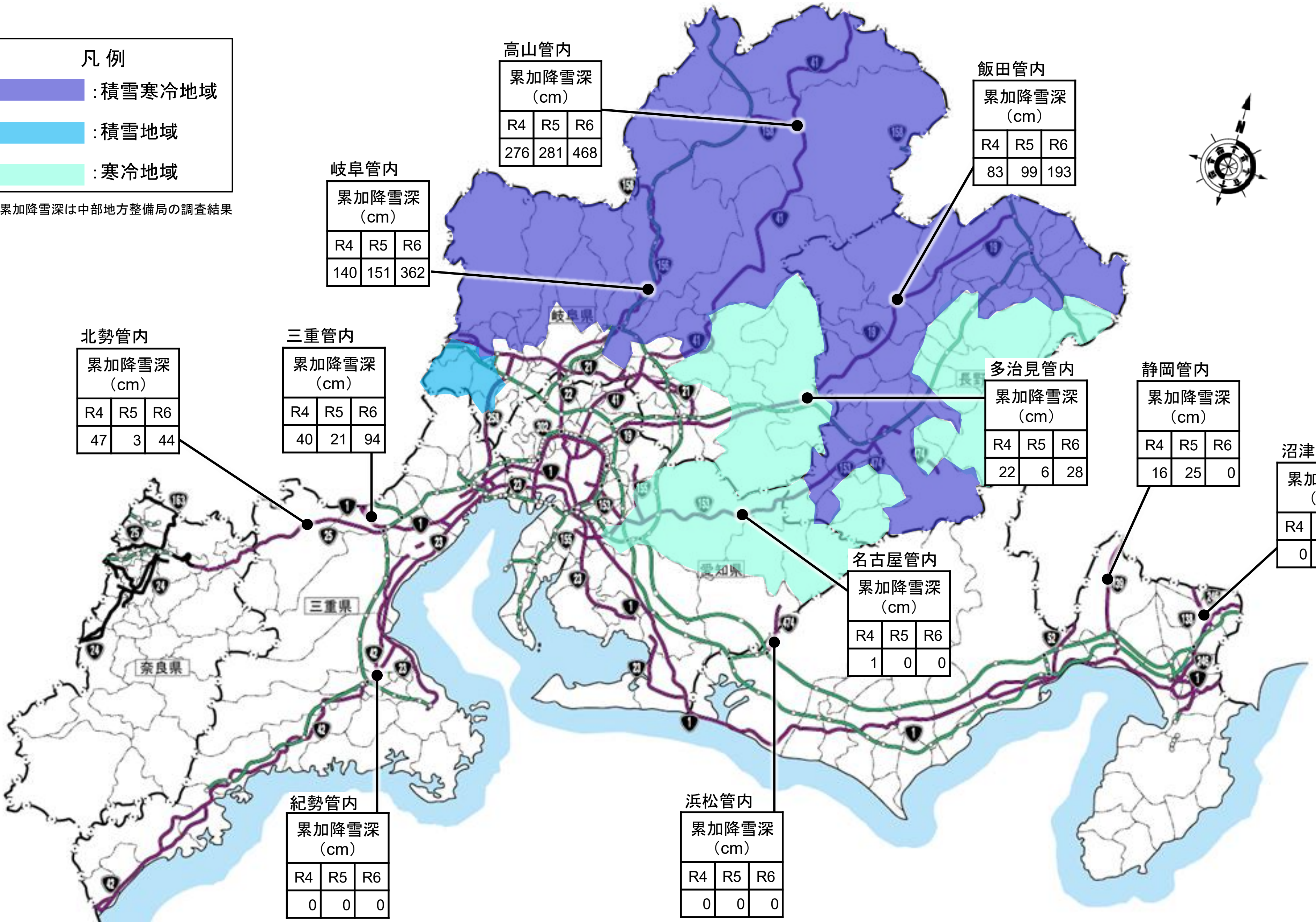
注）管理延長は、令和7年4月1日現在。

中部管内の降雪状況(R4～R6)

凡 例

- :積雪寒冷地域
- :積雪地域
- :寒冷地域

※累加降雪深は中部地方整備局の調査結果



高山管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
276	281	468

飯田管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
83	99	193

岐阜管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
140	151	362

北勢管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
47	3	44

三重管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
40	21	94

多治見管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
22	6	28

静岡管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
16	25	0

沼津管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
0	39	30

名古屋管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
1	0	0

紀勢管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
0	0	0

浜松管内

累加降雪深(cm)		
R4	R5	R6
0	0	0

大雪時の予防的通行規制区間

予防的通行規制区間：

国が管理する道路において、大雪時に急な上り坂で大型車等が立ち往生しやすい場所等を選定し、集中的・効率的に優先して除雪を行う区間。

令和6年度は、全国で244区間（約3,600km）、中部地整では、29区間（約309km）を設定。

雪害体制・通行止め実績（令和5・6年度）

〇急勾配区間などスタックした箇所をもとに、予防的通行規制区間（29区間）を事前に設定し周知

〇直轄国道における通行止め実績は、R5（12箇所 192時間）、R6（16箇所 230時間）※

R5年度

R6年度

※延べ箇所数、延べ時間

大雪への対応

〇凍結・降雪の見込み時に、タイヤチェックや凍結防止剤の散布等、予防対策を行い安全を確保
〇規制要員を現地へ派遣し、規制に必要な準備を業者と連携し行い、通行止めへ備え

スタック予防のためタイヤチェック実施

規制準備状況

凍結防止の薬剤を手撒き散布

通行止め状況説明・誘導

大雪時の道路交通確保の対策方針

①　大雪時の道路交通確保に対する考え方

- 人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する
- 社会経済活動への影響を最小化するため「集中除雪による早期開放」に努める

②　予防的通行規制区間の通行止め

- 道路に雪が積もっていない状態でも通行止め（予防的通行規制）を行う事があります
- 通行規制中に集中除雪を行う事で早期解放を目指します

③　高速道路との同時通行止め

- 高速道路と並行する国道などの同時通行止めを実施します
- 国道での降雪がない場合でも並行する高速道路と一緒に通行止めを行う事があります

④　道路利用者等への情報提供

- 大雪が予測される降雪の3日前から出控えや広域迂回※を要請する情報を提供します

３日前～　大雪が予測されるため外出の自粛、広域迂回※を呼びかけ

数時間前～　通行止め区間、日時、迂回経路※などの情報提供

※降雪の範囲が広い場合等は全面的に通行止めとなり広域迂回も不可能な場合があります

⑤　道路利用者へのお願い

- ドライバーや荷主企業のみなさまへ「出控え」、「運行経路の変更」、「運行の中止」をお願いします
- マスコミ各社におかれましても周知にご協力をお願いします

大雪時の道路交通確保に対する考え方

- 人命を最優先に、**幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避**する
- 社会経済活動への影響を最小化するため「**集中除雪による早期開放**」に努める

〇令和6年1月、名神高速道路において、約1200台の大規模な立ち往生が発生し、車両の移動および通行止め解除に最大34時間を要しました。

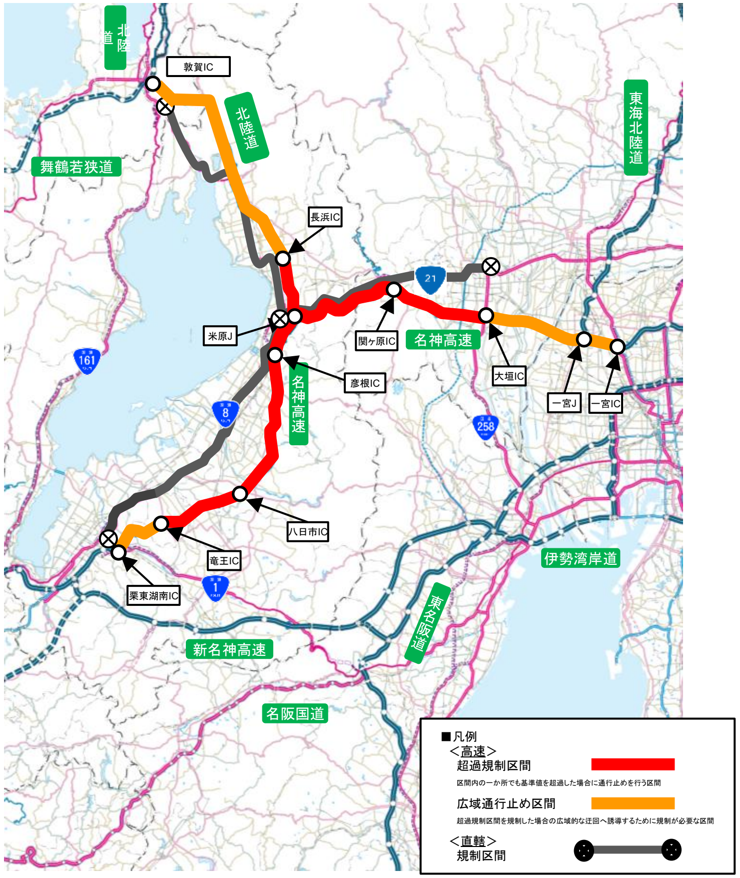
スタック車両による大規模滞留

自衛隊約300名により車両救出のため人力除雪

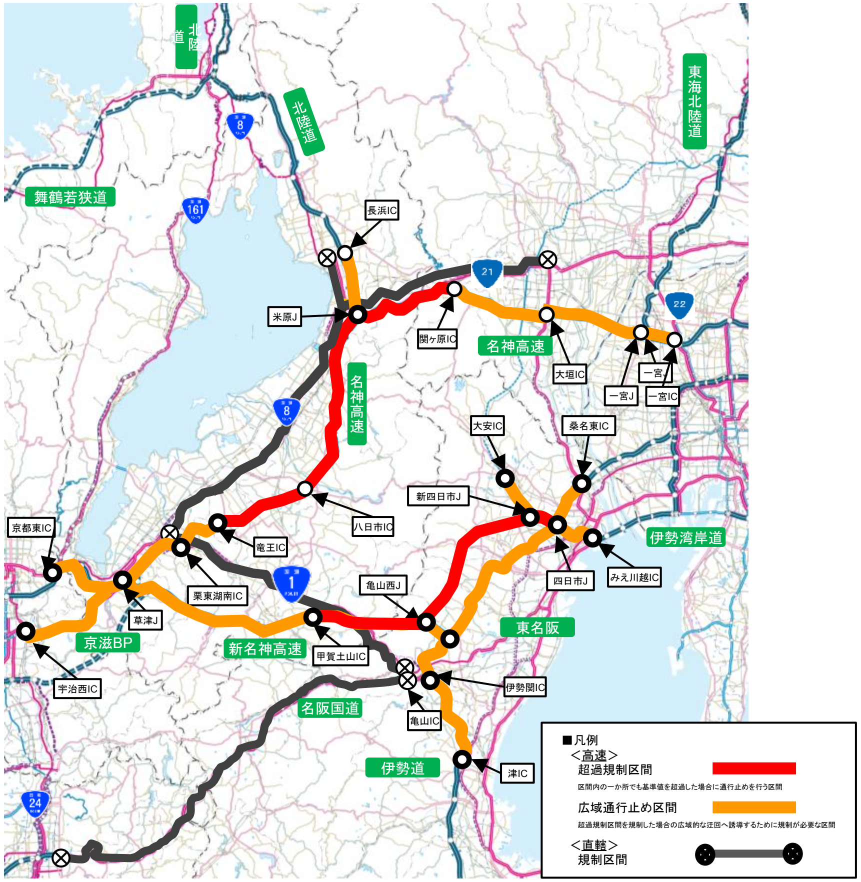
高速道路との同時通行止め

- 高速道路が通行止めとなった際、並行する国道への交通集中による除雪作業の遅延を避けるため、高速道路と並行する国道などの同時通行止めを実施し、集中的・効率的に除雪作業を実施することで、早期解放を目指します。
- 国道での降雪がない場合でも並行する高速道路と一緒に通行止めを行う事があります。

■高速道路と国道の同時通行止め（イメージ）



■高速道路と国道の同時通行止め（イメージ）
～降雪状況によっては東西軸が寸断する事があります～



道路利用者等への情報提供

・　大雪が予測される３日前から出控えや広域迂回をうながす情報提供をします。
・　通行止めの数時間前から通行止めを開始する可能性がある区間の情報を提供します。
・　降雪の範囲が広い場合等は全面的に通行止めとなり広域迂回も不可能な場合があります。

■大雪予報の3日前

主な広報内容
- ・大雪が始まる見込み日付け(〇日～)
- ・大雪が見込まれる地域
- ・大雪による通行止めが想定されるエリア

■記者発表資料イメージ

Press Release
国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和６年１月22日
中部地方整備局
中　部　運　輸　局
北陸信越運輸局
名古屋地方気象台
中日本高速道路(株)
名古屋高速道路公社

大雪による交通障害に注意・警戒してください

～２４日から２５日にかけて大雪の見込み～

〇２４日から２５日頃にかけて、岐阜県を中心に断続的に雪が降り、大雪となる所がある見込みです。また、東海地方の平地でも積雪となる所がある見込みです。【別紙１】

〇降雪状況によっては除雪等のために通行止めにする場合があります。
直轄国道：【別紙2】を中心に通行止めを行う場合があります。
高速道路：【別紙4】の「NEXCO中日本ドライバーズサイト」をご確認ください。
名古屋高速：【別紙5】の「名古屋高速道路の道路情報」をご確認ください。

〇大雪の場合に、やむを得ず車で外出される場合は、冬用タイヤの装着やタイヤチェーンの携行及び早期装着などのご協力をお願いします。

■通行止めの数時間前

主な広報内容
- ・大雪が始まる見込みの日時(〇日〇時頃～)
- ・通行止めが想定される区間

■記者発表資料イメージ

Press Release
国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和６年１月２３日
資料配布　中部地方整備局
(同時発表　近畿地方整備局)
(同時発表　福井県冬期道路情報連絡室)
(同時発表　滋賀県冬期道路情報連絡室)
(同時発表　西日本高速道路（株）関西支社)
(同時発表　中日本高速道路（株）名古屋支社)
(同時発表　中日本高速道路（株）金沢支社)

大雪の影響による通行止めの可能性のある区間について

大雪の影響により、近畿・中部地方の高速道路及び国土交通省が管理する直轄国道において、１月２３日（火）夕方から通行止めの可能性があります。

〇1月23日から25日頃にかけて、福井県及び近畿地方の北部及び岐阜県山間部で大雪となるおそれがあります。この影響により、別紙1のとおり、近畿・中部地方の高速道路及び国土交通省が管理する直轄国道において、通行止めを行う可能性があります。

令和6年度　予防的通行止めの実施状況

R6年度　予防的通行止め実施

2025年1月10日（最大13時間30分）

路線名	通行止め時間
名神（一宮IC～栗東湖南IC）	13時間30分（1/10 2:00～1/10 15:30）
国道21号（楽田町～西円寺）	10時間（1/10 2:00～1/10 12:00）

2025年2月7日～8日（最大24時間）

路線名	通行止め時間
東名、名神、京滋BP（小牧JCT～宇治西IC）	19時間（2/7 21:00～2/8 16:00）
新名神、東名阪、名阪国道（四日市JCT・桑名東IC～京都東IC）	21時間（2/7 21:00～2/8 18:00）
伊勢湾岸（みえ川越IC～四日市JCT）	24時間（2/7 21:00～2/8 21:00）
国道21号（楽田町～西円寺）	12時間30分（2/7 21:00～2/8 9:30）

2025年2月18日～19日（最大17時間30分）

路線名	通行止め時間
名神（一宮IC～栗東湖南IC）	17時間30分（2/18 16:00～2/19 9:30）
国道21号（楽田町～西円寺）	14時間（2/18 16:00～2/19 6:00）

2025年3月4日～5日（最大16時間）

路線名	通行止め時間
東名、新東名（大井松田・新御殿場IC～沼津・長泉沼津IC）	12時間（3/4 16:00～3/5 4:00）
東富士五湖道路（富士吉田IC～須走IC）	16時間（3/4 16:00～3/5 8:00）
国道246号（神奈川県松田町～静岡県裾野市）	9時間（3/4 16:00～3/5 1:00）
国道1号（神奈川県箱根町～静岡県三島市）	11時間（3/4 16:00～3/5 3:00）

＜参考＞R4・5年度　予防的通行止め未実施

2023年1月24日～（最大43時間40分）

新名神での大雪時の渋滞による滞留発生事象
⇒最大渋滞（滞留）長：約70km

路線名	通行止め時間
新名神・第二京阪（四日市JCT牧方学研IC）	43時間40分（1/25 3:50～1/26 23:30）
名神（一宮IC～米原JCT）	23時間50分（1/24 21:00～1/25 20:10）
名阪国道（亀山IC～天理東IC）	21時間50分（1/24 19:00～1/25 16:50）

2024年1月24日～（最大34時間）

名神（関ケ原地区）の大雪時における大規模滞留事象
⇒最大渋滞（滞留）長：約6.6km

路線名	通行止め時間（最大）
名神（岐阜羽島IC～栗東湖南IC）	34時間（1/24 9:30～1/25 19:30）
国道21号（楽田町～西円寺）	28時間（1/24 11:30～1/25 15:30）

1/10(金)大雪による通行止め状況(名神・北陸道)

〇降雪等の影響により、名神高速道路及び国道２１号等で１月１０日（金）2:00から通行止めを実施。

公表タイミング（抜粋）

1/7（火）	14:00	記者発表［注意喚起］
1/8（水）	15:00	記者発表 ［具体路線、10日未明～］
1/9（木）	15:00	記者発表［10日2時～］
1/10（金）	2:00	予防的通行止め開始
	6:40	東名・名神　規制区間延伸 （小牧JCT～一宮IC）
	12:00	21号規制解除
	15:30	東名・名神規制解除

主な通行止め

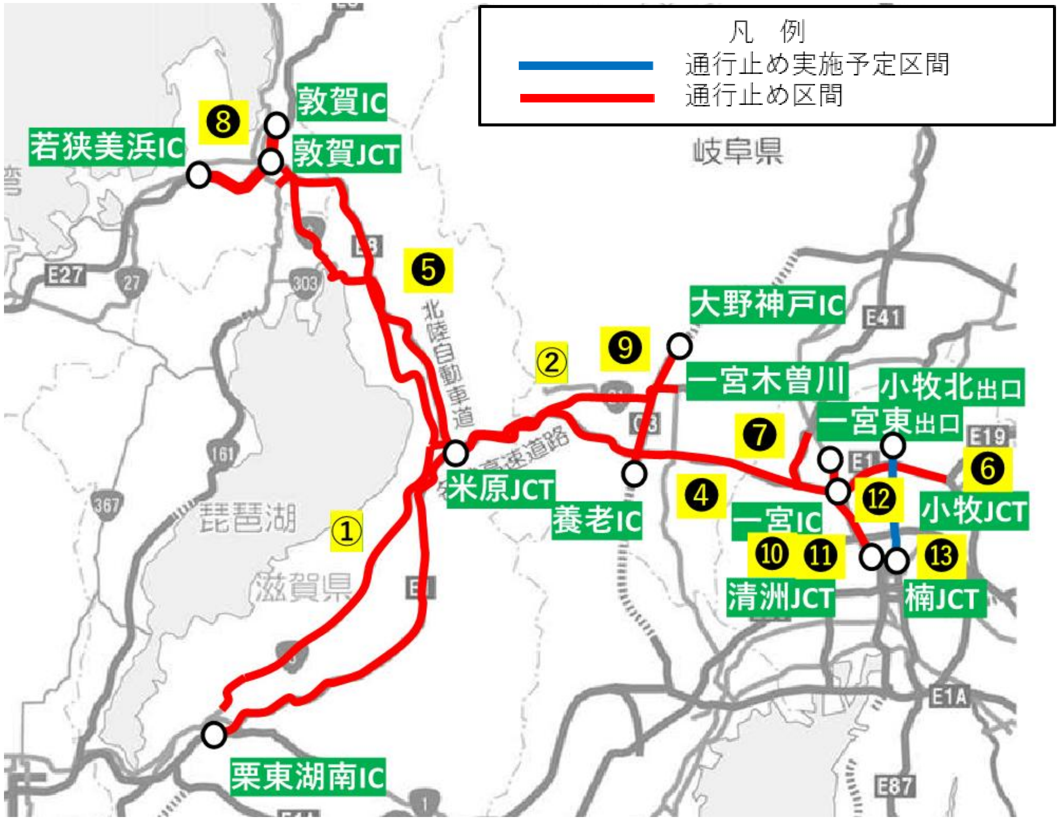
名神　1/10(金)2:00～15:30

計13.5時間

国道21号　1/10(金)2:00～12:00

計10時間

■通行止め区間



2/7(金)～2/8(土)大雪による通行止め状況(名神、新名神、名阪)

〇降雪等の影響により、名神高速道路及び新名神高速道路、名阪国道、国道１号・２１号等で２月７日（金）21:00から最大21時間程度※の通行止めを実施。

※国道の通行止め時間を対象

公表タイミング（抜粋）

2/3（月）	15:00	記者発表［注意喚起］
2/6（木）	15:00	記者発表［具体路線、7日深夜～］
2/7（金）	11:00～	合同記者会見
	14:00	記者発表［21時頃～］
	20:00	記者発表［21時～］
	21:00	予防的通行止め開始
2/8（土）	9:30	21号規制解除
	16:00	名神規制解除
	18:00	新名神、名阪等規制解除
	21:00	伊勢湾岸規制解除

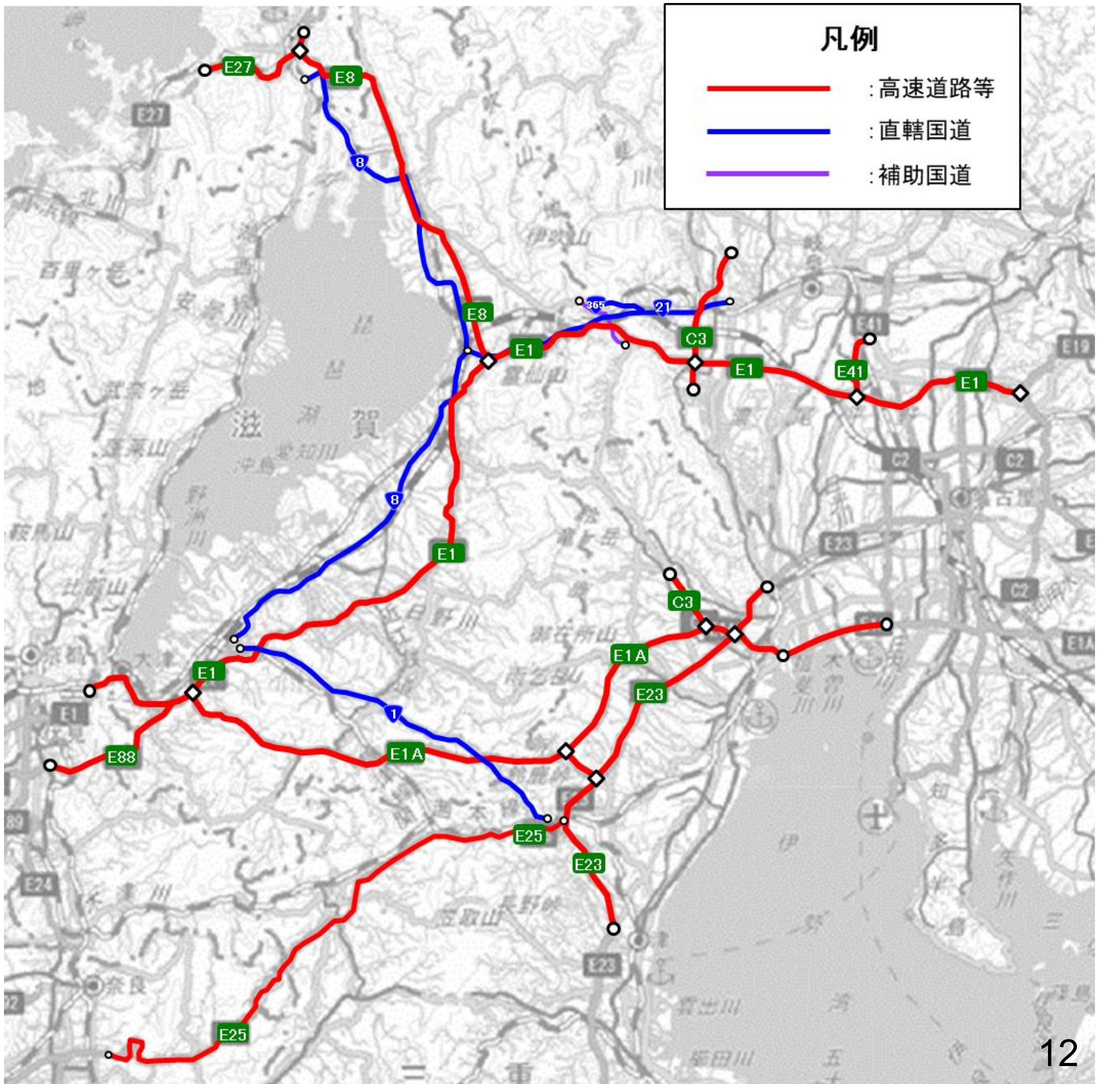
主な通行止め

名神　2/7(金)21:00～2/8(土)16:00　**計19時間**

新名神・名阪国道
2/7(金)21:00～2/8(土)18:00　**計21時間**

国道21号　2/7(金)21:00～2/8(土) 9:30　**計12.5時間**

■通行止め区間



2/18(火)～2/19(水)大雪による通行止め状況(名神、北陸道)

〇降雪等の影響により、名神高速道路及び国道２１号等で２月１８日（火）16:00から通行止めを実施。
〇新名神は２月１９日（水）5:45から大型車のスタックに伴う通行止めを実施。
〇名阪国道は通行止めの可能性が高い区間としていたが、通行止めを見送り。

公表タイミング（抜粋）

2/14（木）	15:00	記者発表［注意喚起］
2/18（火）	10:00	記者発表 ［具体路線、18日16時頃～］
2/18（火）	11:00～	合同記者会見
	15:00	記者発表［16時～］
	16:00	予防的通行止め開始
2/19（水）	5:45	新名神停止車両による規制開始
	6:00	21号規制解除
	9:30	名神規制解除
	16:00	新名神規制解除

主な通行止め

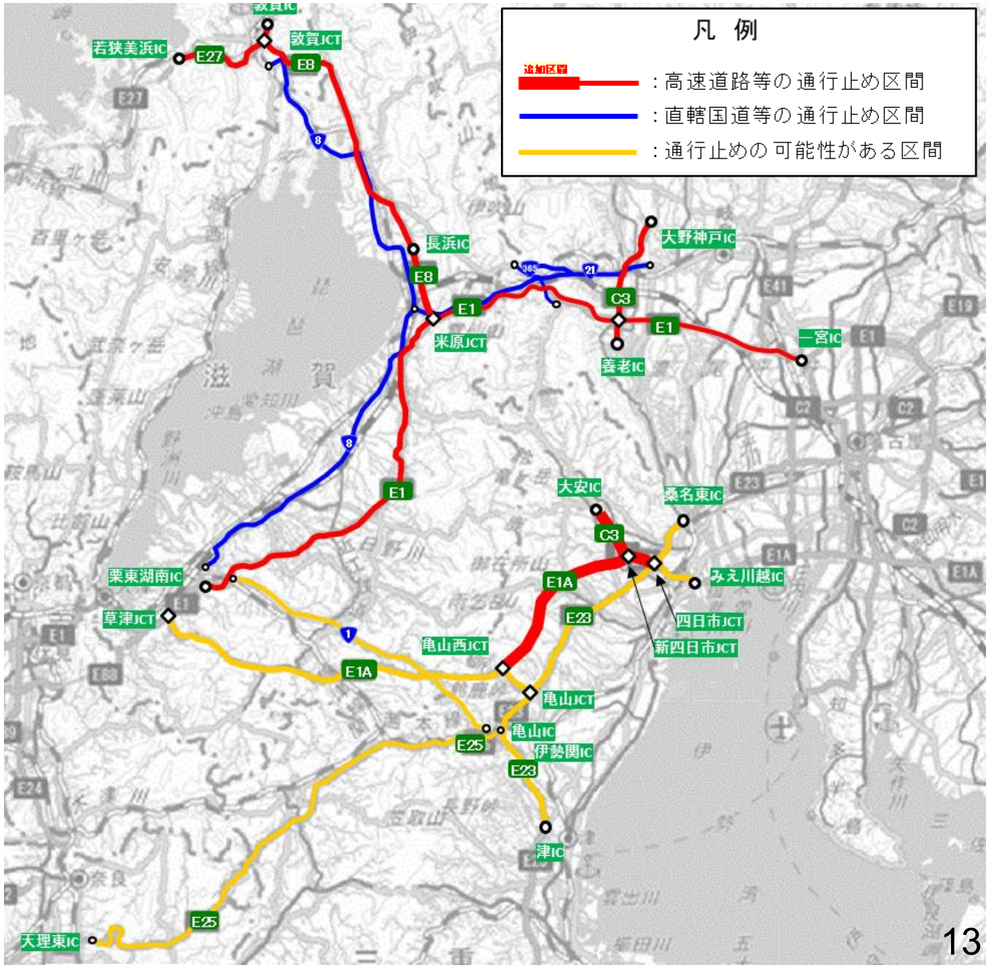
名神　2/18(火)16:00～2/19(水)9:30　**計17.5時間**

国道21号　2/18(火)16:00～2/19(水)6:00　**計14時間**

新名神※　2/19(水)5:45～16:00　**計10.25時間**

※新名神は停止車両による規制

■通行止め区間



3/4(火)～3/5(水)大雪による通行止め状況(東名、新東名)

〇降雪等の影響により、東名高速道路及び新東名高速道路、中部横断道、東富士五湖道路、国道１号・１３８・１３９・２４６号等で３月４日（火）16:00 ※から通行止めを実施。

※一部18時から通行止め

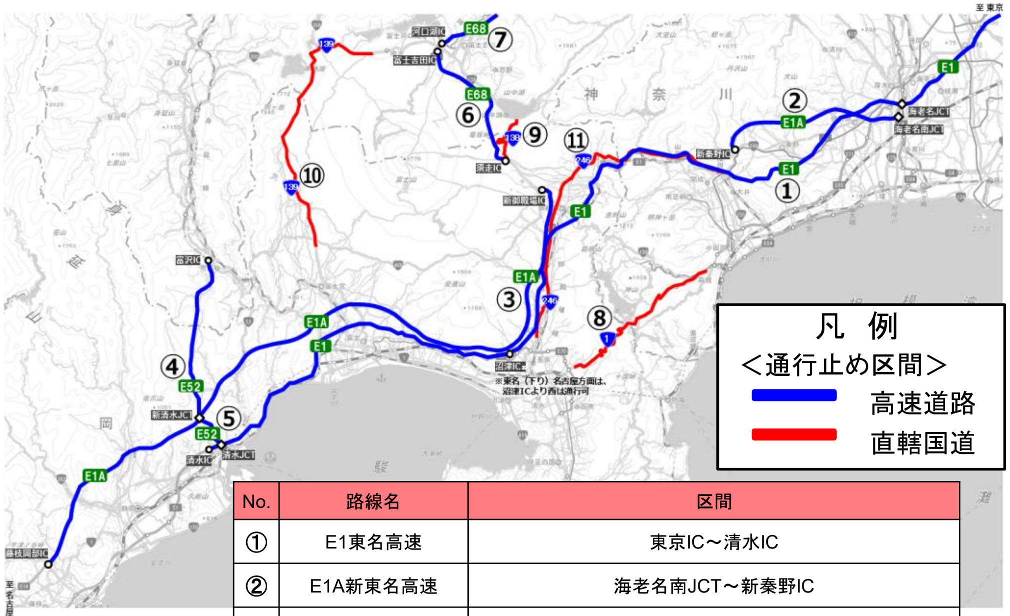
公表タイミング（抜粋）

3/1（土）	16:00	記者発表［注意喚起］
3/2（日）	15:00～	合同記者会見［具体路線、4日午後］
3/3（月）	15:00～	合同記者会見　［15時～18時等］
3/4（火）	13:00～	合同記者会見　［16時～等］
	16:00	予防的通行止め開始
	18:00	139号予防的通行止め開始
3/5（水）	1:00	246号規制解除
	2:00	東名・新東名等規制解除（沼津IC・長泉沼津IC以西）
	3:00	1号規制解除
	4:00	東名・新東名、139号規制解除
	5:00	138号規制解除
	8:00	東富士五湖道路規制解除

主な通行止め

東名・新東名	3/4(火)16:00～3/5(水)4:00	**計12時間**
東富士五湖道路	3/4(火)16:00～3/5(水)8:00	**計16時間**
国道246号	3/4(火)16:00～3/5(水)1:00	**計9時間**
国道1号	3/4(火)16:00～3/5(水)3:00	**計11時間**

■通行止め区間



No.	路線名	区間
①	E1東名高速	東京IC～清水IC
②	E1A新東名高速	海老名南JCT～新秦野IC
③	E1A新東名高速	新御殿場IC～藤枝岡部IC
④	E52中部横断道	新清水JCT～富沢IC
⑤	E52清水連絡路	清水JCT～新清水JCT
⑥	E68東富士五湖道路	富士吉田IC～須走IC
⑦	E68中央道	都留IC～河口湖IC
⑧	国道1号	神奈川県足柄郡箱根町湯本～静岡県三島市塚原新田
⑨	国道138号	山梨県南都留郡山中湖村平野～静岡県駿東郡小山町須走
⑩	国道139号	静岡県富士宮市外神～山梨県南都留郡鳴沢村鳴沢
⑪	国道246号	神奈川県松田町松田惣領～静岡県裾野市富沢

予防的通行止め 早期解放の工夫

〇3/4（火）16時～東名、新東名、国道1号、246号の予防的通行規制を実施、神奈川～静岡県間が全面通行止め
〇国道246号の集中除雪を行い<u>先行解放する事で、早期に東西交通を確保</u>

◆通行止め・解除スケジュール

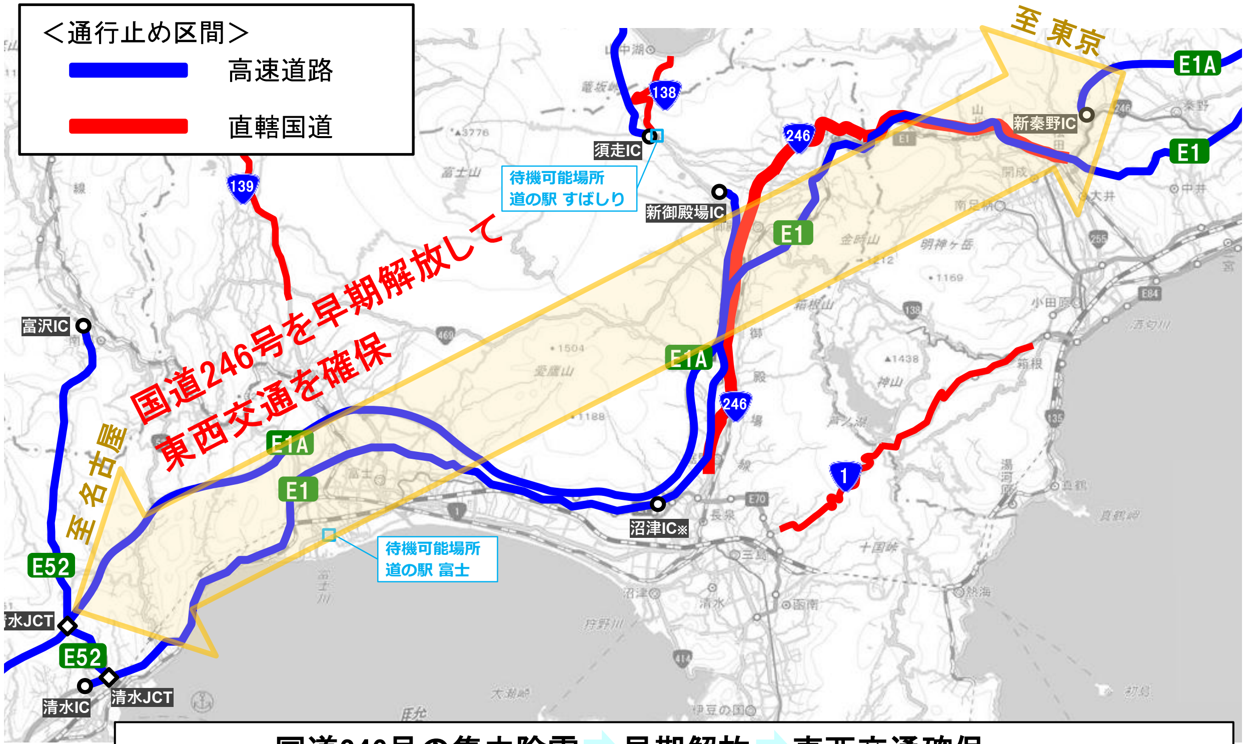
3/4（木）
16:00　東名、新東名、国道246号等
<u>通行止め開始</u>

3/5（金）
<u>1:00</u>　<u>国道246号通行止め先行解除</u>

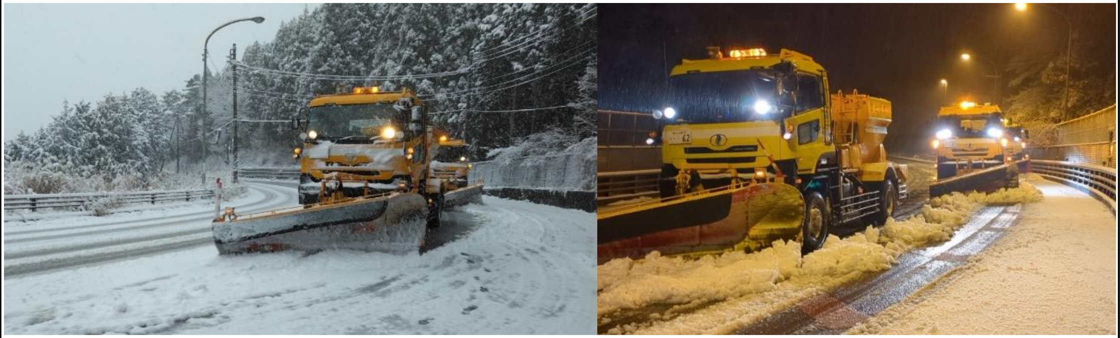
2:00　東名沼津以西　規制解除

3:30　東名大井松田IC以東　規制解除

4:00　東名、新東名 御殿場付近
規制解除



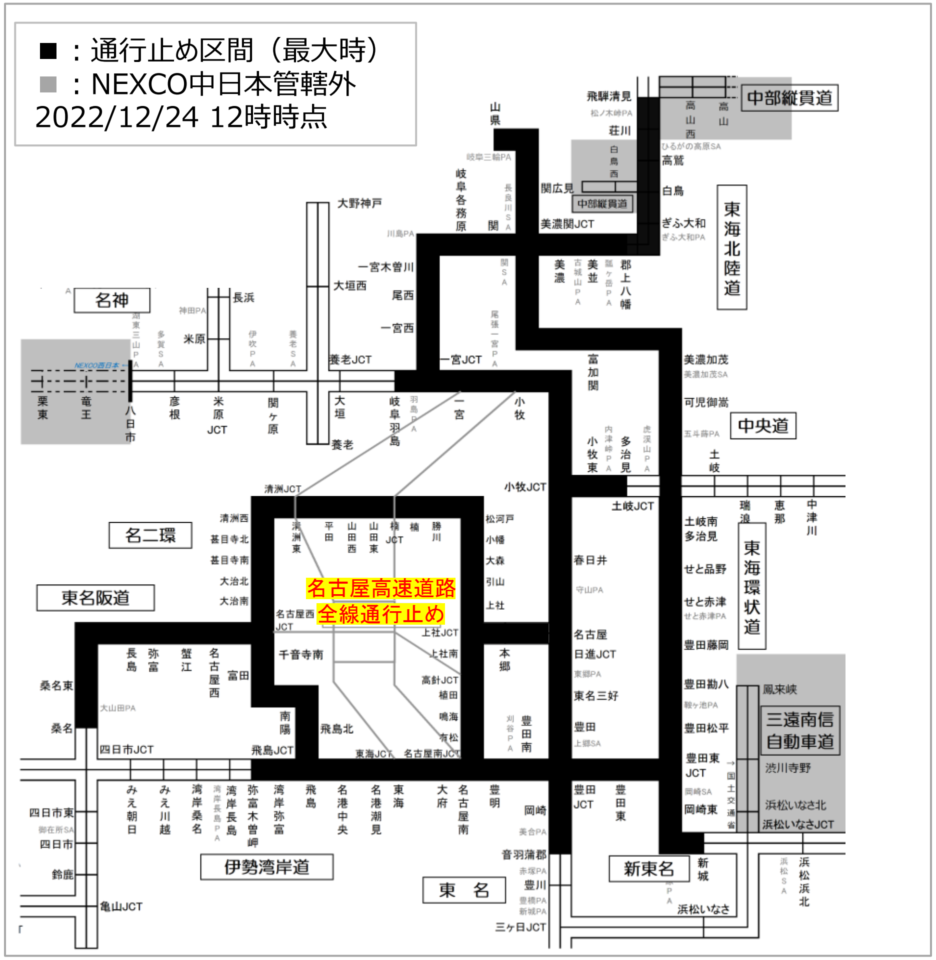
国道246号の集中除雪 ➡ 早期解放 ➡ 東西交通確保



名古屋都市部における大雪事例

○ 名古屋都市部において、過去（令和4年12月24日等）に、大雪による道路の通行止めが発生。

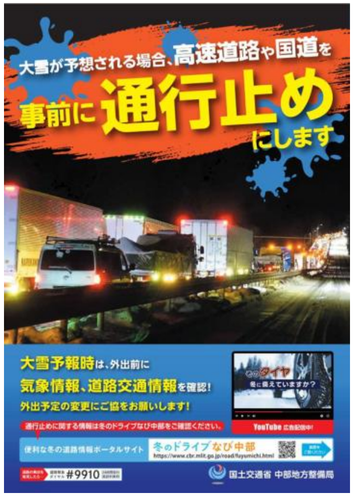
■令和4年12月24日における雪の通行止め事例



名古屋高速道路の除雪状況

事前広報活動

＜チラシ・ポスター＞



＜動画広告＞

＜道路情報提供サイト＞

＜ETC2.0＞

カーナビポップアップ

＜新聞広告＞

＜ラジオ広報＞

月～金　毎朝7～9時
20秒スポット

情報発信（通行止め・広域迂回等記者発表、HP・SNS発信、現地）

■大雪による交通障害警戒の呼びかけ

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和６年１月２２日
中部地方整備局
中部運輸局
北陸信越運輸局
名古屋地方気象台
中日本高速道路(株)
名古屋高速道路公社

大雪による交通障害に注意・警戒してください

～２４日から２５日にかけて大雪の見込み～

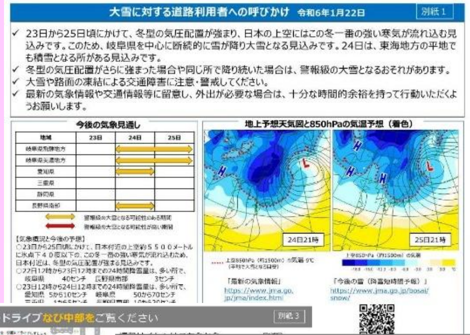
○２４日から２５日頃にかけて、岐阜県を中心に断続的に雪が降り、大雪となる所がある見込みです。また、東海地方の平地でも積雪となる所がある見込みです。【別紙１】

○降雪状況によっては除雪等のために通行止めにする場合があります。
直轄国道：【別紙２】を中心に通行止めを行う場合があります。
高速道路：【別紙４】の「NEXCO中日本ドライバーズサイト」をご確認ください。
名古屋高速：【別紙５】の「名古屋高速道路の道路情報」をご確認ください。

○大雪の場合に、やむを得ず車で外出される場合は、冬用タイヤの装着やタイヤチェーンの携行及び早期装着などのご協力をお願いします。

○特に大型車については、事故や立ち往生が発生した場合の影響が大きいため、十分な装備の確認等、安全を確保するために必要な措置をお願いします。

○冬用タイヤの未装着等により事業用自動車が立ち往生した場合、悪質な事例については、監査を実施したうえで、講じた措置が不十分と判断されれば、行政処分の対象となります。運送事業者の皆様も、冬用タイヤの装着、タイヤチェーンの携行及び早期装着を徹底して下さい。



■記者発表（HP、twitter掲載）

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和６年１月２３日
資料配布　中部地方整備局
（同時発表　近畿地方整備局）
（同時発表　福井県冬期道路情報連絡室）
（同時発表　滋賀県冬期道路情報連絡室）
（同時発表　西日本高速道路（株）関西支社）
（同時発表　中日本高速道路（株）名古屋支社）
（同時発表　中日本高速道路（株）金沢支社）

大雪の影響による通行止めの可能性のある区間について

大雪の影響により、近畿・中部地方の高速道路及び国土交通省が管理する直轄国道において、１月２３日（火）夕方から通行止めの可能性があります。

○1月23日から25日頃にかけて、福井県及び近畿地方の北部及び岐阜県山間部で大雪となるおそれがあります。この影響により、別紙1のとおり、近畿・中部地方の高速道路及び国土交通省が管理する直轄国道において、通行止めを行う可能性があります。

○最新の気象情報及び道路情報等に注意し、十分な時間的余裕を持って行動頂くようお願いします。

○やむを得ず車で外出される場合は、必ず冬用タイヤの装着やタイヤチェーン携行及び早期装着、食料や水、携帯トイレや毛布の携行、燃料の補充をお願いします。あわせて広域迂回を行う等の通行ルートの見直しにもご協力お願いします。また、降雪時は冬用タイヤだけでは立往生する場合がありますので、早めのチェーン装着をお願いします。

○積雪・凍結道路ですべり止めの措置をとらない運転は法令違反となります。

○荷主企業および運送事業者の皆さまも、今後の気象予測をご確認頂き、広域迂回の実施や通行ルートの見直し、運送日の調整などのご協力をお願いします。

■現場における周知

ブリンク表示

周知箇所
21号、22号、41号、156号、
258号に設置している道路
情報板39か所

看板等による注意喚起
21号、258号に設置

（R6導入）VICS大雪時通行規制情報等の配信サービス

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令　和　６年　１２月　２０日
国土交通省　中部地方整備局

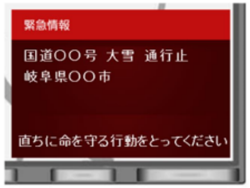
カーナビへ大雪による通行規制情報をポップアップ配信

中部地方整備局管内において、降雪シーズンの新たな情報提供サービスとして、大雪時の注意喚起のため『通行規制情報』等をカーナビ画面にポップアップ表示する取り組みを開始します。

■対象地域：中部地方整備局管内
岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、長野県（南信地域）

■配信情報：通行規制情報
※主に高速道路、中部地方整備局管理道路を対象として想定しています。

▼配信イメージ



※一部のカーナビにおいて、配信文に加え「直ちに命を守る行動をとってください」と表示される機種があります

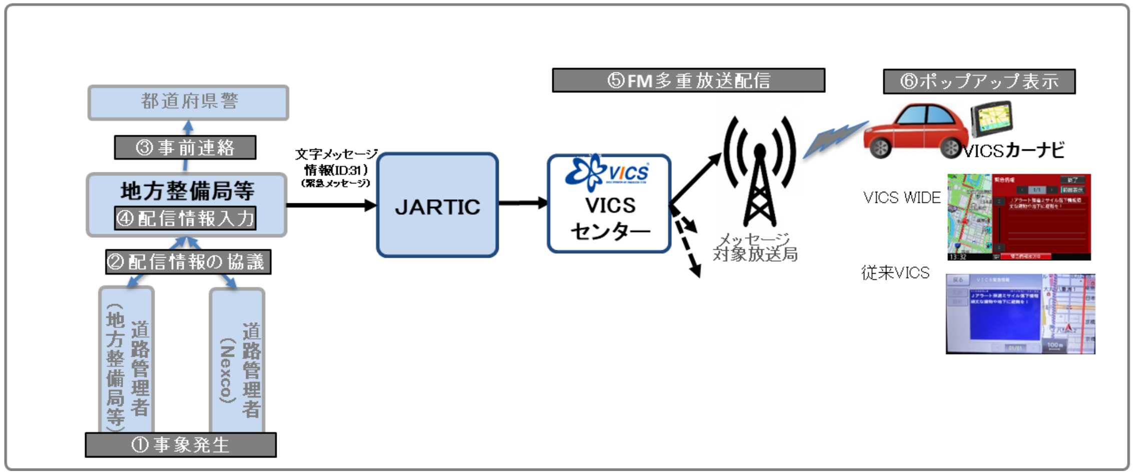
冬期の道路情報については、「冬のドライブなび中部（https://www.cbr.mlit.go.jp/road/fuyumichi.html）」でも情報発信しています

配布先
中部地方整備局記者クラブ
問い合わせ先
国土交通省中部地方整備局 道路部　道路管理課　道路管理課長　　舟橋　邦顕（ふなはし　くにあき） 電話：０５２－９５３－８１７６（直通）

道路の異状を発見したら・・・道路緊急ダイヤル　#9910　（通話料無料・２４時間受付）

道路緊急ダイヤル#9910

◆大雪時通行規制情報等の配信サービス



■R7.1.10の事例

ノーマルタイヤによるスタック発生時の広報事例

■中国地方整備局の事例

← ポスト

国土交通省 中国地方整備局
@mlit_chugoku

2/8（土）未明から国道２号山口県山陽小野田市で
発生したスタックはノーマルタイヤによる立ち往生でした。
雪道をノーマルタイヤで走行すると危険かつ迷惑です!!
冬用タイヤやチェーンを装着して走行ください。
#大雪 #立ち往生 #スタック #通行止め #国道２号

午後8:22 · 2025年2月8日 · 313 件の表示

12 10 1

令和7年2月8日 X

お知らせ

国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局

令和7年2月10日

<同時資料提供先>
【中国地方】合同庁舎記者クラブ・鳥取県政記者会・島根県政記者会
岡山県政記者クラブ・広島県政記者クラブ・山口県政記者クラブ
山口県政記者会・山口県政滝町記者クラブ・中国地方建設記者クラブ

冬用タイヤ装着のお願い

～ノーマルタイヤのスタック車両が発生しました～

〇令和７年２月８日未明、山口県内の降雪により国道２号山口県山陽小野田市においてスタック車両が発生し、原因は冬用タイヤ未装着の車両でした。

〇道路の積雪や凍結が発生する時期に、ノーマルタイヤで外出することは、立ち往生など深刻な交通渋滞や通行止めを引き起こす恐れがあります。

〇大雪時の外出は避けて頂くとともに、やむを得ず外出される場合は、冬用タイヤやタイヤチェーン装着をお願いします。

〇積雪・凍結道路ですべり止めの措置をとらない運転は法令違反となります。

〇最新の気象情報及び交通情報等に注意し、外出が必要な場合には、十分な時間的余裕を持って行動頂くようお願いします。

〇問い合わせ先
<国が管理する道路に関すること>
国土交通省　中国地方整備局　TEL 082-221-9231（代表）
082-511-6332（ダイヤルイン）
（担当）　道路部　道路管理課長　守山　和彦（内線4411）
課長補佐　蔵本　直行（内線4412）

■立ち往生車両の発生状況

発生日時：令和７年２月８日　午前０時３０分頃
発生箇所：国道２号山口県山陽小野田市
立ち往生車両：大型トレーラー
渋滞長：約５．０ｋｍ

【写真①】２月８日 3:00時点
（山陽小野田市杣尻）

【写真②】ノーマルタイヤの
スタック状況

【大雪に関する気象情報】
・気象庁ホームページ https://www.jma.go.jp/jma/bosaiinfo/snow_portal.html
【今後の雪】
・気象庁ホームページ https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/snow/jp/
【道路・交通情報】
◆中国地方整備局
・道路情報提供システム http://www.road.cgr.mlit.go.jp/road/frame.htm
◆ＮＥＸＣＯ西日本
・NEXCO西日本 ホームページ https://www.w-nexco.co.jp/
・ハイウェイ交通情報 アイハイウェイ https://ihighway.jp/pcsite/
・高速道路影響情報サイト（NEXCO東日本・中日本・西日本）https://ex-ssw.com/
◆本四高速ドライバーズサイト（本四高速）
・https://www.jb-honshi.co.jp/customer_index/
◆広島高速道路交通情報（広島高速）
・https://www.h-exp.or.jp/koutsu/
◆日本道路交通情報センター（JARTIC）
・https://www.jartic.or.jp/

道路利用者の皆様へのお願い（1/2）

- 過去の大雪では、**車両の立ち往生**が発生
- **冬用タイヤの装着、チェーンの携行・早めの装着、スコップや砂等の冬用装備の携行**を
- **出控え、広域迂回の実施、運行計画の見直し**を

名阪国道での積雪による滞留
R5.1.24 21時頃

国道21号での積雪による滞留
R6. 1. 24 18時頃

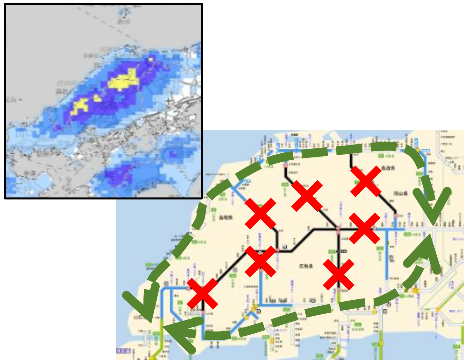
道路利用者の皆様へのお願い(2/2)

①外出自粛（出控え）

②冬用タイヤ装着、チェーン携行・早め装着

③冬用装備の携行

④広域迂回、運行計画の見直し



⑤特に事業用自動車の冬用タイヤ装着、タイヤ摩耗劣化確認

⑥最新の気象情報、交通情報の確認

大雪が予想される場合は、最新の道路情報をご確認ください。

情報サイトへはこちらから

冬のドライブなび中部

https://www.cbr.mlit.go.jp/road/fuyumichi.html

○雪みち情報を各種提供、主な内容は下記

■道路規制情報を確認

JARTIC 規制情報　　iHighway 中日本 高速道路

■各事務所のX「旧Twitter」へアクセス

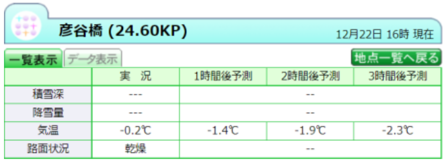
リアルタイム情報

■ライブカメラで現地状況を確認

ライブカメラ

■道路の積雪・凍結状況を確認

積雪・凍結情報



彦谷橋 (24.60KP)　12月22日 16時 現在

一覧表示　データ表示　地点一覧へ戻る

	実　況	1時間後予測	2時間後予測	3時間後予測
積雪深	---	--		
降雪量	---	--		
気温	-0.2℃	-1.4℃	-1.9℃	-2.3℃
路面状況	乾燥	--		

大雪時の外出は危険
命を守る行動を
大雪による大規模車両滞留を防ぐために
高速道路及び国道等では
大雪が見込まれる場合は
雪が降る前から予防的通行止めを
実施する場合があります。
大雪予報時は命を守るため
外出を控えてください。
国土交通省
中部地方整備局
近畿地方整備局
NEXCO
名古屋支社
金沢支社
NEXCO
関西支社

○運輸防災セミナー

高速道路における降雪・積雪時の災害事例とその対応

2025年12月3日

中日本高速道路㈱　名古屋支社
保全・サービス事業部
企画統括課

NEXCO
中日本

目次

NEXCO中日本の概要

高速道路における雪氷対策の概要

近年の雪害事例

これまでの雪害を踏まえた2024年度冬期の対応

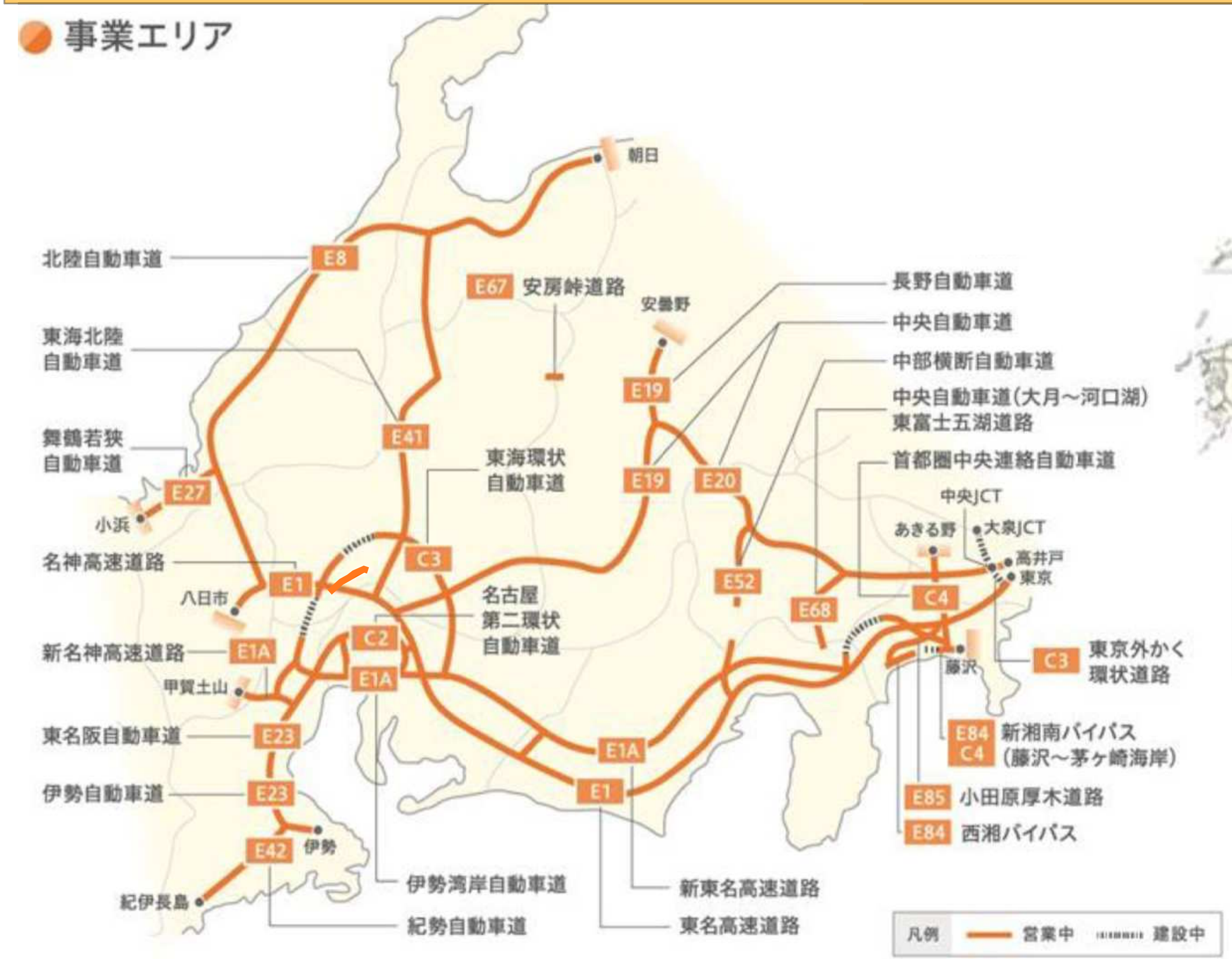
2024年度の予防的通行止めの実施結果

一般ドライバー及び荷主企業を含む物流業界の皆様へのお願い

NEXCO中日本の概要

NEXCO中日本は、日本道路公団の分割民営化により2005年10月に設立してから20年を迎えました。

事業エリア



総管理延長

2,208km

(2025年8月30日時点)

一日あたりの平均利用台数

205万台

(2024年度実績)

高速道路における雪氷対策の概要

NEXCO 中日本

目 的

冬期間における安全かつ確実な交通の確保、安全が確保できない場合は通行止めの措置、人命を最優先に大規模な車両滞留を徹底的に回避

雪氷対策期間：11月1日～４月３０日（気象特性に応じて事務所毎に設定）

〇雪氷対策期間中は、毎日、気象予測・実況を確認し、雪氷体制の有無、体制種別を判断

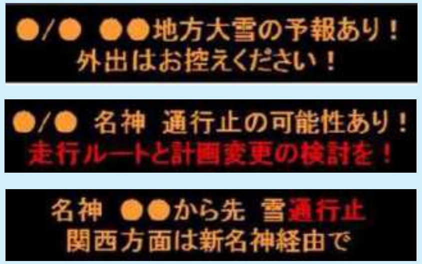
警戒体制	散布体制	除雪体制	緊急・非常体制
➢ 気温低下が予測され、路面凍結の可能性があり、要員や機械の待機が必要な場合	➢ 降雪または路面凍結が予測され、または現実に起こり、凍結防止剤の散布作業を行う場合	➢ 降雪により除雪作業を行う場合	➢ 視程障害や路面悪化により交通確保が困難、あるいは、予防的通行止めを行う場合 ➢ 滞留車が発生した場合

〇気象会社からの気象予測、気象観測設備、カメラ、巡回等による路面監視・情報収集
〇雪氷対策作業（凍結防止剤の散布作業、除雪作業）、お客様への道路情報の提供

凍結防止剤の散布作業

除雪作業
（全車線を繰り返し除雪）

道路情報板



iHighway

道路情報の提供

2014年以降の雪害事例

NEXCO 中日本

2014年以降の雪害事例		
2014年2月14日～	南岸低気圧	東名・中央道の大規模滞留事象 （通行止め） 東名：最大45時間、中央道：最大73時間
2018年1月22日～	南岸低気圧及び強い冬型の気圧配置による大雪・暴風雪等	全国的に影響したが、首都圏・関東・東北を中心に道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生 （最大4日の通行止め）
2018年2月4日～	冬型気圧配置	北陸地方を中心に大雪 特に福井県・石川県の北陸道・国道で 大規模滞留事象発生 （北陸道で最大47時間の通行止め）
2020年12月16日～	冬型気圧配置	北陸・東北地方を中心に大雪 特に新潟県や群馬県の関越道で 大規模留事象発生 （最大64時間の通行止め）
2021年1月9日～	冬型気圧配置	北陸地方を中心に大雪 特に福井県の北陸道、富山県の東海北陸道で 大規模滞留事象発生 （東海北陸道で最大50時間の通行止め）

大雪時の交通確保に対する基本的な考え方

従来の考え方　**「自らが管理する道路を出来るだけ通行止めにしないこと」を目標として対応**

➢**近年の降雪等による繰り返し発生する大規模な車両滞留を受け、国レベルで抜本的に雪氷対策を見直し**

●「大雪時の道路交通確保対策　中間とりまとめ」　（国土交通省／冬期道路交通確保対策検討委員会）

大雪時の道路交通確保対策　中間とりまとめ（2018年5月）

2018.5～

大規模滞留の抑制と通行止め時間の最小化を図る
「道路ネットワーク機能への影響を最小化」を目標として対応

大雪時の道路交通確保対策　中間とりまとめ（2021年3月改定）

2021.3～

「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避すること」
を基本的な考え方として対応
⇒ 予防的通行止め

名神・新名神高速道路の特徴

（名神）

- **<u>雪の難所として有名な関ケ原を通過するため、雪の降る路線として知られている</u>**
- **<u>降雪日数は多い</u>**
- **中京～関西間の大動脈で重交通路線 ※新名神が開通しても交通量が多い**
- **急な上り坂（最大勾配５％）が連続**
- **冬期にノーマルタイヤ車が一定数走行**
- **雪道でスタック車両が発生する**

（新名神）

- **<u>名神と同等あるいは名神以上に雪が降るのに、雪の降る路線として知られていない</u>**
- **<u>降雪日数は少ない</u>**
- **中京～関西間、関東～関西間の大動脈で重交通路線**
- **勾配は緩く、線形が良い**
- **冬期にノーマルタイヤ車が一定数走行**
- **雪道でスタック車両が発生する**

名神・新名神における雪害事例

NEXCO 中日本

■ **2023年　1月24日　新名神 大雪時の渋滞による滞留**

■ 2024年　1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

2023年1月24日　新名神 大雪時の渋滞による滞留

■ 事象概要

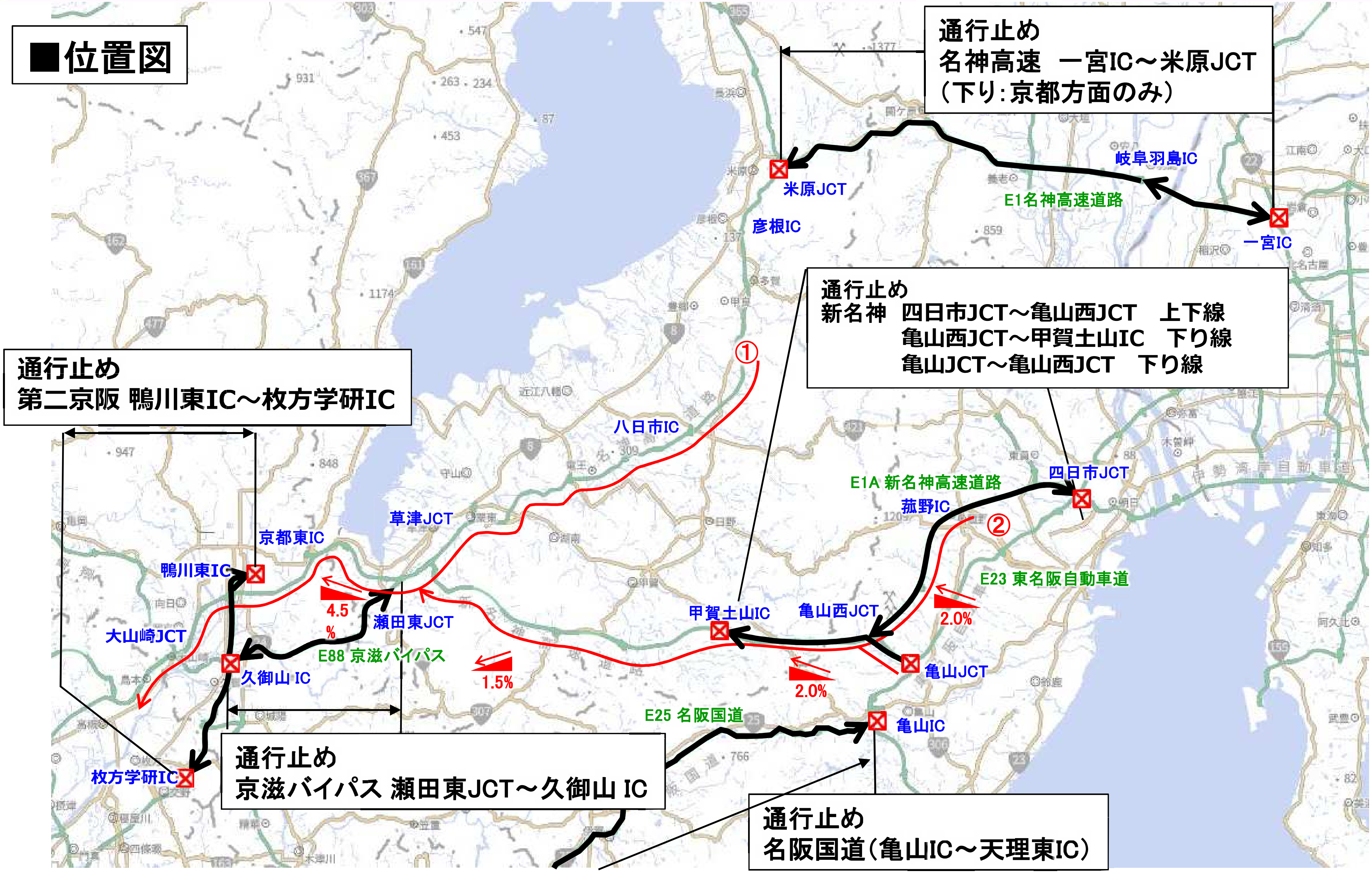
〇名神の天王山TNから延伸した渋滞が新名神に及び、渋滞区間への強降雪により滞留に変化
〇渋滞は名神で約70㎞、新名神で約66㎞。滞留解消まで約33時間。通行止めは43時間40分
〇渋滞による滞留を一時的と判断し、通行止めのタイミングが遅れたことが最大原因

■滞留状況

■滞留車救出

- 渋滞の延伸により除雪の継続が困難となった。
- 滞留車両間に積雪が生じ、一部の車両が堆雪により直ちに発進できない状況となったことで人力除雪作業を余儀なくされた。

2023年1月24日　新名神 大雪時の渋滞による滞留



2023年1月24日　新名神 大雪時の渋滞による滞留

■映像（滞留状況）

2023年1月24日　新名神　大雪時の渋滞による滞留

■乗員保護

滞留車１台ごとに支援物資を配布するとともに声掛けに合わせて健康状態を確認。
お客さまの個々の状況に応じて、体調不良者の搬送、物資支援として飲料、食料、燃料の提供を実施。

24班71人体制を構築し、乗員保護（健康状況確認、燃料配布）

■圧雪対応

広範囲での圧雪による路面凍結により、安全な路面確保のための作業が想定以上に時間を要した。
圧雪凍結路面への迅速な対処を行うための体制を整えることができなかった。

○路面凍結対策（例）

ケルヒャー車

名神・新名神における雪害事例

■ 2023年　1月24日　新名神 大雪時の渋滞による滞留

■ 2024年　1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

2024年1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

NEXCO 中日本

■ 事象概要

〇名神（関ヶ原地区）で予測を大きく上回る強降雪（時間14cm）の影響により、スタック・滞留が発生
〇後続する車列は渋滞から滞留へと移り変わり、この間にも降り続いた強降雪によって、滞留の内からも
　スタック車両が発生。通行止めは34時間。

〇 1/24 9:02　名神 スタック車両

（引用元：Google社「Google Earth」）

〇 周辺の地形と縦断勾配

2024年1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

■映像（時間14㎝記録時の関ヶ原付近）9時頃

2024年1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

■映像（時間14cm記録時の関ヶ原付近）10時頃

2024年1月24日　名神（関ヶ原地区）大規模滞留

■映像（時間14㎝記録時の関ヶ原付近）11時頃

2024年1月24日　名神（関ケ原地区）大規模滞留

滞留車両発生時の対応

○滞留車両の乗員保護要員と、救出活動に必要な人力除雪を行う要員体制を強化
（受注者や外部の協力会社の協力による応援体制増強）
○トラクターショベルやレッカー車の増車を行い、可能な限り滞留現場の近傍に前進配置
○手押し型小型ロータリーやEVバイク等の活用
○滞留車救出時における、あらゆるルート(Uターン、後退、逆行など)からの救出パターンの事前作成

これまでの雪害を踏まえた2024年度冬期の対応

【主な改善事項】

■雪による通行止め基準の見直し

■雪による通行止め区間の改善

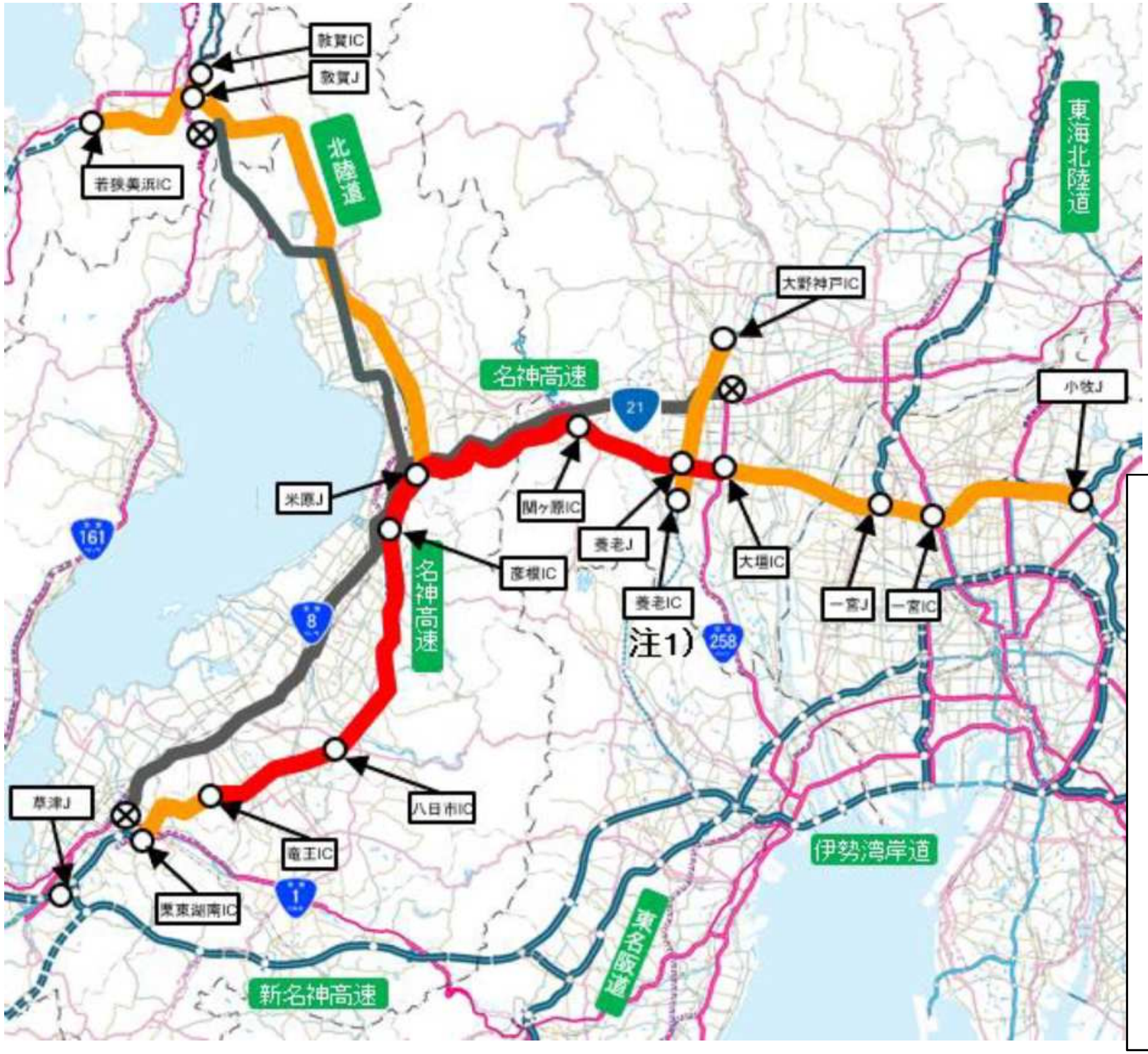
■行動変容を促す広報の強化

予防的通行止めを実施
大規模滞留を絶対発生させない

2024年度の雪害対応方針　ー通行規制範囲の見直しー

規制パターンの設定（例①）

名神通行止め時の広域的な規制パターンを設定。



名神等
＋
並行国道の同時通行止め
（1/10に実施）

■凡例

＜高速＞

超過規制区間

区間内の一か所でも基準値を超過した場合に通行止めを行う区間

広域規制区間

超過規制区間を規制した場合の広域的な迂回へ誘導するために規制が必要な区間

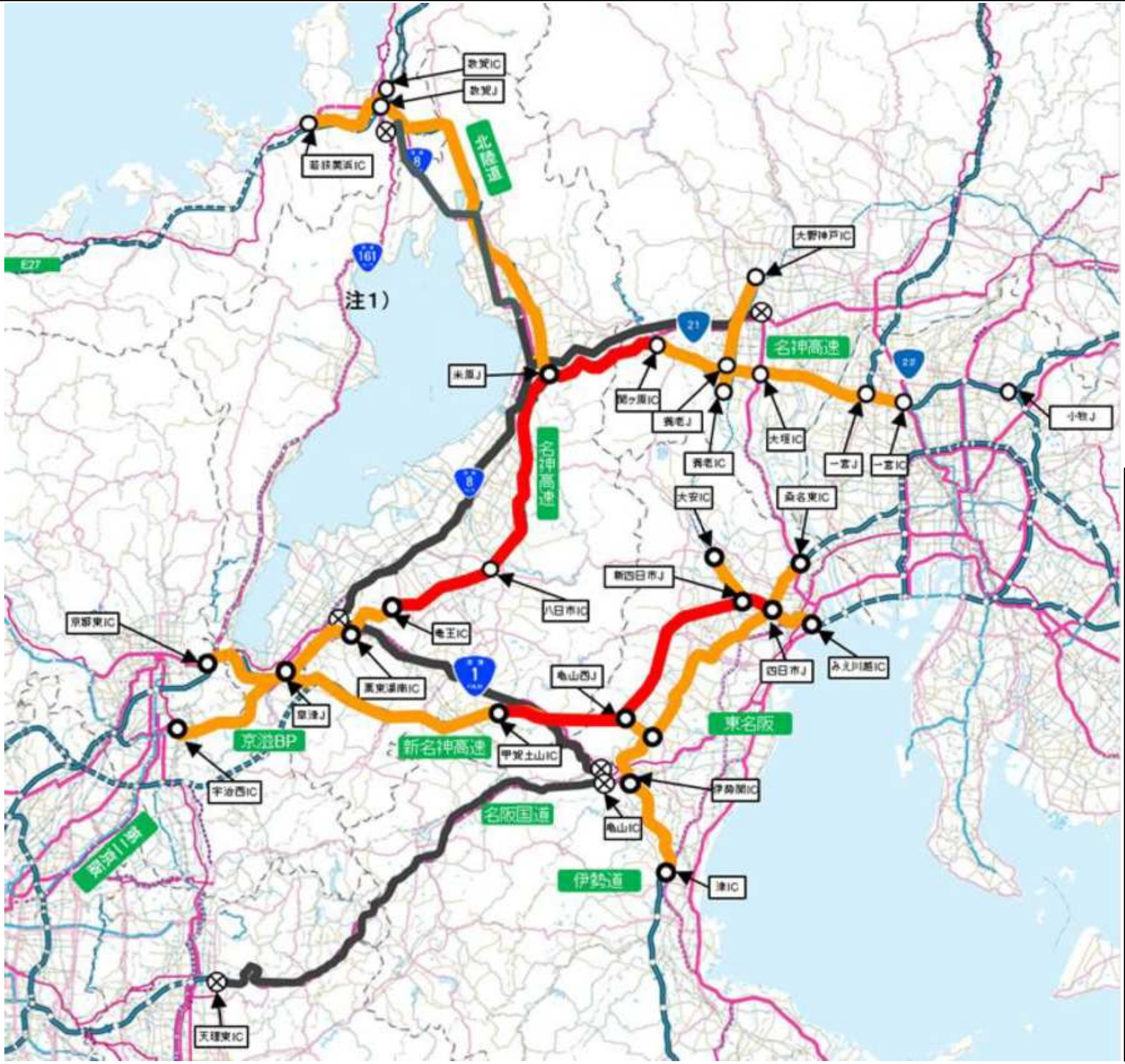
＜直轄＞

規制区間

2024年度の雪害対応方針　ー通行規制範囲の見直しー

規制パターンの設定（例②）

名神・新名神の同時通行止めは東名阪に交通が集中し、滞留車両発生リスクが増大することから、
名神・新名神・東名阪等同時通行止めの規制パターンを設定。



名神・新名神・東名阪等
＋
並行国道の同時通行止め
（2/7に実施）

■凡例

＜高速＞

超過規制区間

区間内の一か所でも基準値を超過した場合に通行止めを行う区間

広域規制区間

超過規制区間を規制した場合の広域的な迂回へ誘導するために規制が必要な区間

＜直轄＞

規制区間

行動変容を促す広報の強化

- 降雪時の注意点や危険性が十分に理解される広報（分かりやすい情報コンテンツ、臨場感のある映像）、大規模滞留の原因となる可能性が高い大型車両の総量抑制に向けた広報（運送事業者・荷主への運行計画見直しの要請等）、通行止め実施時の適切な行動変容を促す広報を強化する。

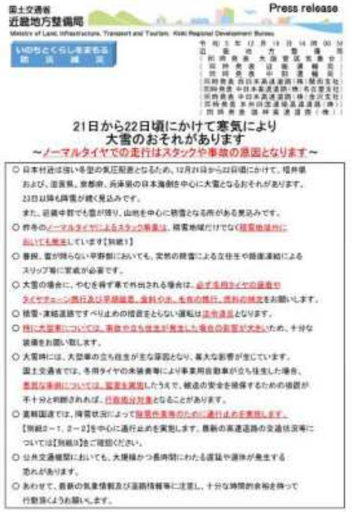
＜シーズン前や大雪が予報されている場合に行う広報＞

■降雪時の注意点や危険性を十分に理解される広報

【動画や啓発ポスター等による広報】

■車両の総量抑制に向けた広報

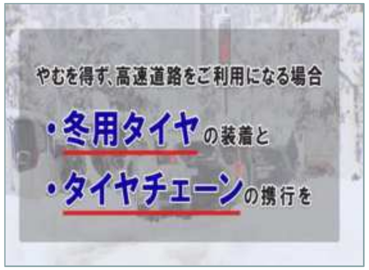
【合同記者発表等による道路ネットワーク全体の規制情報を発信】


国土交通省
近畿地方整備局
Press release

21日から22日頃にかけて寒気により
大雪のおそれがあります
～ノーマルタイヤでの走行はスタックや事故の原因となります～

合同記者説明
（中部地整・中部運輸、名古屋気象台、NEXCO中日本、名古屋高速）

【緊急CM切替による出控えの要請】

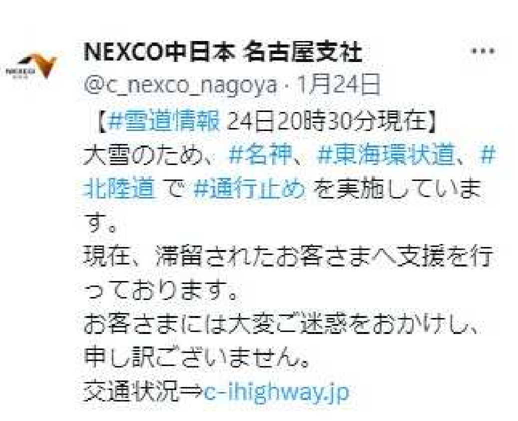


行動変容を促す広報の強化

＜通行止め後、速やかに行う広報＞

■通行止め実施時の適切な行動変容を促す広報

【SNSなどによる交通規制情報や除雪作業状況等の情報発信】



【ETC2.0等を活用したプッシュ型の情報提供（経路選択支援）】

【道路情報板や高速道路影響サイト等による情報発信】

名神　●●から先　雪通行止 関西方面は新名神経由で	●/●　●●地方大雪の予報あり！ 外出はお控えください！

2024年度の予防的通行止めの実施結果

■ ① 1月10日　名神を予防的通行止め

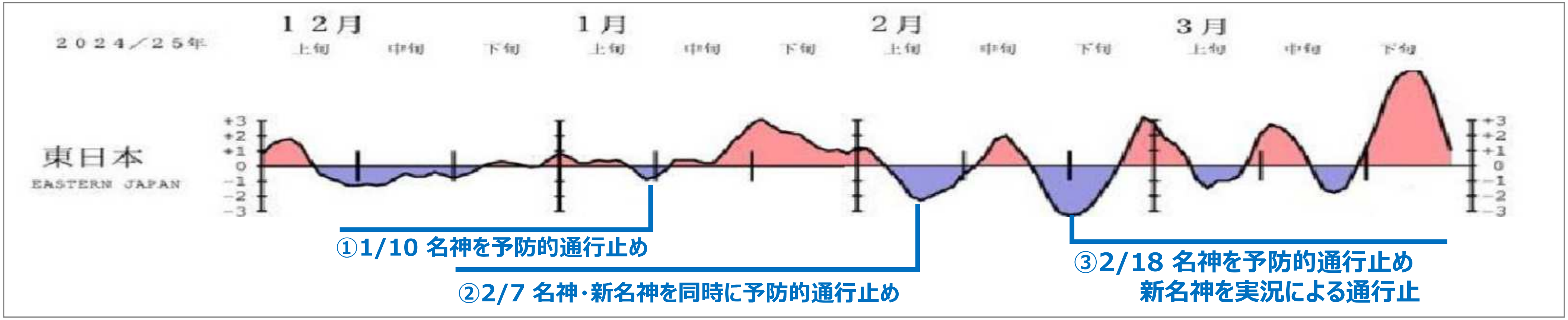
1/9夜間に強い冬型の気圧配置とＪＰＣＺが発生し、名神で予防的通行止めを実施
1/10 2時に予防的通行止め開始、15時30分に通行止め解除
通行止め時間：最大13時間30分　　大規模滞留は発生せず

■ ② 2月7日　名神・新名神を同時に予防的通行止め

2/7～8日にかけて強い冬型の気圧配置とJPCZが発生し、予防的通行止めを実施。
名神・新名神・東名阪を2/7 21時に通行止め開始、2/8 18時までに通行止め解除
滞留車は発生せず。通行止め解除後にも強降雪を観測。
通行止め時間：最大21時間　　大規模滞留は発生せず

■ ③ 2月18日　名神を予防的通行止め・新名神は実況による通行止め

2/18はJPCZ南下に伴う強降雪が予測されたが、東西交通分断による社会的影響を考慮し、予防的通行止めは名神のみとし、新名神は、降雪状況や路面状況により通行止めを判断。新名神は停止車両の発生により一部区間で通行止めを実施。
通行止め時間：最大17時間30分　　大規模滞留は発生せず



2024年度名神・新名神の通行止め事象まとめ
～予防的通行止めの効果（未実施と実施の比較）～

○ 2024年度は高速道路と並行国道の同時予防的通行止めの実施により、大規模滞留の発生を未然に防止
○ 通行止め時間は過去の滞留発生時と比較し大幅に削減

■ 予防的通行止め未実施

（2022年度）

①2023年1月25日～（最大43時間40分）
うち約28時間は滞留車解消に要した時間
新名神での大雪時の渋滞による滞留発生事象
⇒最大滞留長：約70km

主な路線名	通行止め時間
名神（一宮IC～米原JCT）	23時間10分（1/24 21:00～1/25 20:10）
新名神（四日市JCT～甲賀土山IC）	43時間40分（1/25 3:50～1/26 23:30）

滞留状況

滞留車救出

圧雪対応

（2023年度）

②2024年1月24日～（最大34時間）
うち約19時間は滞留車解消に要した時間
名神（関ケ原地区）の大雪時における大規模滞留事象
⇒最大滞留長：約6.6km

主な路線名	通行止め時間
名神（岐阜羽島IC～栗東湖南IC）	34時間（1/24 9:30～1/25 19:30）

スタック状況

滞留車救出

人力除雪

■ 予防的通行止め実施

（2024年度）

③2025年1月10日～（最大13時間30分）滞留車は発生せず

主な路線名	通行止め時間
名神（一宮IC～栗東湖南IC）	13時間30分（1/10 2時～1/10 15時30分）

④2025年2月7日～（最大21時間）滞留車は発生せず

主な路線名	通行止め時間
名神（小牧JCT～京都東IC）	19時間（2/7 21時～2/8 16時）
新名神（四日市JCT･亀山JCT～草津JCT）	21時間（2/7 21時～2/8 18時）

⑤2025年2月18日～（最大17時間30分）滞留車は発生せず

主な路線名	通行止め時間
名神（一宮IC～栗東湖南IC）	17時間30分（2/18 16時～2/19 9時30分）

一宮IC付近

新名神 錐ヶ瀧橋付近

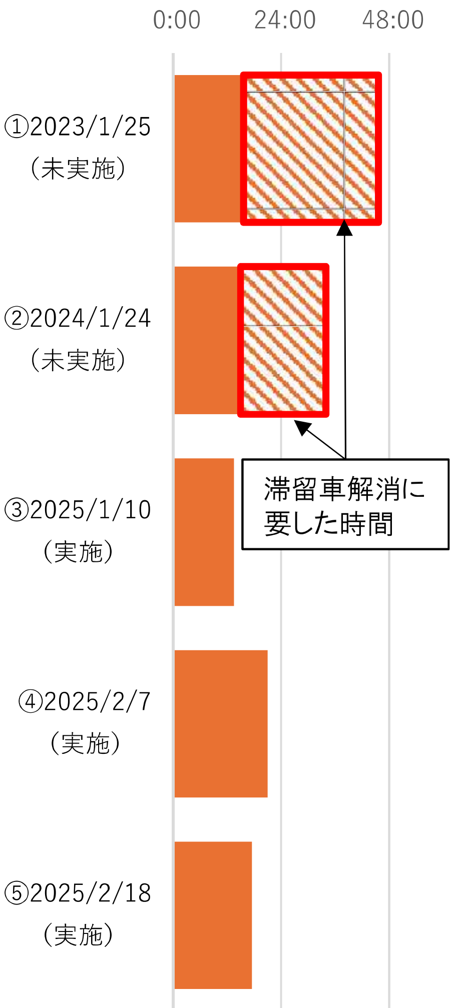
名神 関ケ原IC付近（山中）

関ケ原IC付近（関ケ原TN）

新名神 菰野IC付近

名神 彦根IC付近

■ 通行止め時間比較



○大規模な車両滞留が発生した場合、梯団除雪作業が困難となります。また、その間に降り積もる雪が圧雪となるなど、作業をより困難とさせます。
○皆さまお一人おひとりのご協力による外出の自粛が、車両滞留発生防止及び通行止めの早期解除にも繋がりますので、引き続きのご協力をお願いします。

一般ドライバー及び荷主企業を含む物流業界の皆様へのお願い

- 大規模なスタックは12月後半に一番多く発生しています。
  まだ冬用タイヤに交換できていない方は、ただちにタイヤ交換をお願いします。

- 積雪、凍結道路で滑り止めの措置を取らない場合は道路交通法令違反となります。

- 大雪時には大型車の立ち往生により甚大な影響が生じていることが多く、立ち往生車両を発見した場合は、SNS等を活用した情報発信を行います。また国土交通省では、冬用タイヤの未装着等により事業用自動車が立ち往生した場合、悪質な事例については、監査を実施した上で、輸送の安全を確保するための措置が不十分と判断されれば行政処分対象となることがあります。

- 気象急変により想定以上の降雪となる場合もありますので、ドライバーの方々におかれましては、お出かけ前に最新の気象情報及び道路情報を必ず確認してください。報道や各種HPにて大雪の可能性がある情報を得た場合は、命を守るため外出を控えていただき、荷主を含む物流業界においては「運行経路の変更」・「運行の中止」のご検討をお願いします。

令和５年１月　新名神高速道路での滞留状況

令和６年１月　名神高速道路での滞留状況

ご清聴ありがとうございました

中日本

運輸防災マネジメントについて

令和７年１２月３日

中部運輸局　総務部　安全防災・危機管理課

はじめに

大規模自然災害が発生した場合、阪神・淡路大震災（1995年）、東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）、令和6年能登半島地震（2024年）の例を見るまでもなく、**国、地方公共団体、運輸事業者等が連携**し、被災者への緊急支援物資輸送や不通となった鉄道等の代替輸送等を確保することが求められています。

降雪期における雪害対応についても、関係機関が連携し、立ち往生した車両（列車）内のドライバーや旅客等の**避難、救助、救護に向けた支援**等を実施する必要があります。

そのため、本資料は、**運輸事業者及び地方公共団体の防災担当者の方々を対象**とし、過去の雪害等から見えてきた課題対応について、関係する法令や他社事例等も含め、マネジメントを行う観点から作成しています。今後の雪害対応の一助となれば幸いです。

目　次

1.　頻発化、激甚化する自然災害
✓雪害の発生と被害状況
✓被災経験から得られた課題と対応
2.　運輸防災マネジメントのポイント
✓経営トップの責務
✓安全方針と防災の基本方針
✓リスク評価
✓事前の備え
✓関係者との連携
3.　その他のポイント
✓他事例からの学び
✓参考情報

1. 頻発化、激甚化する自然災害

✓雪害の発生と被害状況

✓被災経験から得られた課題と対応

2. 運輸防災マネジメントのポイント

✓経営トップの責務

✓安全方針と防災の基本方針

✓リスク評価

✓事前の備え

✓関係者との連携

3. その他のポイント

✓他事例からの学び

✓参考情報

雪害の発生と被害状況

１． 自然災害の頻発化・激甚化

近年、地震、豪雨、雪害等の**自然災害が頻発化・激甚化**している。

降雪期における雪害については、普段から雪に慣れている地域においても、想定を超える積雪となり、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航、**大規模な車両の立ち往生等**が**毎年のように発生**。

２． 直近の災害救助法の適用実績

①大雪による交通障害等

- 令和2年12月16日からの大雪：新潟県2市町
- 令和3年 1月 7日からの大雪：秋田県7市町村、新潟県6市、富山県4市、福井県5市
- 令和4年12月17日からの大雪：新潟県4市
- 令和5年 1月24日からの大雪：鳥取県1町
- 令和6年 1月23日からの大雪：岐阜県1町
- 令和6年12月28日からの大雪：青森県10市町村
- 令和7年 2月 4日からの大雪：福島県2市11町5村、新潟県3市1町

②大雪による長期停電

- 令和4年12月22日からの大雪 北海道10市町、新潟県2市

③地滑り

- 令和3年新潟県糸魚川市における地滑り：新潟県1市

内閣府 災害救助法 検索

※災害救助法法は、被災者の生命や身体を守るために、国や地方自治体が実施する救助活動に関する法律で、発災直後の負傷者の救助、避難誘導、応急処置、食料、飲料水、毛布等の物資の提供、避難所の設置等が行われます。

雪害の発生と被害状況

■「著しく異常かつ激甚な非常災害」が発生した場合、国が特定災害対策本部等を設置し、被災地を支援

年月日	災害	緊急災害対策本部		非常災害対策本部		特定災害対策本部	
		政府	国交省	政府	国交省	政府	国交省
H23. 3. 11	東日本大震災（震度7）	○	○				
//	//						
H28. 4. 14	平成28年（2016年）熊本地震（震度7弱）			○	○		
//	//						
H30. 6. 18	大阪府北部を震源とする地震（震度6弱）					○	○
H30. 7. 8	平成30年7月豪雨			○	○		
H30. 9. 6	平成30年北海道胆振東部地震（震度7）					○	○
H31. 2. 21	北海道胆振地方中東部を震源とする地震（震度6弱）						○
R1. 6. 18	山形県沖を震源とする地震（震度6強）					○	○
R1. 7. 3	6月下旬からの大雨					○	○
R1. 7. 22	梅雨前線に伴う大雨及び令和元年台風第5号					○	○
R1. 8. 14	令和元年台風第10号					○	○
R1. 8. 28	令和元年8月の前線に伴う大雨					○	○
R1. 10. 13	令和元年東日本台風			○	○		
R2. 7. 4	令和2年7月豪雨			○	○		
R2. 9. 4	令和2年台風第10号					○	○
R2. 10. 9	令和2年台風第14号					○	※2
R2. 12. 17	豪雪					○	※2
R2. 12. 30	豪雪					○	※2
R3. 1. 6	豪雪					○	※2
R3. 2. 13	福島県沖を震源とする地震（震度6強）					○	○
R3. 7. 3	令和3年7月1日からの大雨			○	○		
R3. 8. 13	令和3年8月の大雨					○	○
R3. 10. 7	千葉県北西部を震源とする地震（震度5強）						○
R4. 3. 16	福島県沖を震源とする地震 （震度6強）						○
R4. 6. 19	石川県能登地方を震源とする地震 （震度6弱）						○
R4. 7. 19	令和4年7月14日からの大雨						○
R4. 7. 24	桜島の噴火（レベル5）						○
R4. 9. 17	令和4年台風第14号					○	○
R4. 12. 17	令和4年12月17日からの大雪						○
R4. 12. 22	令和4年12月22日からの大雪						○
R4. 12. 28	年末年始の大雪						※2
R5. 5. 5	石川県能登地方を震源とする地震 （震度6強）						○
R6. 1. 1	石川県能登地方を震源とする地震 （震度7）			○	○		
R6. 4. 17	豊後水道を震源とする地震（震度6弱）						○
R6. 8. 8	宮崎県日向灘を震源とする地震（震度6弱）						○
R6. 8. 28	令和6年台風10号					○	○
R7. 7. 3	トカラ列島近海を震源とする地震 （震度6弱）						○

※1　R3. 5. 20以前は関係閣僚会議、災害対策本部。※2　警戒体制、注意体制下で幹部連絡会議を開催。

雪害の発生と被害状況

平成30年2月　出庫が出来なくなったバス営業所
出典：今後の大雪に関する対策【平成30年2月豪雪】（福井県）

令和２年12月　関越自動車道の立ち往生発生状況
出典：国土交通省

令和3年1月　北陸自動車道の車両滞留
出典：国土交通省

令和5年1月　避難誘導の様子
出典：京都府　大雪対応の検証報告書

雪害の発生と支援状況

平成26年2月　大雪時の帰宅困難者支援
出典：大雪対応に係る検討結果報告書（神奈川県相模原市）

平成30年2月　市町村による立ち往生車両の支援（福井県坂井市）
出典：市町村のための降雪対応の手引き　内閣府

令和4年12月　滞留車両乗員への食料等の提供
出典：国土交通省

令和4年12月　車両立ち往生解消のための除雪作業の状況
出典：市町村のための降雪対応の手引き　内閣府

被災経験から得られた課題と対応

１．自然災害（雪害）から得られる課題

近年、大規模な立ち往生に伴うドライバーや旅客の車内滞留が多数発生し、安全・安定輸送に関わる課題が顕在化。

①的確な気象情報・道路情報を把握する必要性

②上記①を踏まえた、安全最優先の運行(航)計画（中止又は広域迂回）について、然るべき判断を行うことの重要性

③立ち往生等が発生した場合におけるドライバーや旅客等の避難、救助、救護に向けた運輸事業者と国、地方公共団体との連携の重要性

④雪に対する事前の備えの必要性

２．雪害への対応ポイント

①降雪・積雪の予測はある程度可能。最新の気象予報・警報、道路交通情報をもとに、積雪や視界不良による運行中の立ち往生等を防止するための迅速な判断と対応が極めて重要

②雪崩、融雪による河川の増水に伴う二次災害にも十分な注意が必要

③旅客・貨物輸送の一時運休・停止について、旅客・荷主等に前広に周知

④国・地方自治体・関係機関との連絡を密にし、車内等に滞留するドライバーや旅客等の避難・救助・救護に向けた支援体制を構築しておくことが重要

⑤トラック等の場合、突発的な大雪に備え、適切な冬用タイヤやチェーン、車内への食料・飲料などの備えも大切

被災経験から得られた課題と対応

１． 課題の顕在化

近年、**従前の被害想定を上回る自然災害**により、安全・安定輸送に関わる多くの課題が顕在化。

２． 課題の内容

これらの近年の事例からは、**ハード面の強化だけではなく、自然災害発生の前後でのソフト面の対応の重要性が明確**になった。

令和2年7月6日に**「運輸防災マネジメント指針」**を策定・公表し、**「運輸安全マネジメント制度」を「自然災害対応」に活用**することを促進している。

運輸防災マネジメント指針　検索

「災害対策基本法」に作成することが義務づけられている各種計画に基づき、**国、地方公共団体、運輸事業者等が連携**し、迅速かつ効果的に対応できる体制を構築し、機能させることが求められている。

内閣府　災害対策基本法　検索

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

運輸防災マネジメント指針の目的と事業継続の必要性

１．運輸防災マネジメント指針の目的

国民生活や社会経済活動の維持に大きな役割を担う**運輸事業者**には、以下の ①、②が期待され、自然災害への的確で柔軟な対応力の向上が求められている。

①被害の軽減、拡大防止

発災時においてもできるだけ**被害を軽減し、被害の拡大防止を図ること**

②事業継続（BCP：Business Continuity Plan）

業務活動の維持や早期回復を図ること

２．事業継続の必要性

運輸事業は、**国民生活と国民経済を支える重要インフラ**として、発災時においても、① 物流：必要な物資の輸送・緊急支援物資輸送、②人流：通勤・通学、避難・支援輸送として、その**機能を維持**することが求められる。

３．重要な留意点

人命の確保、輸送の安全を確保することが最優先事項。運輸事業者には、人命の確保、輸送の**安全が確保された後**、**必要な輸送の継続**を図ることが期待される。

災害対策基本法で求められる責務と対応

１．災害対策基本法で求められる責務

　災害対策基本法は、災害に関係する官民も含めた機関に対し、国民の身体、生命、財産を守る観点から、**それぞれの立場で為すべきことについて責務**として実施することを促している。

　また、災害時の緊急輸送については、一部の交通運輸事業者を**「指定公共機関」**、**「指定地方公共機関」**として指定し、災害時での**協力要請**を行うこととしている。

　運輸防災マネジメント指針では、災害対策基本法の考え方を取り込んで、運輸事業者の防災の在り方をより具体的に記載し、以下について規定されていることを取り上げている。

（１）指定公共機関、指定地方公共機関の責務（法第6条第2項）

①業務に係る**防災に関する計画（防災業務計画）を作成・実施**

②国、都道府県及び市町村の防災計画**（地域防災計画）**の作成及び実施が円滑に行われるように、その業務について、当該**都道府県又は市町村に対し協力する責務**

（２）指定公共機関　14者

①JR7者(北海道・東日本・東海・西日本・四国・九州旅客鉄道㈱、日本貨物鉄道㈱)

②トラック運送事業者等　7者（日本通運㈱、福山通運㈱、佐川急便㈱、ヤマト運輸㈱、西濃運輸㈱、(公社)全日本トラック協会、(一社)AZ-COMネットワーク）

（３）指定地方公共機関　**約430者**（事業者団体等を含む概算値）

■福井県「地域防災計画（雪害対策編）」

　バス事業者は、運行体制や「雪害に関する事業継続計画」等を見直し、異常降雪時には**優先的に確保する路線を事前に設定**し、道路管理者に対して**バスの運行に必要な除雪の実施を求めるよう努める**ものとする。

災害対策基本法で求められる責務と対応

２．防災に関する責務の明確化

災害対策基本法には、国、都道府県、市町村、指定公共機関及び指定地方公共機関に関する責務が明確化されており、それぞれ防災に関する計画を作成し、それを実施するとともに相互に協力する等の責務があることが規定されています。

防災基本計画

各種防災計画の基本

中央防災会議（会長：内閣総理大臣）

※内閣総理大臣をはじめ全閣僚、指定公共機関の代表者、学識経験者により構成

【計画に定める事項】
- ○防災に関する総合的かつ長期的な計画
- ○防災業務計画及び地域防災計画において重点をおくべき事項
- ○上記のほか、防災業務計画及び地域防災計画の作成の基準となるべき事項で、中央防災会議が必要と認めるもの

防災業務計画

指定行政機関　：　中央省庁
指定公共機関　：独立行政法人、日本銀行、日本赤十字社、日本放送協会、通信会社、電力会社、ガス会社、道路会社、鉄道会社など

【計画に定める事項】
- ○所掌事務について、防災に関しとるべき措置
- ○上記のほか、所掌事務に関し地域防災計画の作成の基準となるべき事項（指定行政機関の防災業務計画）

地域防災計画

都道府県防災会議（会長：知事）
市町村防災会議（会長：市町村長）

【計画に定める事項】
- ○指定地方行政機関、都道府県及び市町村、指定公共機関、指定地方公共機関及び区域内の公共的団体その他防災上重要な施設の管理者の処理すべき事務又は業務の大綱　（※都道府県の場合）
- ○地域に係る防災施設の新設又は改良、防災のための調査研究、教育及び訓練その他の災害予防、情報の収集及び伝達、災害に関する予報又は警報の発令及び伝達、避難、消火、水防、救難、救助、衛生その他の災害応急対策並びに災害復旧に関する事項別の計画
- ○地域に係る上記の措置に要する労務、施設、設備、物資、資金等の整備、備蓄、調達、配分、輸送、通信等に関する計画

地区防災計画

1.　頻発化、激甚化する自然災害

✓雪害の発生と被害状況

✓被災経験から得られた課題と対応

2.　運輸防災マネジメントのポイント

✓経営トップの責務

✓安全方針と防災の基本方針

✓リスク評価

✓事前の備え

✓関係者との連携

3.　その他のポイント

✓他事例からの学び

✓参考情報

運輸防災マネジメントのポイント

（１）経営トップの責務
（２）防災の基本方針
（３）リスク評価
（４）事前の備え
（５）代替性の確保
（６）平時と非常時の体制
（７）自然災害の態様に応じた対応
（８）楽観主義の排除（思い込み（バイアス）の排除）
（９）関係者との連携
（10）利用者への情報発信
（11）教育と訓練
（12）見直し・改善（他事例の学び）

赤字に絞って説明

運輸防災マネジメントのポイント

1.リスクの洗い出し

○積雪・降雪予報や過去の雪害事例等を分析
→自社の雪害リスクを洗い出し
- 積雪害：車両の立ち往生による従業員や旅客等の安全確保
- 雪圧害：架線柱の倒壊や架線の切断
- 着雪害：視界不良、ブレーキ性能低下
- 暴風雪：突風等に伴う車両の転覆
- 雪　崩：車両の埋没

2.被害･事業への影響度を見積り

○人的（旅客、従業員等）物的（車両、施設等）インフラ被害を見積り
○旅客の輸送、サプライチェーンへの影響度を予測

3.リスク評価の実施

頻度 × 一度発生した場合の重大度

↓

優先度の高いリスクから対策を

4.対策目標の設定と対策計画の作成

○リスク評価を踏まえた対策目標設定
- 除雪体制の構築
- 緊急時の人員体制を確保
- 従業員等の通勤手段を確保
- 備蓄品の確保
- 緊急時の連絡網の作成
- 関係機関と連携した訓練　等

○対策計画等の作成
- 防災の基本方針
- 事業継続計画
- タイムライン　等

- 運輸事業者は、災害対策基本法に基づき**地方公共団体が作成する「地域防災業務計画」に協力**

5.課題解決の対策を実行

○優先度を勘案し実施
- 優先して再開する路線の除雪
- 関係機関と連携した滞留者の救助等

○対策実行後
振り返りの場を設け
見直し・改善

想定･過去事例を上回る可能性

（１）経営トップの責務

（１）経営トップの責務

１．トップダウン

①自然災害に対する備えや発災直後の対応は、危機管理そのものであり、トップダウンで対応する体制が必要

②災害発生時、経営トップはいち早く災害対策本部に参集し、自ら対策を指示

２．経営判断

①事前の備えや事業継続のため経営資源（予算と要員等）の配分、優先的に再開する事業の事前策定等も求められるため、経営上重要な判断が必要

②例えば、鉄道の計画運休などのように一旦中止する経営判断が必要となるケースもあることから、経営トップの対応が必要

大規模な雪害発生時には経営トップの判断が必要

①予測可能な雪害

一部運休　→　全面運休　→　一部再開　→　全面再開の判断が必要

判断できる情報を即時に受け取れる体制・仕組み（災害対策本部の設置等）が必要

②被災時の復旧に向けた経営資源の選択と集中

現場は自分の持ち場に集中　→　経営トップは全体を俯瞰して、優先する現場、後回しにする現場の判断が必要

非常時の体制

３．非常時の体制

１）発生直後の緊急対応（人命最優先、緊急参集）

①経営トップを本部長とする**災害対策本部の立ち上げ**
②人命最優先の考えから、**運行継続の可否判断、旅客・社員職員の安否確認を行う初動対応が最優先**
③本社、現場の被害状況、社会インフラ、今後の気象情報等を**情報収集**
④**旅客・荷主への情報提供**
⑤通信手段による経営トップからの指示により災害対策本部の設置等を判断すれば、予め準備している対応手順が発動、手順に示した行動が可能

２）緊急対応がある程度収束した後の対応

①輸送、災害拠点の復旧・再開のため被害状況確認、**事業継続のために必要な情報収集**
②**事業継続の判断の場合**「重要な輸送業務を優先する判断」とは、「当面、復旧を見合わせる輸送業務の判断」の裏返しで、経営トップ以外では事前に方向性を定めていないと判断困難
③災害拠点の復旧活動、運行（運航）再開の判断
④以下を事前に決めておき、本社、事業拠点毎に担当と手順を記載した「**発災時の業務担当一覧表**」を作成しておくと円滑な業務が可能。
・被害状況について具体的に確認すべき事項
・確認の方法（いつ、だれが、だれに、どうやって）

緊急参集時に留意すべき点

3）緊急参集に関する留意すべき点

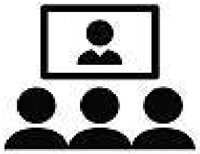
経営トップは、非常時には被害の軽減・拡大防止のため、速やかに本社（状況によっては第二拠点）に参集することが必要。

被災により交通及び通信が断絶するおそれがあり、**経営トップが全社に指示を発出する体制をとることができないリスク**が存在。以下のような対策が必要。

①経営トップの代理者の指定

経営トップが参集できない場合を想定し、予め、**代理者を指定**

②社外からの参加

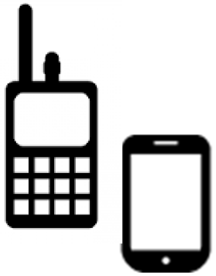


社外からも参画できるよう**ICTを活用**

③至近のホテル等への宿泊

大雪被害が予想される場合は**予め至近のホテル等に宿泊**

④通信手段の代替化



通信手段は**代替的なものを含め複数用意**

⑤緊急参集基準の設定

連絡なくとも**緊急参集する基準の設定**（例：本社・支店所在地等で震度6強）

①自然災害は、**直後の初動対応**が被害拡大防止のために非常に重要

②発災時に最も重要なことは**迅速な対応**。時間が経てば経つほど、被害もダメージも大きくなり、事業の早期回復も困難になる。

③迅速な初動対応により、旅客、社員・職員の安全確保が出来れば、その後の事業の**早期回復・継続**に速やかにつなげることができる。

安全な運行に向けた運行判断　事例①（バス事業者）

自動車モード（バス）＜新潟交通株式会社＞

すべては安全から――
新潟交通

取組内容

①豪雪時の対応体制の構築

豪雪時の対応マニュアルを策定し、対応体制を以下のとおり構築

◆**対策本部の設置基準**：**新潟地方気象台16時時点**で発表する降雪予報（17時から翌9時までの予想降雪量）において**下越海岸部で最大20cmを超えた場合**

◆**対策本部の体制**：
対策本部長：乗合バス部長（統括）、対策副本部長：運営センター販売課長（本部長代理）、運営センター運行課長（運行判断・指示、除雪対応）

◆**早朝の巡回体制の構築**：
上記の対策本部設置基準が満たされる場合、以下の表に基づき**巡回**を実施し、**路線毎に運行・運休・迂回運行を判断**。始発5:30までに**利用者へHP等で情報提供**→R2年度2班体制での運用状況を踏まえ、R3年度からは3班体制へ**見直し・改善**

	出勤時間	担当（2班体制→3班体制）	役　割
一次出勤者	4:00	責任者	運休・迂回運行の決定
		コントローラー(責任者補助)	路線状況の集約・営業所への指示
	巡回後5:30	各路線毎の担当者	社用車で担当路線巡回、 運行可否判断後、本社出勤 運休・迂回の場合、停留所掲示作業
二次出勤者	6:30	・新潟駅周辺	・新潟駅前の旅客案内・除雪
		・バスセンター	・旅客案内

事業継続に向けた路線の選別　事例②（バス事業者）

自動車モード（バス）＜新潟交通株式会社＞

すべては安全から――
新潟交通

取組内容（続き）

②雪かき作業

各営業所内敷地は、除雪車を配備し、除雪体制を構築。バス停付近は担当部署以外を含め人海戦術による除雪。降車場所と乗車場所の2箇所を除雪

③冬タイヤの管理

毎年、早め（11月中旬）に新品を購入し冬用タイヤへ履き替え。雪シーズン後もそのまま交換せず履き潰して毎年同じ時期の交換により冬期には<u>常に良い状態のタイヤを維持</u>

④豪雪時に優先される路線の明確化と利用者への情報提供

降雪期には道路管理者との連携により非常時運行体制を実施。豪雪時には、自治体の除雪能力の限界を踏まえ、道幅が狭くなることから安全な運行ルートを確保するため近接の幹線道路に迂回するなど、<u>「必ず運行する路線」</u>と<u>「降雪状況よって、一部迂回、運休区間が発生する路線」</u>を区別し<u>優先順位を付け</u>運行を継続。
<u>利用者へHP等を通して迅速・的確な運行情報を提供</u>

取組の効果

①豪雪時の路線の優先順位を踏まえた安全な運行の維持
②利用者への適時・適切な運行情報の提供

（２）防災の基本方針

（２）防災の基本方針

１．安全方針への自然災害対応の追加

ガイドラインには、運輸事業者に輸送の安全確保に関する基本理念として、「安全方針」を策定することを推奨しており、安全方針に自然災害対応を組み込むか、別途定め、自社内外に周知することを推奨

> 安全方針には、輸送の安全の確保を的確に図るために、少なくとも次に掲げる事項の趣旨を盛り込むものとする。
> ①安全最優先の原則
> ②関係法令等の遵守
> ③安全管理体制の継続的改善等の実施
> なお、事故、自然災害等が発生した際の行動理念として**人命最優先の原則**の趣旨を**安全方針**、又は事故、自然災害等への対応に係る**社内規則・ルール**等に盛り込むものとする。
> また、社員・職員等にその内容を理解させ、実践することができるよう、できるだけ簡明な内容とする。

２．安全・防災の風土・文化の構築

防災は、輸送の安全確保に不可欠な要素であるが、いざというとき大切なのは、**頭と体が直ちに反応するよう、必要な対応を社員・職員が各自で身につけておくこと。**そのためには、経営トップが、統一的に、事業者の意思及び方向性を職場内外に明確に示して、社員・職員に内容を十分理解させ、**事業者等の風土・文化として定着**させることが重要

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

【参考】安全方針と防災の基本方針

その1

安全方針

- ---------------------
- ---------------------

防災対応マニュアル

- 防災の基本方針

その2

安全方針

- ---------------------
- ---------------------
- 防災の基本方針

形式は事業者が判断して決定

▼

社員・職員への浸透度合いを定期的に確認

▼

★最終目標

社員・職員の一人ひとりが方針に則り行動できること

【参考】社内規則・ルールに盛り込む場合の例示

例1．自然災害の発生時には、利用者、社員・職員、関係者の安全確保を最優先とし、〇〇駅、〇〇駅、〇〇駅発着の主要路線の運行業務を維持する。

例2．自然災害による被害発生時には、安全を最優先とし、従業員の安全確保と事業資産の保護を図り、事業の早期復旧とサプライチェーンへの影響の最小化に取組み、荷主及び関係企業との連携強化と信頼確保に努め、緊急救援物資輸送など社会的使命を果たすことを基本方針とする。そのため、事業継続のための体制、具体的な対策及び仕組みを、事業継続計画（BCP）として策定して発災時の運用規定とする。

例3．弊社の自然災害発生時の基本方針は、安全最優先とした上で、次に掲げるとおりとする。

(1) 社員とその家族等の安全確保、航空機の安全確保を第一とする。

(2) 国、地方等の機関と連携して共同対処により実効性を確保する。

(3) 運航一時休止の場合、早期再開に向け会社の重要機能・重要業務の維持・継続を図り、機能の損失等があった場合にはその早期復旧に努める。

【参考】安全方針に盛り込む場合の例示

事例 ： JR東日本の安全綱領

(1) 安全綱領

安全に関わる社員の行動規範として安全綱領を、2012年3月に改正しました。これまでの多くの経験や東日本大震災での対応を踏まえ、「異常時は、まず冷静になってから選択肢を並べ、最善の行動を選択する」という趣旨と、JR東日本の安全推進の基本的な考えである「自ら考え行動する」という趣旨を反映することとし、第5項に「あわてず、自ら考えて、」という表現を加えました。

1.安全は輸送業務の最大の使命である。
2.安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
3.確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
4.安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
5.疑わしいときは、あわてず、自ら考えて、最も安全と認められるみちを 採らなければならない。

出典：JR東日本安全報告書2014

冷静な対応に向けた取組　事例③（トラック事業者）

自動車モード（トラック）<西濃運輸株式会社>

概要　**取組事例**　緊急時対応ボックスの作成

　平成７年１月の阪神淡路大震災の経験から、**災害発生時には即座に被害軽減のための対応を行わないと間に合わない**こと、また**既存の文書に対応を記載しても忘れてしまう**ことを学んでいる。
　このため、**災害発生時に行うべきことをわかりやすく記載したカード**を収納する緊急時対応ボックス（通称**マル緊ＢＯＸ**、下記画像を参照）を作成し、すぐに取り出しを可能とするため、店所長席の後方（キャビネットの上など）に保管している。

【マル緊ＢＯＸの内容】

（１）災害時対応項目カード

発災時の時に対応すべきことを時系列に「最優先確認事項」、「ライフラインの関係」、「事業継続関係」の順番にカード化し、災害時に各担当者にこのカードを渡して容易且つ迅速に対応する仕組みを構築

（２）災害用ベンダー（自販機）の鍵

発災時の飲料水確保のため、マル緊ＢＯＸに災害用ベンダー機能がある飲料用自販機を開錠するための鍵を保管。

マル緊BOX

取組の効果

平成３０年７月の西日本豪雨の際、店所長がマル緊ＢＯＸから風水害に関係するカードを担当者に振り分け対応したが、**落ち着いて行動することができた。**

防災上の課題情報

- **発生情報**　：　起きたこと　　⇒　【再発防止】
  - 発災時の対応を分析し、対策を講じないと同種被害が再発
- **進行情報**　：　起きていること　⇒　【被害拡大防止】
  - 今生じている被害には、迅速に対応しないと被害が拡大
- **先行情報**　：　起こり得ること　⇒　【事前被害防止】
  - 発生が予見される自然災害は、一つ一つ整理して、発生リスクを小さくしないと被害が拡大

脅威は、時々刻々、日々年々変わる

- 事前に予測可能な自然災害については、過小評価することなく、**先読み**で、被害拡大防止に努めることが重要

（３）リスク評価

（３）リスク評価

リスクを正しく評価することが防災の第一歩。遭遇する懸念のある**自然災害の種別と程度を把握、リスク評価**を行った上で、**事前の備えから事後の対応までの対策**を実施

☛ 雪害に関しては、**積雪・降雪予報、過去の積雪状況等によりハザードを把握する必要有**

【雪害ハザードの具体的な把握方法】

- 気象庁　今後の雪（降雪短時間予想）1時間毎に推定した現在の**積雪の深さ**と**降雪量の分布**、及び**6時間先までの予測**　等
- 気象庁　過去の気象データ検索
- 重ねるハザードマップ（**雪崩危険箇所**、**予防的通行規制区間**）
- 道路・路線等サイト設置カメラからの情報等

【留意すべき点】

①実践的で簡潔な計画

被害想定を細かく見積ると、多数の計画を詳細に作ることになるため、実践的で簡潔な計画が望まれる

②楽観主義の排除

自然災害は必ず起きる、いつ被災しても不思議でないと心得ること
「ウチは大丈夫」「今回も大丈夫」との**根拠なき楽観主義を排すること**

雪害対応のタイミングをはかる情報

早期注意情報（警報級の可能性）

- 警報級の現象が5日先までに予想されているときには、その可能性を「早期注意情報（警報級の可能性）」として［高］、［中］の2段階で発表しています。
- 警報級の現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶなど社会的影響が大きいため、可能性が高いことを表す［高］だけでなく、可能性が高くはないが一定程度認められることを表す［中］も発表しています。

新潟県中越の早期注意情報(警報級の可能性)

新潟県中越		12/28 11:00発表					12/28 11:00発表			
種別		28日		29日			30日	31日	1日	2日
		夕方まで	夜〜明け方		朝〜夜遅く					
		12-18	18-24	0-6	6-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	−
	1時間最大雨量(ミリ)	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下				
	3時間最大雨量(ミリ)	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大雨量(ミリ)			50以下						
大雪	警報級の可能性	−	−		−		[中]	[高]	[高]	[中]
	6時間最大降雪量(センチ)	0	0	0	0	0				
	24時間最大降雪量(センチ)			0						
暴風(暴風雪)	警報級の可能性	−	−		−		[中]	[中]	[中]	−
	陸上 最大風速(メートル)	9以下	9以下	9以下	9以下	10				
	海上 最大風速(メートル)	10	10	9以下	9以下	14				
波浪	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	−
	波高(メートル)	1.5	1	1	1	1.5				

新潟県中越の早期注意情報(警報級の可能性)

新潟県中越		12/25 11:00発表					12/25 11:00発表			
種別		25日		26日			27日	28日	29日	30日
		夕方まで	夜〜明け方		朝〜夜遅く					
		12-18	18-24	0-6	6-12	12-24				
大雨	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	−
	1時間最大雨量(ミリ)	15以下	15以下	15以下	15以下	15以下				
	3時間最大雨量(ミリ)	25以下	25以下	25以下	25以下	25以下				
	24時間最大雨量(ミリ)			50から100						
大雪	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	[中]
	6時間最大降雪量(センチ)	20	20	20	20	15				
	24時間最大降雪量(センチ)			30から50						
暴風(暴風雪)	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	[中]
	陸上 最大風速(メートル)	9以下	10	10	9以下	10				
	海上 最大風速(メートル)	13	15	15	12	12				
波浪	警報級の可能性	−	−		−		−	−	−	−
	波高(メートル)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5				

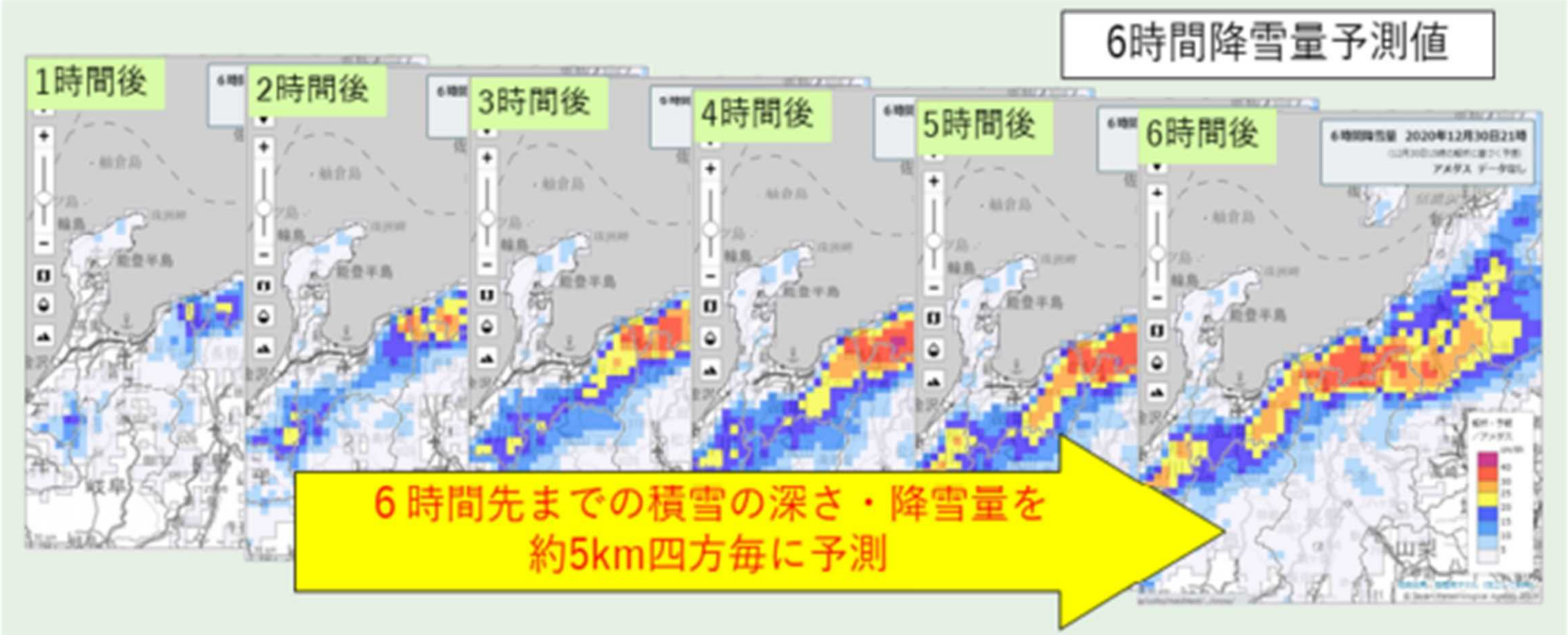
気象庁　早期注意情報　検索

雪害対応のタイミングをはかる情報

降雪短時間予報

・降雪短時間予報は、6時間先まで1時間毎の「積雪の深さ」と「降雪量」を約5km四方の格子単位で面的に予測し、1時間毎に更新されるので、雪による交通への影響等を前もって判断いただくための情報として活用可能となります。

• 降雪量は、積雪の深さの1時間毎の増加量を表します。（減少の場合は0となる）

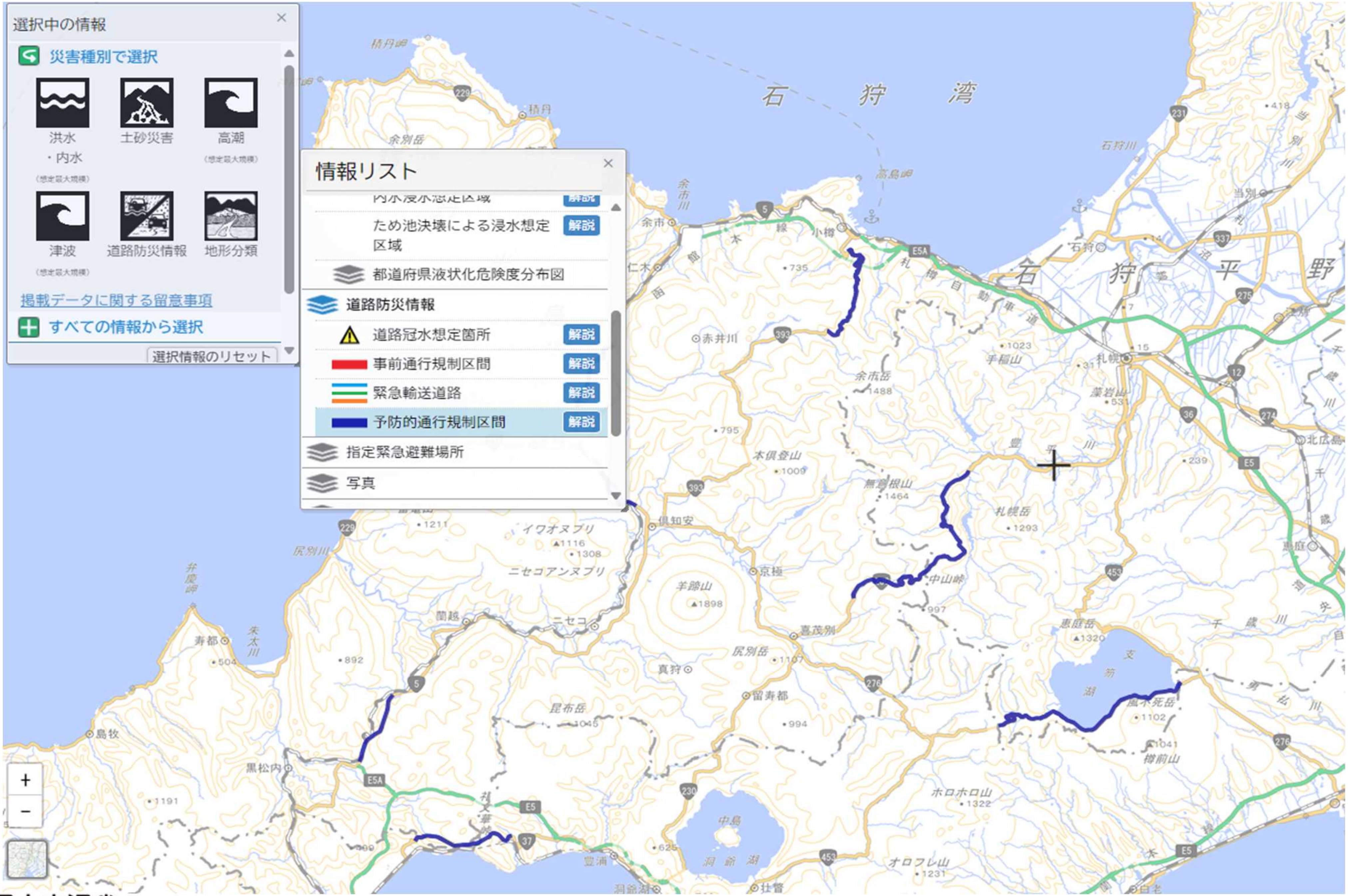


描画例（2020年12月30日15時初期値。日本時間）、単位はセンチメートル

気象庁　降雪短時間予報　検索

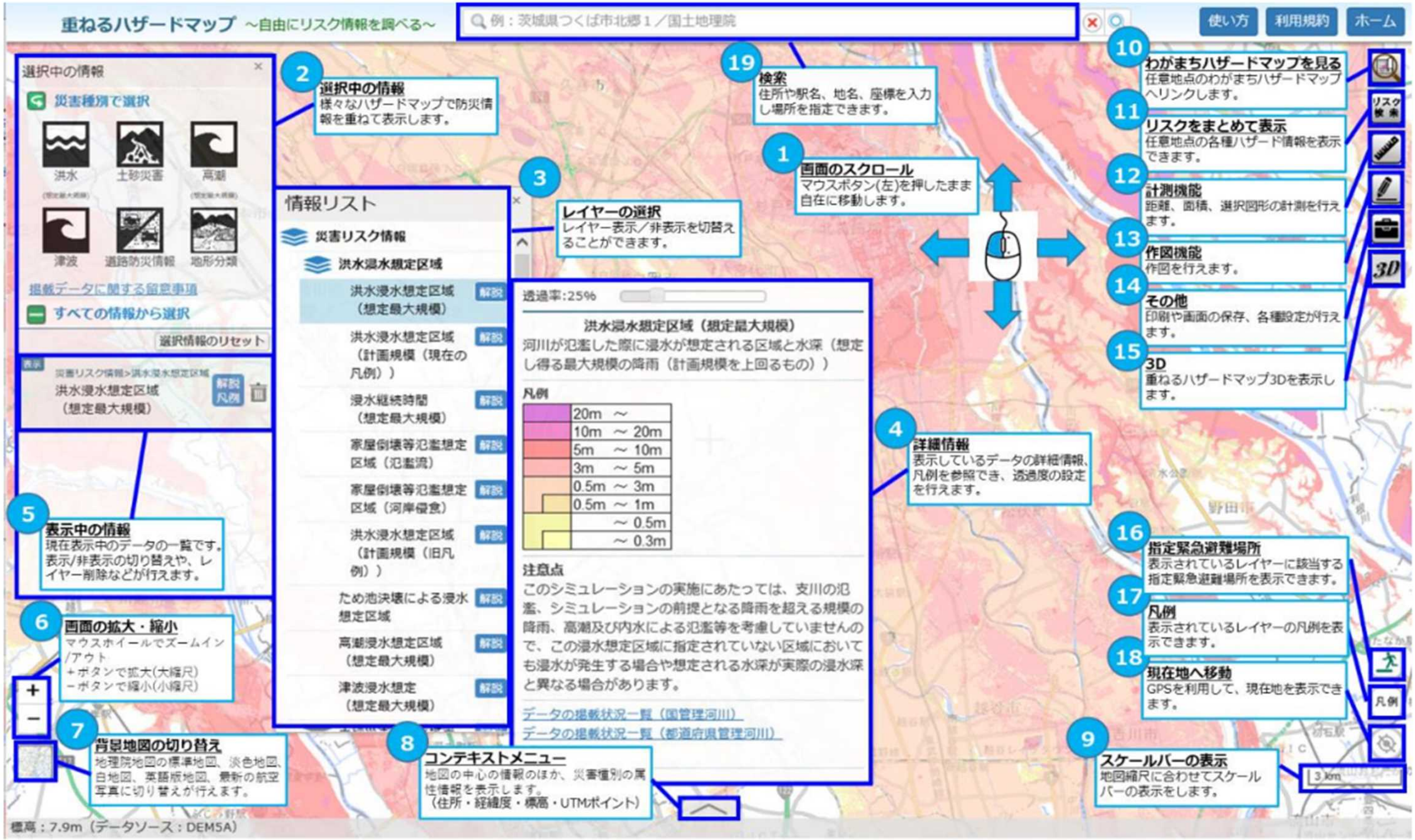
雪崩危険箇所に関する情報を事前に確認

予防的通行規制区間に関する情報を事前に確認



【参考】重ねるハザードマップで災害リスクの把握

○「重ねるハザードマップ」は、災害リスク情報を、全国どこでも重ねて閲覧できるWeb地図サイト



重ねるハザードマップ　検索

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

【参考】重ねるハザードマップで確認できる災害情報

災害リスク情報

洪水浸水想定区域

河川氾濫により、浸水が想定される区域と水深

津波浸水想定

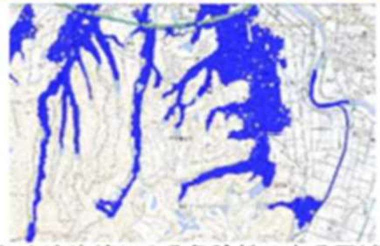
津波により、浸水が想定される区域と水深

高潮浸水想定区域

高潮により、浸水が想定される区域と水深

土砂災害警戒区域等

土砂災害のおそれのある区域

ため池決壊による浸水想定区域

ため池決壊による危険性のある区域

道路防災情報

道路冠水想定箇所

大雨により冠水するおそれがある箇所（アンダーパス等）

事前通行規制区間

災害が発生する前に「通行止」などの規制を実施する区間

予防的通行規制区間

車両の滞留が発生する前に予防的な通行止めを行い、集中的･効率的に除雪作業を実施する区間

緊急輸送道路

緊急車両の通行を確保すべき重要な道路

防災に役立つ地理情報

土地条件図

山地、台地、低地、人工地形等の地形分類を表示した地図

沿岸海域土地条件図

海底の浸食や堆積の状況、傾斜、水深等を表示した地図

治水地形分類図

詳細な地形分類及び河川工作物等を表示した地図

地形分類図

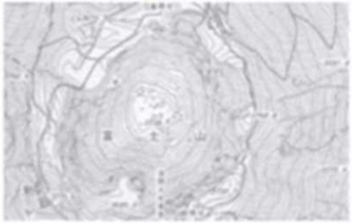
「土地分類基本調査」において整備した地形分類図

明治期の低湿地

明治期に作成された地図から、当時の低湿地分布を抽出した地図

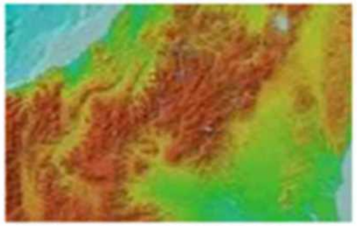
活断層図

活断層と地形分類を表示した地図

火山基本図

火山周辺の精密な地形を表示した地図

火山土地条件図

火山活動で形成された地形や噴出物の分布等を表示した地図

色別標高図

標高の変化を陰影と段彩を用いて視覚的に表現した地図

大規模盛土造成地

谷や斜面に盛土した大規模な造成宅地を表示した地図

画像出所：国土交通省国土地理院「ハザードマップポータルサイト」

【参考】自然災害リスク評価の手順

① 自然災害対応に関する取組を進める前に、まず、自社の取組の現状、自然災害に対する脆弱性(弱点)を把握する必要があります。

② まず、事業を展開する中、輸送の安全を確保する上で、どのような自然災害に遭遇する恐れがあるかを想定する必要があります。

③ そのためには、国や地方自治体が公表しているハザードマップ、過去の被災経験等から、どのような自然災害(種類、程度)のハザード(脅威)が潜んでいるか、本社及び各営業所並びに運行(航)エリアなど、事業を展開する範囲を対象に把握する必要があります。

④ 上記③の結果を踏まえ、次にそのハザードによりどの程度の被害(人的、物的、社会インフラ)が想定されるか、事業にどのような影響を及ぼすかについて、考察します。

⑤ 上記④の結果について、ハード面、ソフト面の両面から、どのような対策を講じるのが最適であるか、費用面、容易さ、リスクの大きさと発生頻度等を総合的に勘案して、何が現実的な対策かを見極めることが重要です。

【参考】自然災害リスク評価の対応状況総括表

会社全体（本社・各営業所、運行エリア）のすべての自然災害を対象とした**リスク評価と対応状況を総括表**に纏め、現状を把握。**今後の対応**については、例えば、**中長期計画**などに纏める。

拠点毎のリスクと事前の備えの見える化

※総括表は網羅的なものではない。

拠点	自然災害リスク					事前の備え							
	地震	津波	液状化	浸水	雪	耐震基準	非常電源	予備燃料	情報冗長	代替通信	止水対策	避難場所	雪対策
本社	大	小	小	大	小	○	○	○	○	○	○	○	○
営A	大	大	大	小	小	○	×	△	○	○	○	○	○
運行エリア	大	大	大	小	小	－	－	－	－	－	－	－	－
営B	大	中	中	大	大	○	○	○	○	×	×	○	○
運行エリア	大	中	中	中	大	－	－	－	－	－	－	－	－
営C	大	中	小	中	中	○	×	△	○	○	○	○	○
運行エリア	大	小	小	大	中	－	－	－	－	－	－	－	－
営D	中	小	大	中	大	○	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	中	小	大	大	大	－	－	－	－	－	－	－	－
営E	大	小	小	大	小	×	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	大	大	小	小	小	－	－	－	－	－	－	－	－
営F	大	大	小	小	小	×	×	△	○	×	×	○	○
運行エリア	大	大	小	小	小	－	－	－	－	－	－	－	－

（４）事前の備え

（４）事前の備え

自然災害対応については、平時からの「備え」が必要不可欠である。

①計画的装備	**リスク評価による最大被害を基に事前準備のレベルと内容**を検討。 防災品、**燃料**、食料の備蓄、避難施設の準備、宿泊場所の確保、**非常電源の配備**等を**計画的に実施**。
②緊急連絡網	緊急連絡網の携帯電話等の電話番号リストは**常時最新のもの**を入力。 **複数の通信・連絡手段**の確保。
③防災マニュアル	マニュアル整備は、社員・職員の役割確認、防災意識向上の意味で有意義。**「詳細化」ではなく、行動規範のような内容の方が実用的。**
④事業継続計画	**防災を経営に必要な事業活動として一体化**して考える。事業者全体で自ら策定する過程を大切に。
⑤タイムライン	「平時の準備」「直前の準備」「直後の応急」「復旧（事業継続）」に分けて、**自然災害対応のタイムラインを設定**、局面毎のリスク評価実施。

雪害に備えた計画的装備について

①計画的装備

　運輸事業者は、立ち往生車両等による大規模な渋滞が発生した場合に備え、非常食や飲料水、防寒着等は、**計画的に装備**しておく必要があります。

①雪道への備え

✓冬用タイヤへの交換
✓チェーン（チェーン規制等のため）の携行

✓ 冬用ワイパーへの交換
✓ こまめな給油
✓ 十分な車間距離の確保
✓ 時間にゆとりのある運行計画

②スタックした場合の脱出のための備え

✓スコップ、長靴、防寒着、毛布、砂、脱出マット、懐中電灯、スノーブラシ等

③万が一の滞留のための備え

✓②に加え、非常食、飲料水、携帯トイレ、本社との通信手段、ラジオ等

　地方公共団体等は、立ち往生車両に滞留するドライバーや旅客の救助や支援に備え、避難所等の開設、移動手段の確保、水や食料等の配布等を**事前に準備**

【参考】燃料の確保について

事前の備えとして、**燃料の確保及び安定供給**が重要。あるバス会社の事例

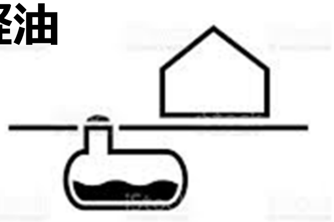
被災前

◆社用車

マイクロバス(軽油)

ワゴン車(ガソリン)

◆地下燃料タンク
→ **軽油**



★社員の通勤手段
→ **ガソリン**

被災直後

ガソリンが入手困難な状況がしばらくの間続いた。

▼

地下燃料タンクの軽油を使用してマイクロバスで**運転士を送迎**！

被災後

◆社用車　**ディーゼル車へ統一**

マイクロバス(軽油)　ワゴン車(**軽油**)

◆地下燃料タンク

①**供給頻度を高める**
（例　週１回 ➡ 週４回）

②燃料供給事業者の**複数化**

③地下燃料タンク**容量の拡張**

◆非常電源
軽油対応の非常用発電機を配備

常に使える状態に維持！

【参考】冬用タイヤについて

令和3年1月26日より、バス・トラック運送事業者は、雪道において適正な冬用タイヤを使用していることを確認することが義務付けられました。

①整備管理者は、雪道を走行する自動車のタイヤについて、溝の深さがタイヤ製作者の推奨する使用限度※よりもすり減っていないことを確認しなければなりません。
②運行管理者は、雪道を走行する自動車について、点呼の際に上記事項が確認されていることを確認しなければなりません。

※国内メーカー等の冬用タイヤでは、使用限度の目安として、溝の深さが新品時の**50%**まですり減った際にプラットホームが溝部分の表面に現れます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000264.html

タイムライン

②タイムライン（防災行動計画）

タイムライン（防災行動計画）とは、災害の発生を前提に、大規模水災害、雪害等の発生予測時刻から逆算して、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、**「いつ」「誰が」「どのように」「何をするか」**に着目して、**防災行動とその実施主体を時系列で整理**した計画になります。

留意すべき点

①**台風・大雪等は**、気象予報等から発生が**ある程度予測可能**

②例えば、積雪予報に応じて、リスクの高い路線の一時運休、速度制限を行い、積雪量予報を踏まえた計画運休、広域迂回経路による運行、輸送スケジュールの変更を実施 等

③タイムラインの目安として**大雪特別警報、大雪警報・注意報**等の発表に関する情報が活用可能（例：早期注意情報、気象台からの発表など）

④一時運休、全面運休、計画運休は、地域の人流（旅客）・物流（荷主等）に大きな影響を与えることから、**国、地方公共団体、関係者との情報共有と連携、利用者・荷主等への適時適切な情報提供が重要**

【参考】航空事業者における機材退避タイムライン

中日本航空株式会社の機材退避タイムライン（防災行動計画）の例示

「いつ」　「どのように」「何をするか」　「誰が」

時期（時間経過）	行動	担当部署
台風接近予定の7～10日前	台風情報の収集（予想進路、大きさの把握）	運航管理部
	台風対策の必要性の判断	同上
台風接近予定の5～7日前	業務部長を委員長とする「台風対策委員会」を開催し、今後の対策を決定	台風対策委員会
	台風が接近している運航所等からの情報収集	運航関係部門
	台風の接近情報を元に運航スケジュールの調整	業務部
	運航機材等の避難場所の確保及びその折衝を実施	同上
	台風対策を記載した「台風対策一覧表」を作成し、社内外に周知	同上
	機体を移送する運航乗務員を確保	運航部
台風接近予定の3～5日前	台風の影響を受ける運航所等から、避難先の運航所等へ機材の移送を開始	同上
台風接近予定の2～5日前	避難先の運航所等の格納庫等で機材を格納	
台風の通過後	台風の通過後に「台風対策委員会」により、平時の体制に戻す判断を決定	台風対策委員会
	「台風対策委員会」の決定後、避難先に格納していた機体を元の運航所へ移動	同上

出典：中日本航空株式会社からの情報により作成

【参考】鉄道利用者等への情報提供タイムライン

気象状況（気象庁における予報・気象情報の状況を含む。）	計画運休開始時刻から概ねの時間	掲載内容例	行動
台風の進路予報円（暴風域）が当該路線沿線を通過する可能性があるとの予報を発表	（例）48時間前	**計画運休の可能性を情報提供** 例） 台風第〇号の接近に伴い、・・・〇日（〇）の〇時頃から列車の運転を取り止める可能性があります。最新の気象情報と列車運行状況にご注意いただきますようお願い申し上げます	ウェブサイト、SNS、駅頭掲示等で多言語で情報提供（注）
台風の進路予報円（暴風域）が当該路線沿線を通過する可能性が高いとの予報を発表 当該路線沿線に大雨・強風等の注意報発令	（例）24時間前	**〇月〇日の運転計画（計画運休）の詳細な情報提供（随時更新）** 例） 台風第〇号の接近に伴い、・・・〇月〇日（〇）の〇時以降順次列車の運転を取り止める予定です。なお、台風の進路等によって計画が変わる場合がございます。 次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	適切なタイミングで報道機関、都道府県等へ情報提供 市区町村へ情報提供
当該路線沿線に大雨・暴風等の警報発令 当該路線沿線を台風が通過	計画運休実施	**当日の運転計画（計画運休）の詳細な情報提供（随時更新）** 例） 台風第〇号の接近に伴い、・・・〇月〇日（〇）の〇時頃から順次列車の運転を取り止め、概ね〇時までには全ての列車の運転を取り止めます。なお、台風の進路等によって計画が変わる場合がございます。・・・ 次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	（注）適宜情報を抜粋し、多言語により情報提供を行う。
当該路線沿線を台風が通過した後	（例）24時間後	**明日以降の運転再開見込みについての情報提供（随時更新）** 例） ・・・台風通過後、風雨が落ち着いた段階で、線路等の安全点検を係員が実施します。その結果、・・・倒木・土砂流出入等を確認した場合には、朝の通勤時間帯において、列車の運転が困難となる見込みです・・・。 次回のお知らせは、〇時頃を予定しています。	

出典：鉄道局プレスリリース資料「「計画運休」、鉄道各社がタイムライン作成へ」より抜粋

【参考】荷主等と連携したトラック事業者の防災について

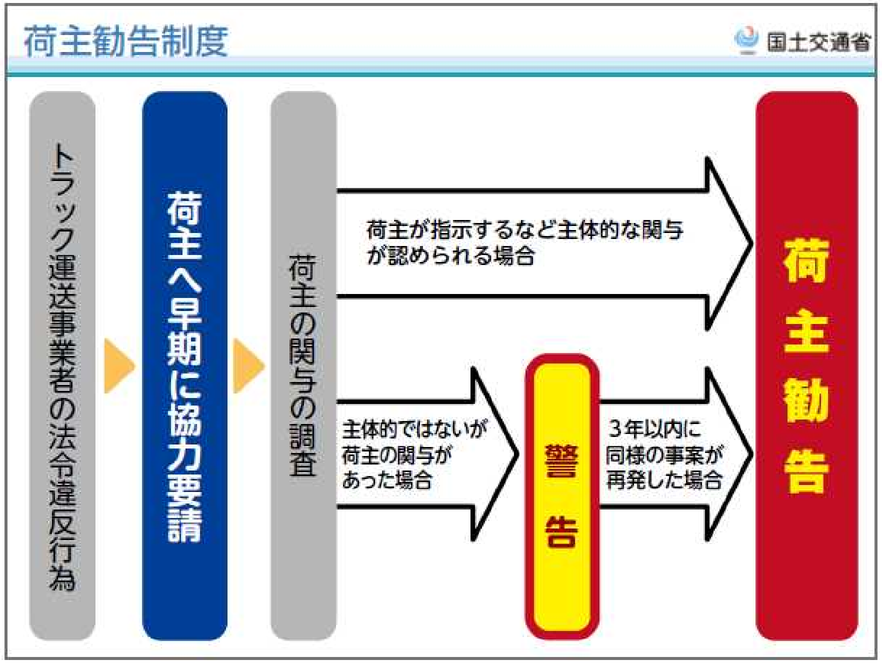
気象予報等からある程度予測可能な台風・大雪等については、国から示された「異常気象時における措置の目安」を基に、**着荷主・発荷主等と連携**を図りつつ、安全が確保されるまでの間、**運行を一時中断（計画運休）する等、予め協議・協定締結**を行うことをご検討ください。

なお、安全な輸送を行うことができないと判断したにもかかわらず、荷主等に輸送を強要された場合、**国土交通省にその旨を通報する手段**が設けられています。

⚠異常気象時における措置の目安⚠

気象状況	雨の強さ等	気象庁が示す車両への影響	輸送の目安※
降雨時	20～30mm/h	ワイパーを速くしても見づらい	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	30～50mm/h	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	**輸送を中止することも検討するべき**
	50mm/h以上	**車の運転は危険**	**輸送することは適切ではない**
暴風時	10～15m/s	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	15～20m/s	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる	
	20～30m/s	通常の速度で運転するのが困難になる	**輸送を中止することも検討するべき**
	30m/s以上	**走行中のトラックが横転する**	**輸送することは適切ではない**
降雪時	大雪注意報が発表されているときは必要な措置を講じるべき		
視界不良（濃霧・風雪等）時	視界が概ね20m以下であるときは輸送を中止することも検討するべき		
警報発表時	輸送の安全を確保するための措置を講じた上、輸送の可否を判断するべき		

※　輸送を中止しないことを理由に直ちに行政処分を行うものではないが、国土交通省が実施する監査において、輸送の安全を確保するための措置を適切に講じずに輸送したことが確認された場合には、「貨物自動車運送事業者に対する行政処分等の基準について（平成21年9月29日付け国自安第73号、国自貨第77号、国自整第67号）」に基づき行政処分を行う。



無理な輸送を強要されたら、下記へ情報提供を！

出典：国土交通省物流・自動車局

安全最優先の運行計画　事例④（トラック事業者）

自動車モード（トラック）＜ラニイ福井貨物株式会社＞

【滞留に巻き込まれた様子】

概要

2018年2月、国道8号線（福井県・石川県）で発生した大規模滞留事案（最大車両：約1,500台、期間：2日と17時間）を契機に、安全を最優先した運行計画の策定等を実施

取組内容

大雪警報等が発表され、気象による影響が見込まれる際には、対策本部（本部長：経営トップ、各部署の長）を立ち上げ、国土交通省物流・自動車局の「異常気象時における措置の目安」を参考に、事前に荷主と打合せを行い、輸配送の中止・広域迂回等を運行前に十分検討し、安全最優先の運行計画を策定・実施

気象情報は、報道、HP等で入手しており、令和3年度からは、福井県で構築している国道・県道の除雪情報をリアルタイムで提供する「みち情報ネットふくい」も活用。

①冬用タイヤは、毎年11月に新品購入し、12月初旬には全車交換完了、雪シーズン後も交換せず、履き潰すサイクル。チェーンについては全車携帯。チェーンの装着方法について全ト協のビデオを活用して教育を実施

②冬用タイヤは燃費が悪い傾向があるため、エコドライブ活動（ゆっくり発信、ゆっくり停止）を実施し、燃費は他社と比較しても遜色のないレベルを確保

【チェーン交換教習の様子】

取組の効果

輸配送の中止、ルート変更及び運行時間の変更等、安全最優先の運行計画を決定することが可能に！

（９）関係者との連携

（９）関係者との連携

運輸事業者は、関係者（以下の①、②、③）との

連携関係を構築することが防災力を高める上で重要

①地方自治体との連携

大規模な自然災害が発生した場合、運輸事業者の経営資源（要員や機材等）だけでは救助活動等に対応できない場合も想定されるため、地方自治体や国と被災情報を共有し、被災者の避難、救助、救護に向けた活動が円滑かつ迅速にできるよう、**地方自治体との間で連携関係（災害協定の締結等）を構築**しておくことが重要

②国の行政機関との連携

緊急時の警察、消防、海上保安庁への救助要請、国土交通省の地方行政機関である地方整備局、地方気象台、地方運輸局、地方航空局は、TEC-FORCEの派遣等による被災地支援することが可能。事業者からも、**防災訓練等の機会も活用**して、**国の関係機関に気軽にアプローチ**して頂き、**緊密な連携関係を醸成していくこと**が望まれる

③他の運輸事業者との連携

被災時の迅速な代替輸送を行うためには、**予め他の事業者との間で代替輸送に係る取り決め**を行っておくと、速やかに代替輸送を立ち上げることが可能。地域コミュニティにおける共助の観点からは、**同じ地域に所在する事業者間で防災の協力関係を構築しておくこと**も期待

関係者との連携による救助　事例⑤（鉄道事業者）

鉄道モード＜東日本旅客鉄道株式会社　新潟支社＞

概要　**2018年1月**

強い冬型の気圧配置の影響により、日本海側を中心に大雪に見舞われた。
当日18時56分　信越線の当該列車は走行中に東光寺（とうこうじ）踏切の安全確認のため一旦停止、再度起動しようとしたが**雪を抱えて起動不可**。
　20時46分　除雪を行い、運転再開。
　21時01分　土江踏切で安全確認のため一旦停止した際、降雪が酷くなり**運転不可能**
　翌日10時26分　機械等による除雪を行い**運転再開**

◆乗客数：約430名、
◆停車時間：約15時間

【列車が停車している状況】

取組内容

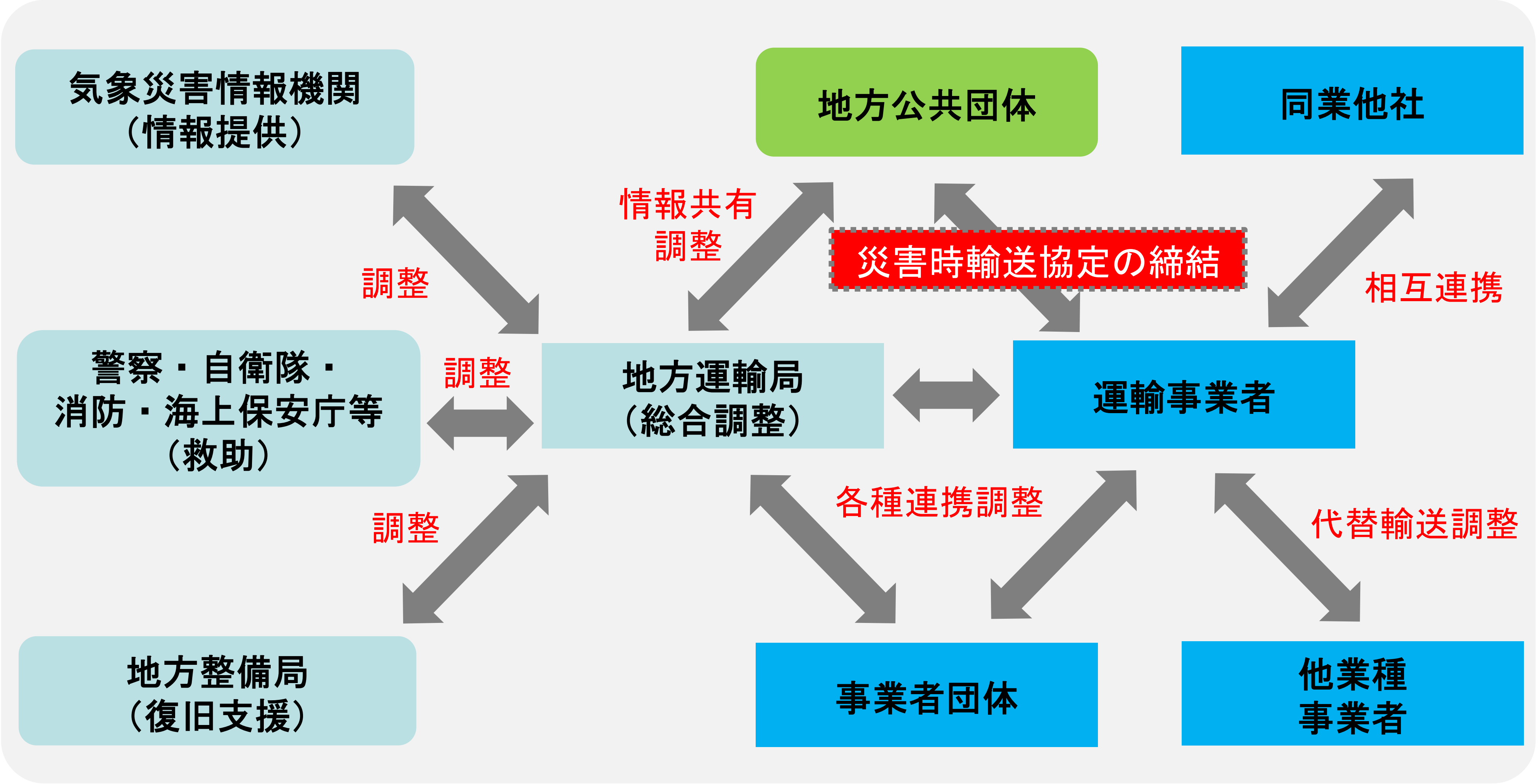
◆ 大雪に対する予測と**利用者への情報提供**
◆ 駅間停車した場合の乗客の**救助体制の脆弱性**　等

取組の効果

◆ 気象情報の他、雪況監視カメラによる**積雪情報の把握**
◆ 主要駅、列車乗務員への確認、列車巡回強化による**線区積雪情報の把握**
◆ 上記情報をもとに**早期の運行可否判断**（運行中止）、除雪体制確立の実施
◆ **自治体や警察、消防等への協力要請**、バス・タクシーとの**連携による乗客救済対策**
◆ 除雪作業の進捗状況、運転再開見込み等をHP, SNS等を活用した**タイムリーな利用者への情報提供**　等

「顔の見える関係」の構築

大規模な自然災害が発生した場合に備え、国、地方公共団体、運輸事業者との連携のトライアングルを構築し、日頃から「顔の見える関係作り」や「災害協定」を締結しておくことで、何処に連絡すれば、どのような対応を行ってくれるか判断できます。



解説 「顔の見える関係」の具体的なイメージとしては、異動等により担当者の交代があった場合でも、公用（社用）携帯番号を交換でき、困った時に相談が出来るレベルを想定

TEC-FORCEの派遣

　国土交通省緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」は、以下の単位であらかじめ組織され、自然災害により重大な人的・物的被害が生じる又はそのおそれがある場合に、被災現場や被災地域の自治体に派遣され、**被害の拡大防止や早期復旧等を目的**に活動します。

・地方整備局（北海道開発局）

・地方運輸局

・地方航空局

・気象庁（JETT）

・国土交通本省

滞留車両乗員への食料等の提供
（令和4年12月17日からの大雪）

除雪用機械による除雪作業
（令和4年12月17日からの大雪）

　運輸事業者に密接に関連がある**地方運輸局TEC-FORCE**は、以下の班により構成され、被災自治体等の支援を行います。

・リエゾン班
　被災地域の地方公共団体等に派遣され、被災状況の情報収集、支援ニーズの把握、助言及び関係機関との情報共有等を実施します。

・輸送支援班
　緊急・代替輸送に関する情報収集、支援ニーズの把握、調整等を実施します。

・被害状況調査班
　踏査等により、被災状況を調査します。

【参考】運輸事業者等に対する九州運輸局の支援について

①緊急物資輸送に関する調整

◆関係事業者との連絡・調整を行います。
◆営業倉庫の被災状況等を確認し、支援物資の保管等が利用可能な「民間物資拠点のリスト」を提供します。
◆物流専門家派遣のサポートを行います。

＜対応事例＞
◎令和2年7月豪雨
熊本県、大分県、福岡県へ近隣の利用可能な「民間物資拠点のリスト」を提供。

②輸送力の確保

◆緊急物資輸送や災害対応人員等の輸送のために関係法令の弾力的な運用を行います。

＜対応事例＞
◎令和2年7月豪雨
避難者や支援要員の輸送等を行う貸切バスの営業区域について法令の弾力的な運用を実施。
◎令和元年5月鹿児島県屋久島豪雨
屋久島への自衛隊員派遣のために船舶の定員を臨時増加。

③代替輸送の確保・調整

◆鉄道等が被災した際の公共交通機関の代替輸送等について、交通事業者や関係団体との連絡・調整を行います。

＜対応事例＞
◎令和2年7月豪雨
鉄道事業者を訪問し、代替輸送に関する調整を実施。

④情報発信

◆被災自治体や観光関係者との連絡調整を行います。
◆風評被害払拭のための情報発信を行います。

＜対応事例＞
◎令和2年7月豪雨
取組の実現に適したアドバイザーを派遣。

◆【参考】行政手続きの弾力的な運用
被災自動車にかかる自動車重量税の還付など、弾力的な運用を行います。

⑤復旧・復興に関する支援

（鉄道施設の復旧支援）
◆被災した鉄道の早期復旧に向け、事業者及び関係機関と連携し技術的支援を行います。

＜対応事例＞
◎令和2年7月豪雨
被災状況を確認するとともに、代替輸送や今後の復旧事業における支援ニーズの意見交換を実施

（観光・宿泊施設の復旧関係）
◆復旧のための補助制度、面的復興に関するサポート等を行います。

リエゾンの派遣に、ご理解とご協力をお願いします！

➢ **リエゾンへの情報提供をお願いします。（被害状況、公共交通機関の被災による滞留者等に関する情報、被災者の避難情報　等）**
公共交通機関の運行（航）状況や被害状況等の情報提供を災害対策本部へ行うとともに、物資や人員等の輸送にかかる要望等を九州運輸局内で共有し、必要に応じて交通・観光関係団体等との連絡・調整を行います。

【直近の派遣実績】

・令和２年７月	令和２年７月豪雨	：福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県 【各県庁へ派遣　延べ61人】
・令和２年９月	台風１０号	：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県 【各県庁へ派遣　延べ17人】
・令和３年７月	令和３年７月１日からの大雨	：熊本県、鹿児島県 【各県庁へ派遣　延べ4人】
・令和３年８月	令和３年８月の大雨	：福岡県、佐賀県、長崎県 【各県庁へ派遣　延べ18人】
・令和３年９月	台風１４号	：ＪＲ九州（鉄道インフラ復旧支援班）【ＪＲ九州へ派遣　延べ7人】

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

【参考】運輸事業者等に対する北陸信越運輸局の支援について

計画の概要

●北陸信越運輸局では、令和2年の雪害等を踏まえ、関係部局の連携を一層推進し、乗員保護に関する実効性を高めることを目的として令和3年11月に「雪害時の乗員保護活動計画」をとりまとめた。

●国等が管理する道路において、積雪に伴う大規模な立往生が発生し、滞留車両の開放に長時間を要すると見込まれる場合に、自治体等関係機関と連携を図りながら、滞留車両の乗員への物資の提供、安全確保等の乗員の保護活動を行う。

●運輸局の役割は、乗員の避難場所の確保、移送手段の確保、物資の運搬手段の確保など。

覚書の概要

経緯は、乗員保護計画策定直後、運輸局と管轄する各県旅館ホテル組合事務局（新潟、長野、富山、石川）との間で、宿泊施設の手配に係る連絡体制は構築したものの、手配あたっての手順や、宿泊費用額等、具体の動きについて検討する必要があった。この検討を進める中、各県組合からは要請を受けるにあたり、書面を作成し、上記動きについて明確化するよう要望があった。

＜覚書の内容と効果＞

運輸局から組合に協力要請を行うときの手順・連絡体制、要請があった際に組合が施設の手配等を調整すること等、また、宿泊等の費用負担は管理道路に応じて整備局・NEXCOが応じることや、具体の宿泊料金目安を記載。これら手順等が書面化され、それぞれの役割が明確化されたことにより、事案発生時において、ホテル・旅館の手配をスムーズに行うことが可能となり、滞留車両の乗員に安心・安全な避難所を確保できることを期待

覚書の締結状況

●直轄国道　各県旅館ホテル生活衛生同業組合、北陸信越運輸局、北陸地方整備局で締結
【新潟県、富山県】令和4年11月14日締結、【長野県※、石川県】令和4年12月5日締結

●高速道路　各県旅館ホテル生活衛生同業組合、北陸信越運輸局
東日本高速道路㈱新潟支社（新潟、長野）、中日本高速道路㈱金沢支社（富山、石川）で締結。
【新潟県】令和4年11月14日締結、【富山県】令和4年11月17日締結、【石川県】令和4年12月5日締結、【長野県※】令和4年12月9日締結

※長野県組合、北陸地方整備局、NEXCO東日本新潟支社との締結は、新潟・長野県境において、新潟県側のそれぞれの管轄で滞留が発生した際、長野県側に避難させることも想定して締結

新潟県旅館ホテル組合との締結式

○日時
令和4年11月14日（月）
○場所
北陸地方整備局　合同会議室
○出席者
・新潟県旅館ホテル生活衛生同業組合
理事長
・北陸信越運輸局長
・北陸地方整備局長

ＮＥＸＣＯ東日本新潟支社との締結

○日時
令和4年11月14日（月）
○場所
北陸信越運輸局　局長室
○出席者
・新潟県旅館ホテル生活衛生同業組合
理事長
・東日本高速道路株式会社
新潟支社長

本日のまとめ

１．経営トップの責務

①大規模災害時は経営トップの判断が必要

・**降雪・積雪の予測はある程度可能** **一部運休 → 全面運休 → 一部再開 → 全面再開の判断**

・関係機関との経営資源（ヒト・モノ・カネ）の選択と集中

②中長期計画と投資

２．防災の基本方針

①防災の基本方針は、経営トップが決裁

②優先順位　**① 人命最優先（避難・救助・救護の原則）**　→　**② 事業継続**

③防災の基本方針の対象者　→　**すべての社員・職員にとって重要**

３．リスク評価

①降雪・積雪の状況・予報、過去の積雪状況等を活用して本社・営業所及び運行（航）エリアの雪害の可能性を把握し、事業への影響度を想定

②今生じている被害には、最新の気象予報・警報、道路交通情報道路、路線等サイト設置カメラ等から情報を収集し、積雪や視界不良による運行中の立ち往生等を防止するための迅速な判断と対応が極めて重要

４．事前の「備え」

①リスク評価に応じた備えは広範囲だが、**日常の事業活動に防災の視点を追加**

②上記３．の結果を踏まえ、**雪シーズン前**に、「事前の備え」を行い、**降雪・積雪情報の入手先**を確認

③予測可能な雪害等に対しては**タイムラインを策定**し、対応を実施

④**運輸事業者と地方自治体との間で連携関係（災害協定の締結等）を構築**し、迅速な対応を確保

1. 頻発化、激甚化する自然災害

✓雪害の発生と被害状況

✓被災経験から得られた課題と対応

2. 運輸防災マネジメントのポイント

✓経営トップの責務

✓安全方針と防災の基本方針

✓リスク評価

✓事前の備え

✓関係者との連携

3. その他のポイント

✓他事例からの学び

✓参考情報

他事例からの学び

■他事例からの学び

　自然災害対応の取組は、自然災害が実際に発生しない限り、その成果が見えにくいのも事実です。このため、**実際の自然災害に対応した同業他社、他モードの事業者の取組とその成果と教訓、その後の改善の取組状況を学び、「他山の石」として、自社の取組に反映させること**が効果的と考えられます。

【参考】大臣官房運輸安全監理官室は、以下のWEB サイトで取組事例を公開しています。

【国交省 取組事例】 https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html

現在、自然災害への対応に関する取組事例を収集中、今後も追加予定です。

参考となるWeb情報等

■大雪・暴風雪に関する最新の防災気象情報（気象庁国土交通省）

大雪・暴風雪に関する最新の防災気象情報に関するポータルサイトの活用により、早め早めの対応が可能となります。

気象庁　大雪・暴風雪　防災気象情報　　検索

参考となるWeb情報等

■川の防災情報（国土交通省）

　<u>雪崩、融雪による河川の増水に伴う二次災害</u>にも十分な注意が必要。原則、国または都道府県等が管理している一級河川、二級河川の情報（国、都道府県等が管理している水位観測所、雨量観測所等の情報）を対象とし、目的に応じて必要な情報を探すことができます。

※「気象警報・注意報、土砂災害警戒情報」「洪水キキクル（危険度分布）」「土砂キキクル（危険度分布）」は気象庁ウェブサイトへリンクしています。
※「川の水位情報」は危機管理型水位計運用協議会が運用するホームページへリンクしています。
※「Lアラート」は、市町村等が発令した避難指示などの災害関連情報を、一般財団法人マルチメディア振興センターが収集、メディア等に対し一斉に配信する災害情報共有システムです。
※掲載の情報には、無人観測所から送られてくるデータを観測後直ちに表示しているものが含まれており、機器故障等による異常値がそのまま表示されている可能性があります。
他の水位情報、気象情報も併せて確認してください。

参考となるWeb情報等

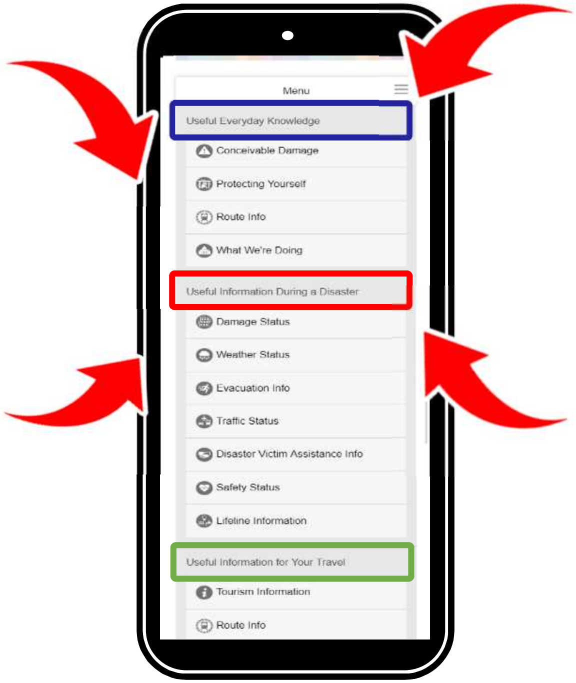
■防災ポータル/ Disaster Prevention Portal（国土交通省）

国土交通省や各関係機関等の情報提供ツールを一元化して、多言語化やスマートフォン対応等により、国内外の方々が平時から容易に防災情報等を入手できるよう、防災ポータルを公開しています。

〈災害時、見てほしい情報〉

関係機関の情報提供ツールが

一元化



〈日頃から知ってほしい情報〉

〈旅のお役立ち情報〉

参考となるWeb情報等

〇訪日外客等への災害情報提供

日本政府観光局（JNTO）等にて、自然災害発生時等に役立つ各種情報提供が行われています。

〇多言語コールセンター「Japan Visitor Hotline」（050-3816-2787）

・病気、災害等、非常時のサポート及び一般観光案内を実施。

・365日、24時間、英語・中国語・韓国語で対応。

〇公式Twitter／微博（Weibo）「Japan Safe Travel」

自然災害に関する警報・注意報、各交通機関の交通障害、感染症や熱中症の注意喚起など訪日中の旅行者の安心・安全につながる情報を配信。

※URL(X)：https://twitter.com/JapanSafeTravel

※URL(微博)：https://weibo.com/u/7385501623

〇スマートフォン向けアプリ「Safty Tips」

日本国内における緊急地震速報、津波警報、気象特別警報、噴火速報、避難情報、熱中症情報、Jアラート等をプッシュ型で通知できる他、対応フローチャートやコミュニケーションカード等、災害時に必要な情報を収集できるリンク集等を掲載しているもので、観光庁が監修しています。対応言語は15言語（英語・中国語（簡体字/繁体字）・韓国語・日本語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語・インドネシア語・タガログ語・ネパール語・クメール語・ビルマ語・モンゴル語）です。

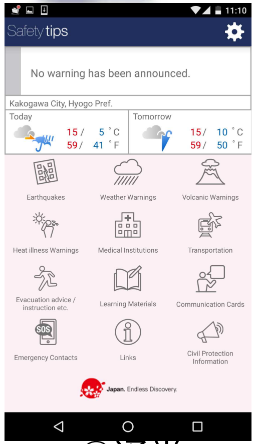
iPhone　Android

〇JNTOグローバルウェブサイト

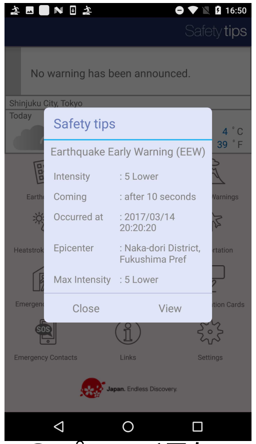
このウェブ内のImportant Notice内の「Japan Safe Travel Information」で、災害情報、主な鉄道・空港・航空の情報、医療関係情報等を提供。

※URL：https://www.japan.travel/en/news/JapanSafeTravel/

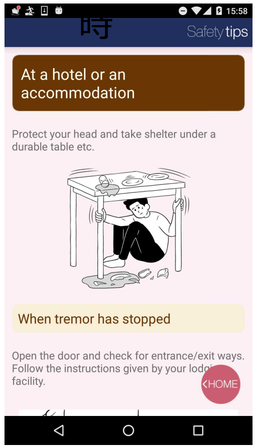
※Safety Tips Appにおける地震発生時のプッシュ通知



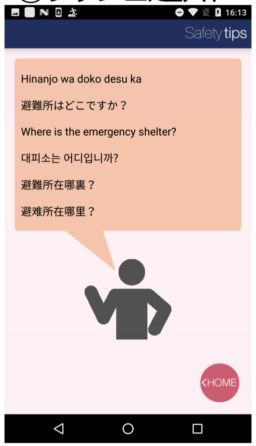
①通常時



②プッシュ通知



③取るべき行動



ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｶｰﾄﾞ

※詳しくはコチラ➡ https://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/safetravelinfo.html

ご清聴ありがとうございました。